

吉川市人口ビジョン

令和4年3月

目次

第1章 吉川市人口ビジョンの概要	1
1 吉川市人口ビジョンの位置づけ	1
2 吉川市人口ビジョンの対象期間	1
3 国の長期ビジョンについて	2
(1) 国の長期ビジョンの概要	2
(2) 国の高齢化の現状と見通し	3
(3) 国の長期ビジョンにおける人口の長期的展望	4
4 埼玉県の人人口ビジョンについて	5
(1) 埼玉県の年齢3区分別人口推計	5
(2) 埼玉県の年齢3区分別人口の構成比の推移と高齢者の増加率	6
(3) 埼玉県の人口ビジョンにおける人口の将来展望	7
第2章 吉川市の人口分析	8
1 人口の推移	8
(1) 国勢調査人口の推移	8
(2) 住民基本台帳人口の推移	9
(3) 年齢別人口の推移	10
(4) 高齢化の状況	12
2 人口動態	14
(1) 自然動態	14
(2) 社会動態	19
3 その他の人口データ	24
(1) 昼間人口	24
(2) 未婚率について	26
(3) 産業別人口	27
第3章 将来人口の推計と分析	30
1 将来人口推計の方法	30
(1) 将来人口推計の時点	30
(2) 将来人口推計の単位（地域区分）	30

(3) 推計手法	30
(4) 仮定値の設定	30
(5) 特殊要因	32
2 将来人口推計	34
(1) 基本推計結果	34
(2) 年齢3区分別人口推計	35
(3) 地区別人口推計	39
3 人口の変化が市の将来に与える影響	48
第4章 将来展望のための調査・分析	49
1 市民意識調査・転入者調査の結果	49
(1) 調査概要	49
(2) 市民意識調査について	49
(3) 転入者調査	66
2 第6次総合振興計画の策定過程における市民参画からの意見	68
第5章 目指すべき将来の方向	70
1 まとめ	70
(1) 人口	70
(2) 市民の評価	71
2 目指すべき将来の方向	73
第6章 人口の将来展望	74

第1章 吉川市人口ビジョンの概要

1 吉川市人口ビジョンの位置づけ

「吉川市人口ビジョン」は、本市における地方人口ビジョンとして、本市における人口の現状分析を行うことで、本市の人口の現状と将来方向に関して、長期的な視点から今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

本ビジョンは、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を検討する上で、重要な基礎として位置付けられます。

なお、地方人口ビジョンを策定する際に、国が定める「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案するとともに、人口の将来展望にあたり、都道府県の人口との比較検証等を行うことが望ましいとされているため、ここでは、国の長期ビジョン及び埼玉県の人人口ビジョンについても触れています。

2 吉川市人口ビジョンの対象期間

吉川市人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンと合わせ、令和42（2060）年とします。

3 国の長期ビジョンについて

(1) 国の長期ビジョンの概要

令和元年12月に改訂された国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」では、人口問題に対する基本認識や、目指すべき将来の方向等について、以下のように示されています。

① 人口問題に対する基本認識

「人口減少時代」の到来

② 今後の基本的視点

◆3つの基本的視点

- ・「東京一極集中」の是正
- ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ・地域の特性に即した地域課題の解決

◆国民の希望の実現に全力を注ぐことが重要

③ 目指すべき将来の方向

◆将来にわたって「活力ある日本社会」を維持すること

- ・若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する。
- ・人口減少に歯止めがかかると、2060年に1億人程度の人口が確保される。
- ・人口構造が「若返る時期」を迎える。
- ・「人口の安定化」とともに「生産性」の向上が図られると、2050年代に実質国内総生産（GDP）成長率は、1.5～2%程度が維持される。

④ 地方創生がもたらす日本社会の姿

◆地方創生が目指す方向

- ・自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す。
- ・外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。
- ・地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。
- ・東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。

地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく。

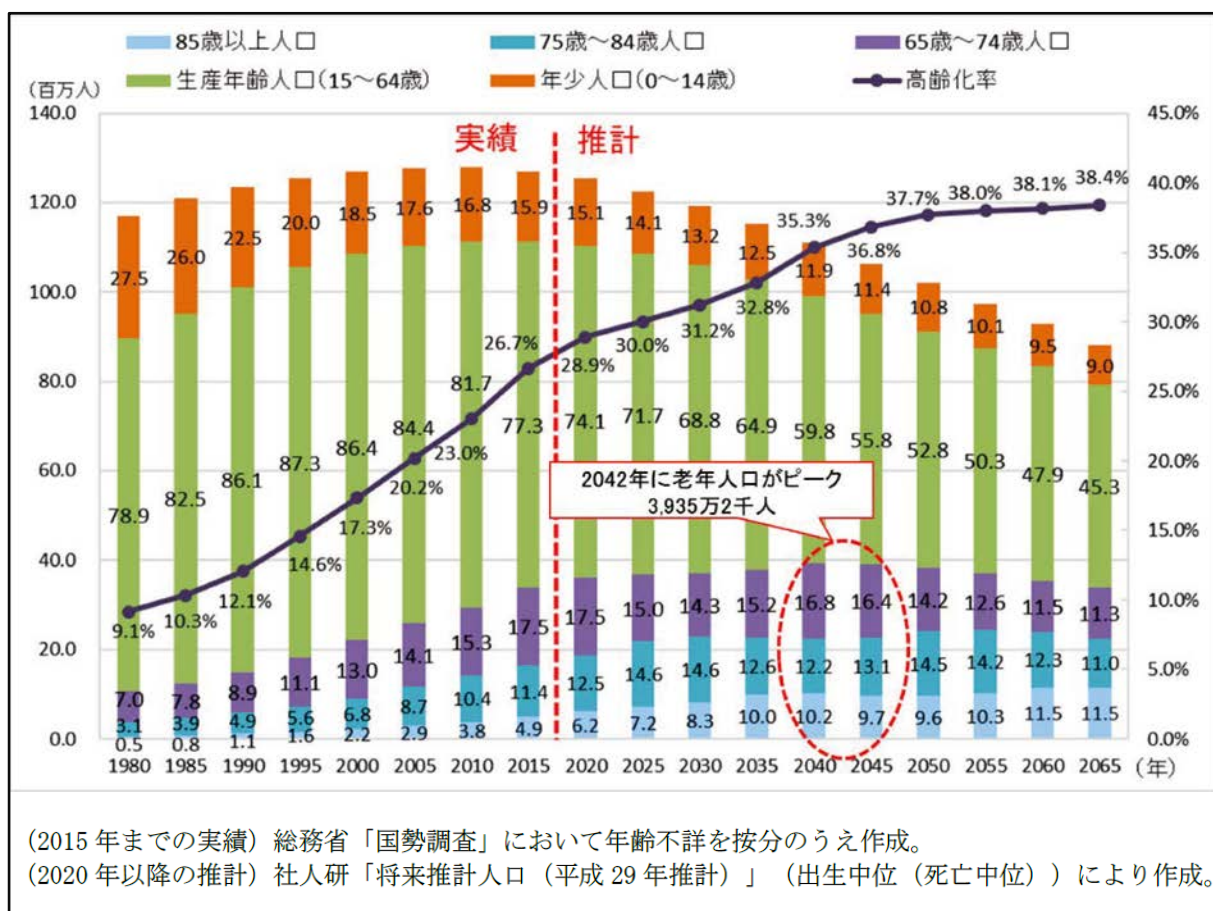
(2) 国の高齢化の現状と見通し

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」（出生中位（死亡中位））によると、令和 42（2060）年の総人口は 9,284 万人まで減少すると推計されています。

65 歳以上人口は、平成 27 年の国勢調査で 3,380 万人であったところから、令和 24（2042）年に 3,935 万 2 千人まで増えピークを迎えると推計されています。

年齢 3 区分別人口の割合でみると、65 歳以上の割合は平成 27 年では 26.7%でしたが、令和 42（2060）年では 38.1%に増加するものと見込まれています。

図 国の年齢 3 区分別人口と割合の推移と見通し



資料 まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）

(3) 国の長期ビジョンにおける人口の長期的展望

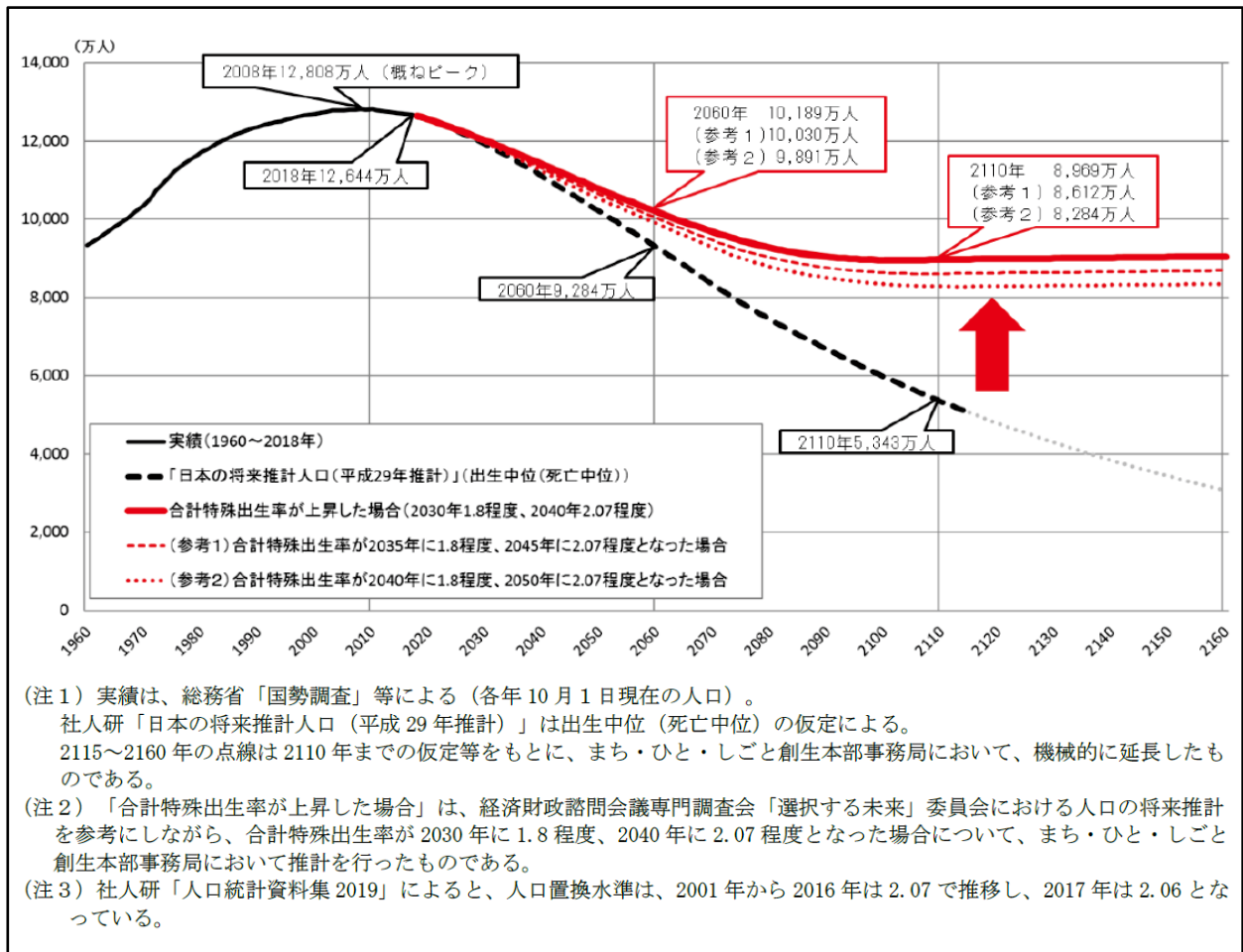
国の人口は、平成 20 (2008) 年のピーク (12,808 万人) を境に、人口減少の局面に入ったとされています。

国の長期ビジョン (令和元年改訂版) では、活力ある地域社会を維持するためには、人口減少に歯止めをかけなければならず、「まず目指すべきは、特に若い世代の結婚・出産・子育ての希望に取り組み、出生率の向上を図ることである」とし、その上で、「人口減少を和らげることに限らず、人口減少に適応した地域をつくる必要もある」としています。

国の推計では、仮に合計特殊出生率が、令和 12 (2030) 年に希望出生率である 1.8 程度、令和 22 (2040) 年に人口置換水準である 2.07 程度まで上昇すると、令和 42 (2060) 年の人口は 10,189 万人となり、長期的には 9,000 万人程度でおおむね安定的に推移するとしています。

なお、仮に合計特殊出生率が 1.8 や 2.07 となる年次が 5 年ずつ遅くなると、将来の人口がおおむね 300 万人程度少なくなると推計されています。

図 国の総人口の推移と長期的な見通し



資料：まち・ひと・しごと創生長期ビジョン (令和元年改訂版)

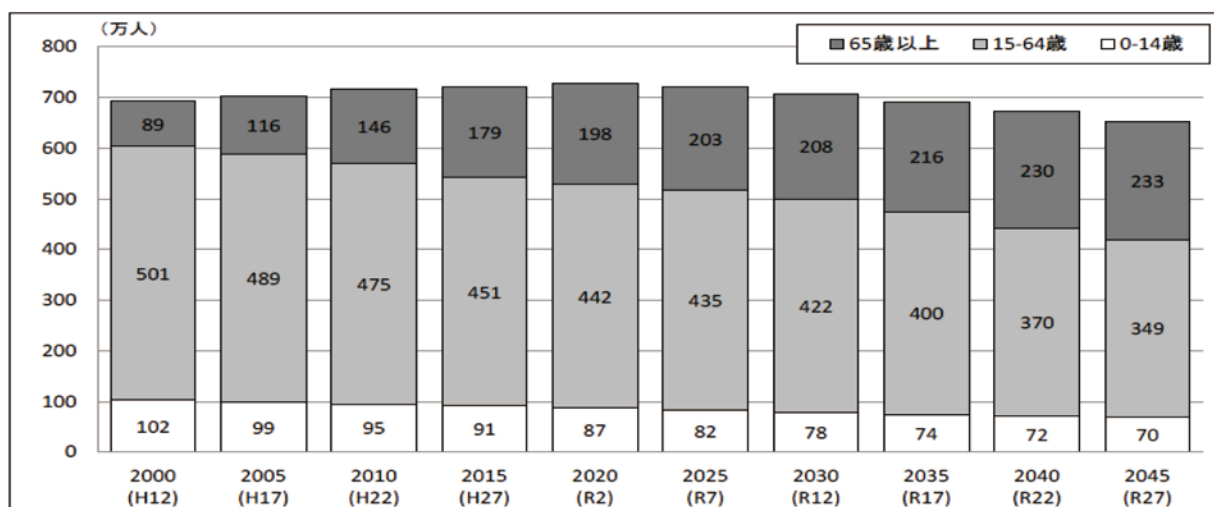
4 埼玉県の人口ビジョンについて

(1) 埼玉県の年齢3区分別人口推計

埼玉県の人口はピークを迎えつつあり、今後10年間で、人口減少による社会構造の大きな変化が始まると予想されています。

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」の推計によると、年齢3区分別人口推計では、65歳以上人口は、令和2年の198万人から令和27（2045）年には233万人まで増加するものと見込まれています。

図 埼玉県の年齢3区分別人口の推移と見通し



（2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口」を基に作成）

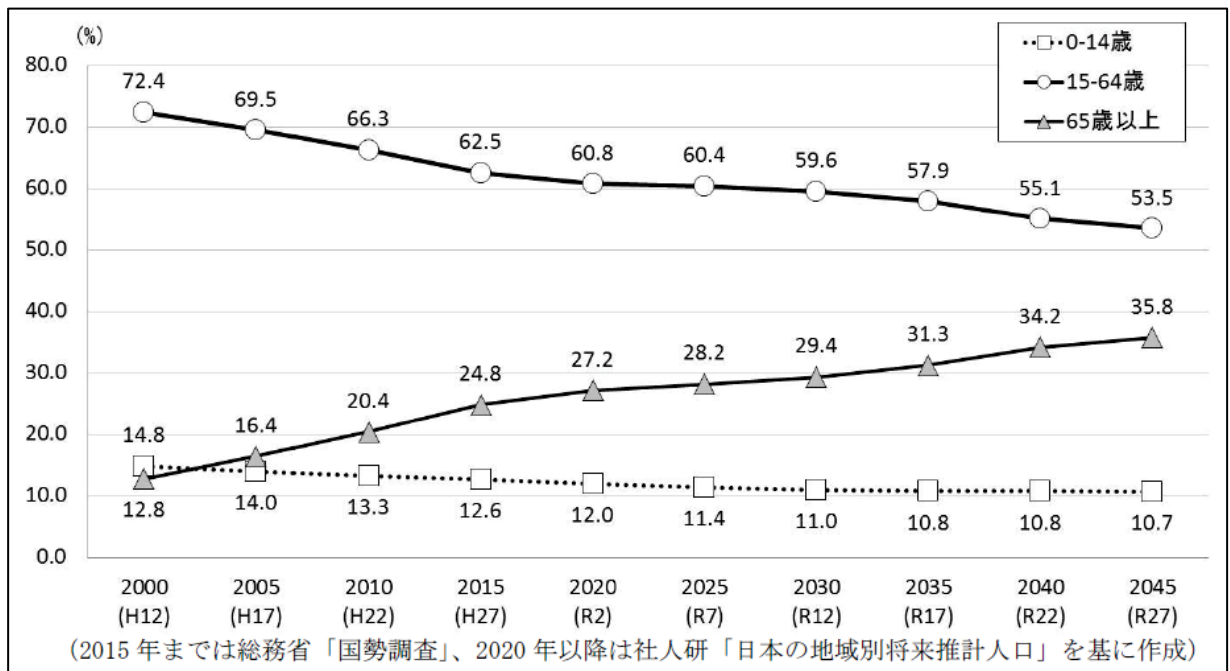
資料：第2期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度～令和6年度）

(2) 埼玉県の年齢3区分別人口の構成比の推移と高齢者の増加率

年齢3区分別人口構成比で見ると、65歳以上は令和2年では27.2%でしたが、令和27(2045)年では35.8%に増加する一方、15~64歳の生産年齢人口は60.8%から53.5%に、14歳以下の年少人口は12.0%から10.7%に減少するものと見込まれています。

なお、平成27(2015)年から令和7(2025)年にかけての65歳以上人口の増加率は12.7%で全国5位、さらに75歳以上の人口では増加率は56.4%となり、全国1位となる見込みとなっています。

図 埼玉県の年齢3区分別人口割合の推移と見通し



資料：第2期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度～令和6年度）

図 都道府県別高齢者人口推計

高齢者（65歳以上）					後期高齢者（75歳以上）						
順位	都道府県	2015年 (平成27年)	2025年 (令和7年)	増加数	増加率	順位	都道府県	2015年 (平成27年)	2025年 (令和7年)	増加数	増加率
1	沖縄県	28.2	36.2	8.0	28.2%	1	埼玉県	77.3	120.9	43.6	56.4%
2	宮城県	60.0	69.6	9.6	16.0%	2	千葉県	70.7	107.2	36.5	51.6%
3	福岡県	132.1	149.2	17.1	12.9%	3	神奈川県	99.3	146.7	47.4	47.7%
4	茨城県	78.0	87.9	9.9	12.71%	4	愛知県	80.8	116.9	36.0	44.6%
5	埼玉県	180.4	203.4	22.9	12.70%	5	大阪府	105.0	150.7	45.7	43.6%

(注) H27 高齢者人口には人口構成比により按分した年齢不詳人口を含む。増加率は1人単位で算出。
(社人研「日本の地域別将来推計人口」を基に作成)

資料：第2期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度～令和6年度）

(3) 埼玉県人口ビジョンにおける人口の将来展望

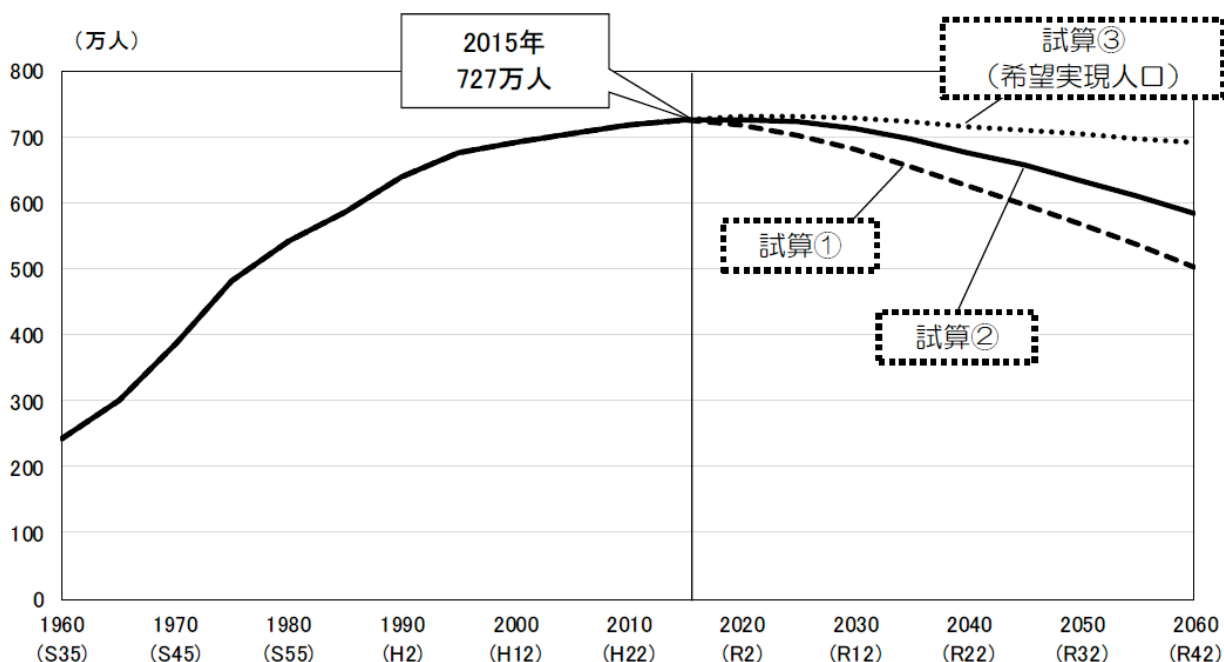
令和2年3月に策定された埼玉県人口ビジョンでは、平成27年までの国勢調査人口と、令和2年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」の推計人口により、令和22（2030）年までの将来人口が推計されています。

埼玉県全体の人口では、平成27年には727万人でしたが、令和2年には734万人となっており、人口が増加していますがピークを迎えつつあります。

仮に出生率が低い水準のまま推移し、社会増が収束した場合は令和42（2060）年に500万人程度（試算①）、社会増を現状維持とすると、580万人程度（試算②）と見込まれています。

なお、仮に合計特殊出生率が令和12（2030）年に1.78、令和22（2040）年に2.07程度まで上昇すると、令和42（2060）年の人口は700万人を切る程度（試算③）と推計されています。

図 埼玉県の人口の推移と将来推計



資料：第2期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2～令和6年）

第2章 吉川市の人口分析

1 人口の推移

(1) 国勢調査人口の推移

国勢調査人口の推移について、国及び埼玉県と比較しました。

(資料：国勢調査、時点：各年10月1日現在)

図 吉川市の人口の推移（国勢調査）

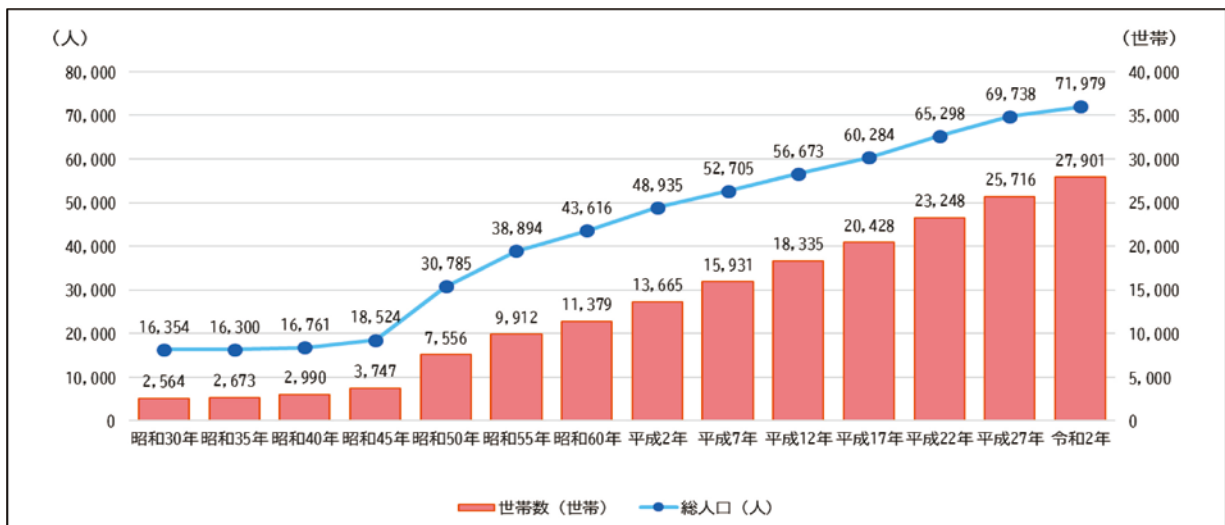
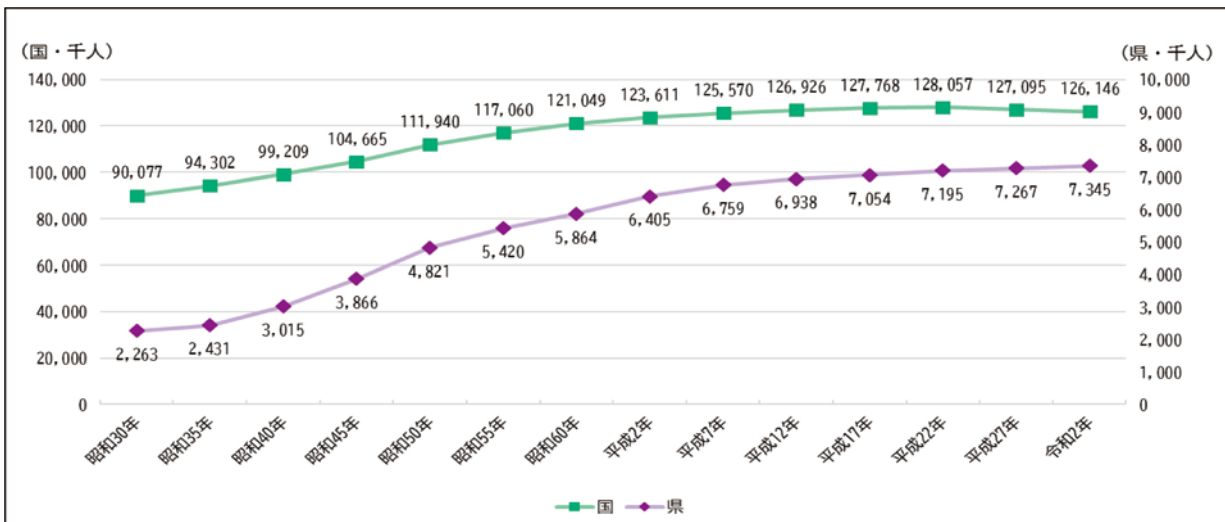


図 国・埼玉県の人口の推移（国勢調査）



分析

- ・本市では、昭和40年以降、着実に人口増加を続けています。
- ・国では、平成22年の調査をピークに減少傾向に転じています。
- ・埼玉県では、増加を続けていますが、増加率は鈍化しています。

(2) 住民基本台帳人口の推移

本市の人口の推移について、市域全体と5地区に分けて分析を行いました。

(資料：住民基本台帳人口、時点：各年4月1日現在)

図 吉川市の市域全体の人口の推移

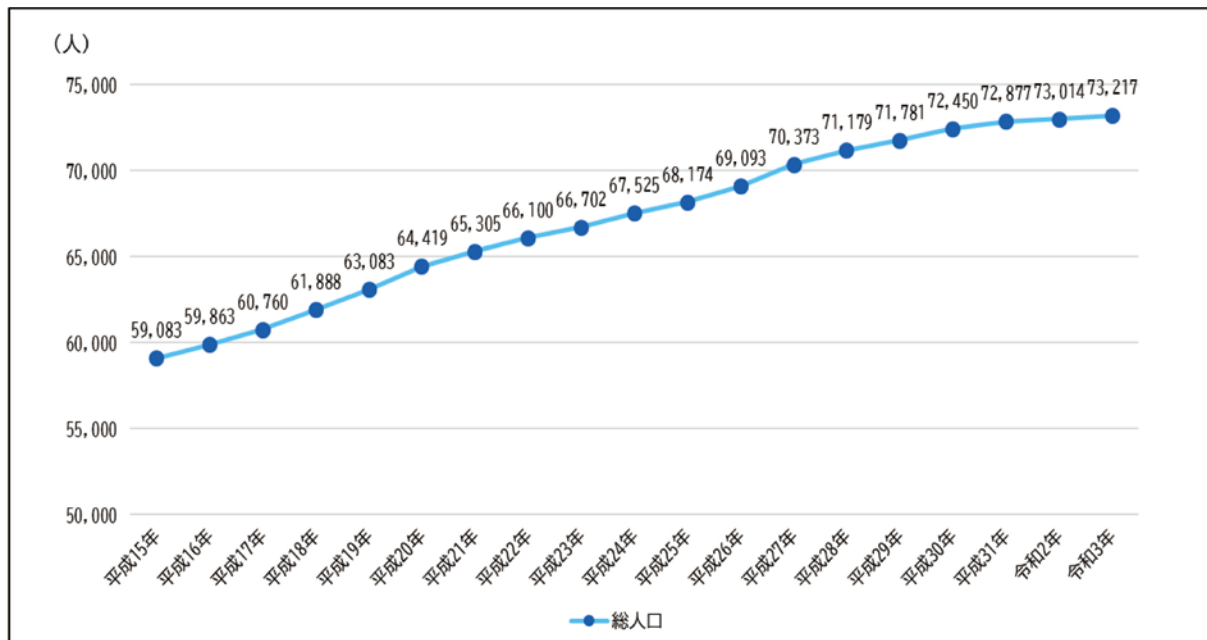
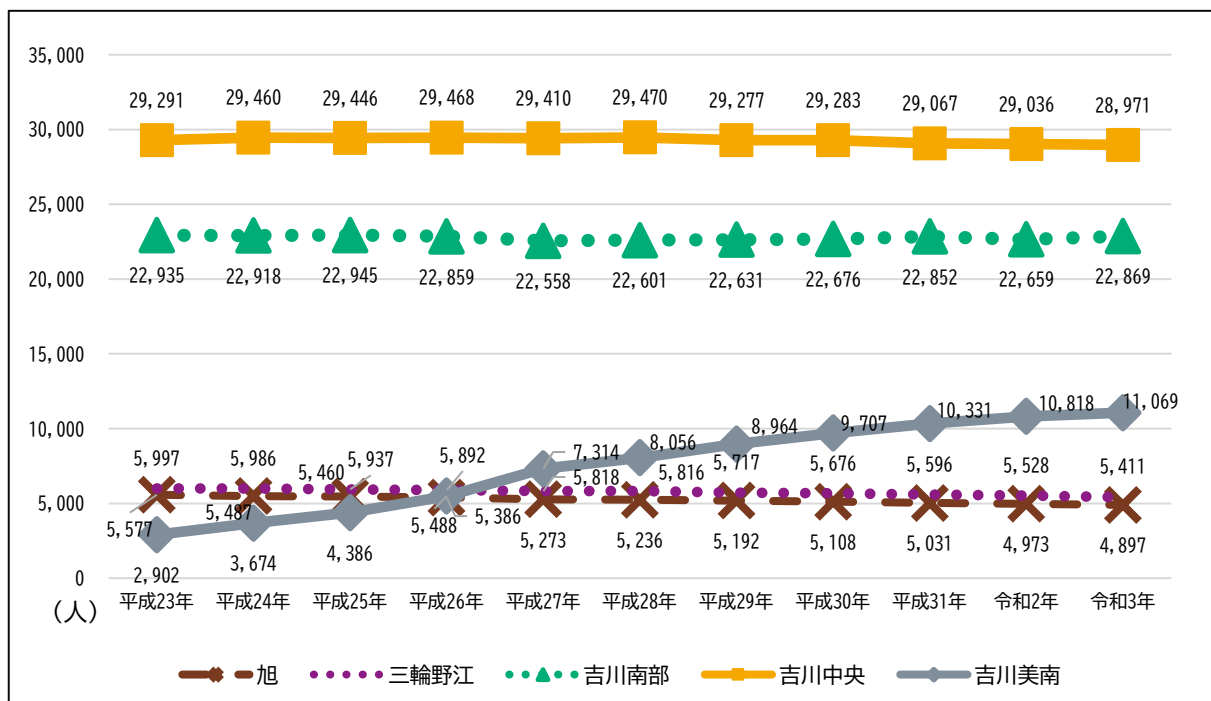


図 吉川市の地区別人口の推移



分析

- ・本市の人口は増加傾向にありますが、地区別にみると、開発を行った吉川美南駅西口地域のある吉川美南地区のみ増加傾向にあり、吉川中央地区及び吉川南部地区はほぼ横ばいとなっています。また、旭地区及び三輪野江地区は減少傾向にあります。

(3) 年齢別人口の推移

住民基本台帳人口をもとに、人口ピラミッドを作成しました。

(資料：住民基本台帳人口)

図 吉川市の人口ピラミッド

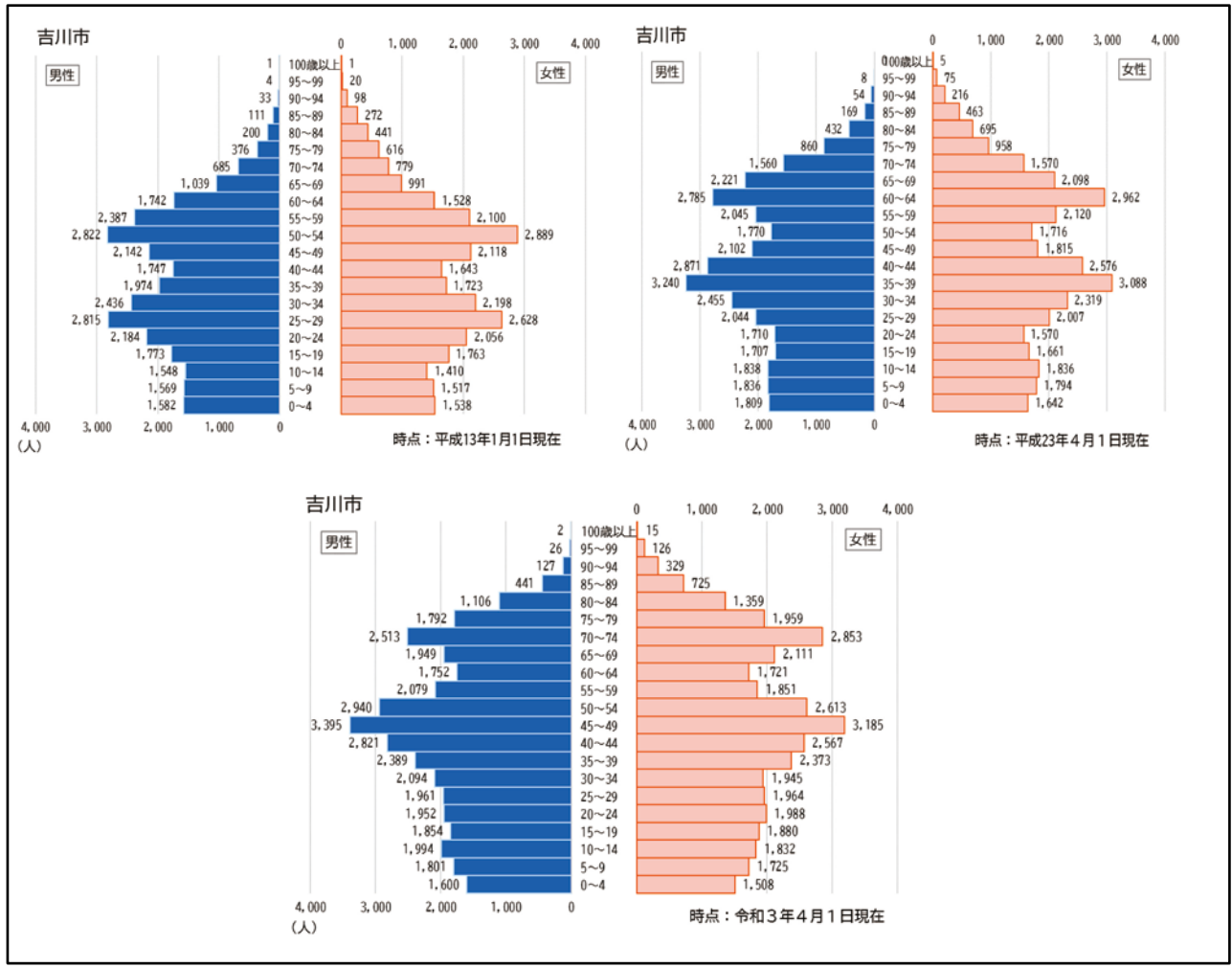


図 国及び埼玉県の人口ピラミッド

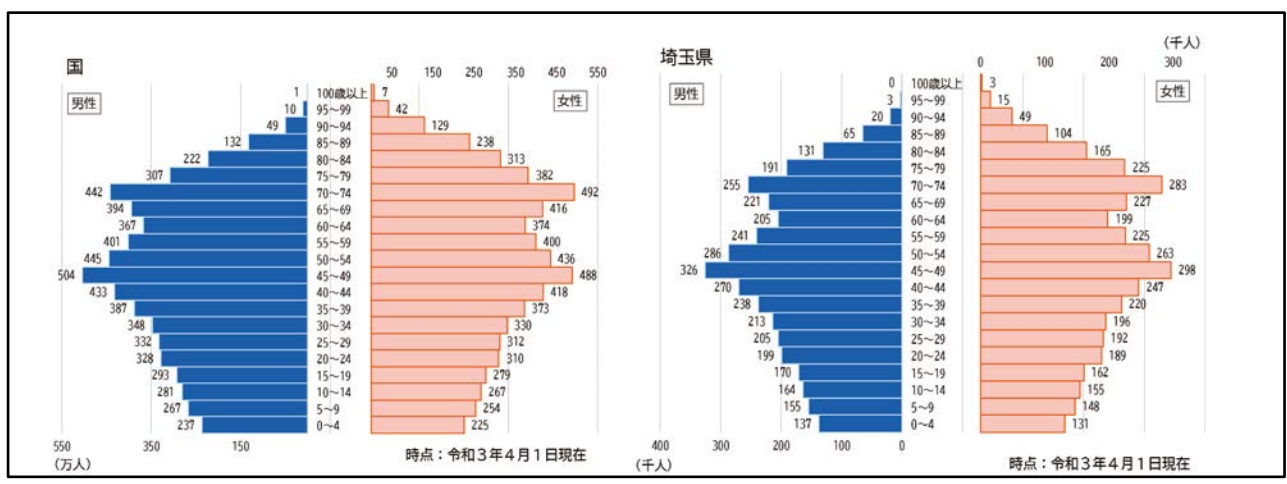
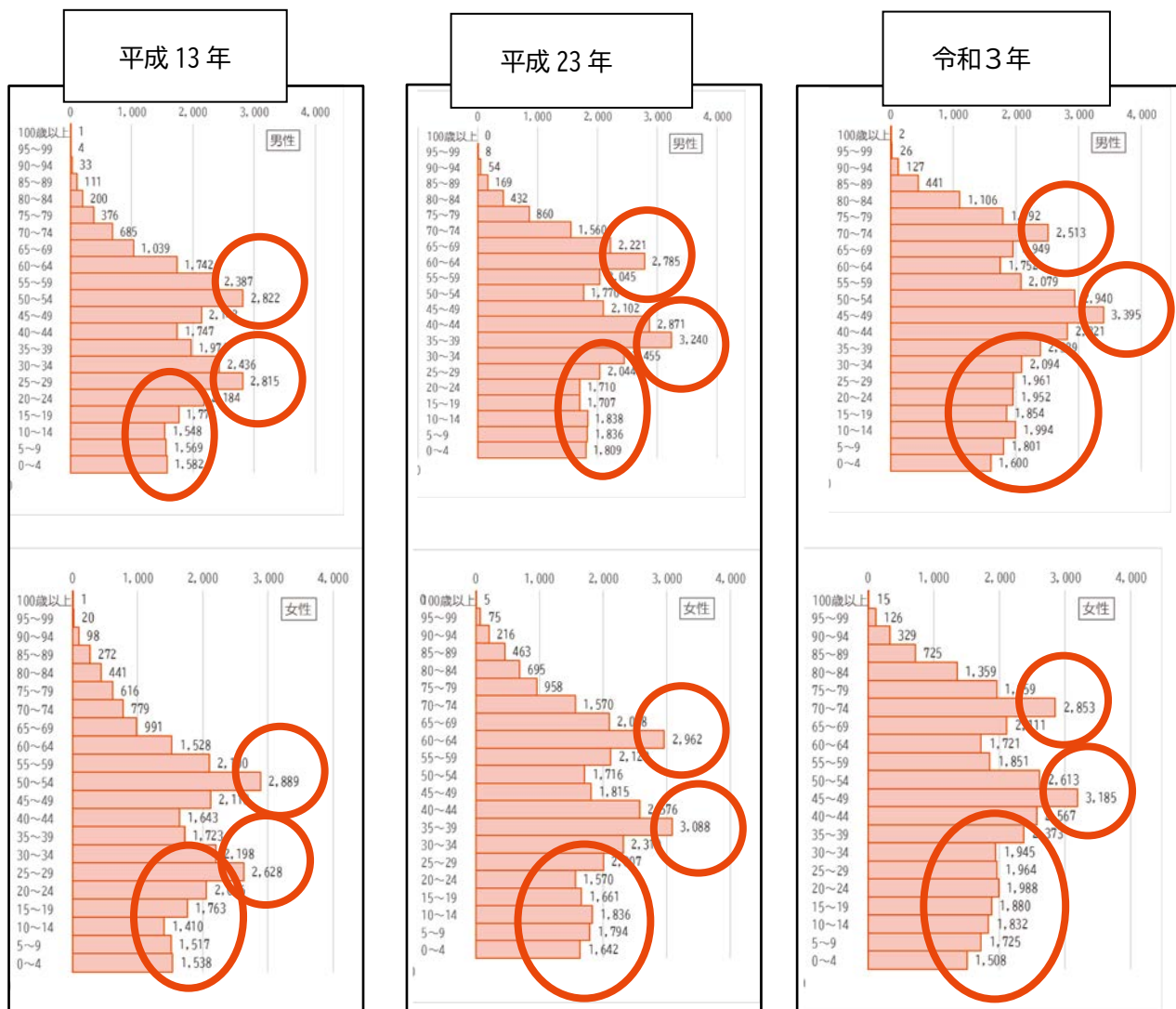


図 吉川市の人口ピラミッドの経年比較



分析

- ・本市では、平成 13 年には、団塊世代と団塊ジュニア世代がほぼ同数でしたが、令和 3 年には団塊ジュニア世代（45～49 歳）が増加しています。
- ・本市の団塊ジュニア世代の割合は国及び埼玉県と比較しても多くなっており、この世代が 65 歳を超えるときには注意が必要です。
- ・本市の 15 歳未満の人口は、平成 13 年、平成 23 年とほぼ横ばいでしたが、令和 3 年には減少しています。
- ・国及び埼玉県では 35 歳未満の割合の減少傾向が顕著ですが、本市では 15 歳以上 35 歳未満の割合が比較的多くなっています。

(4) 高齢化の状況

年齢3区分別人口の割合の推移を国及び埼玉県と比較しました。

(資料：住民基本台帳人口、時点：各年4月1日現在)

図 吉川市の年齢3区分別人口割合の推移 ※75歳以上の割合は内数です。

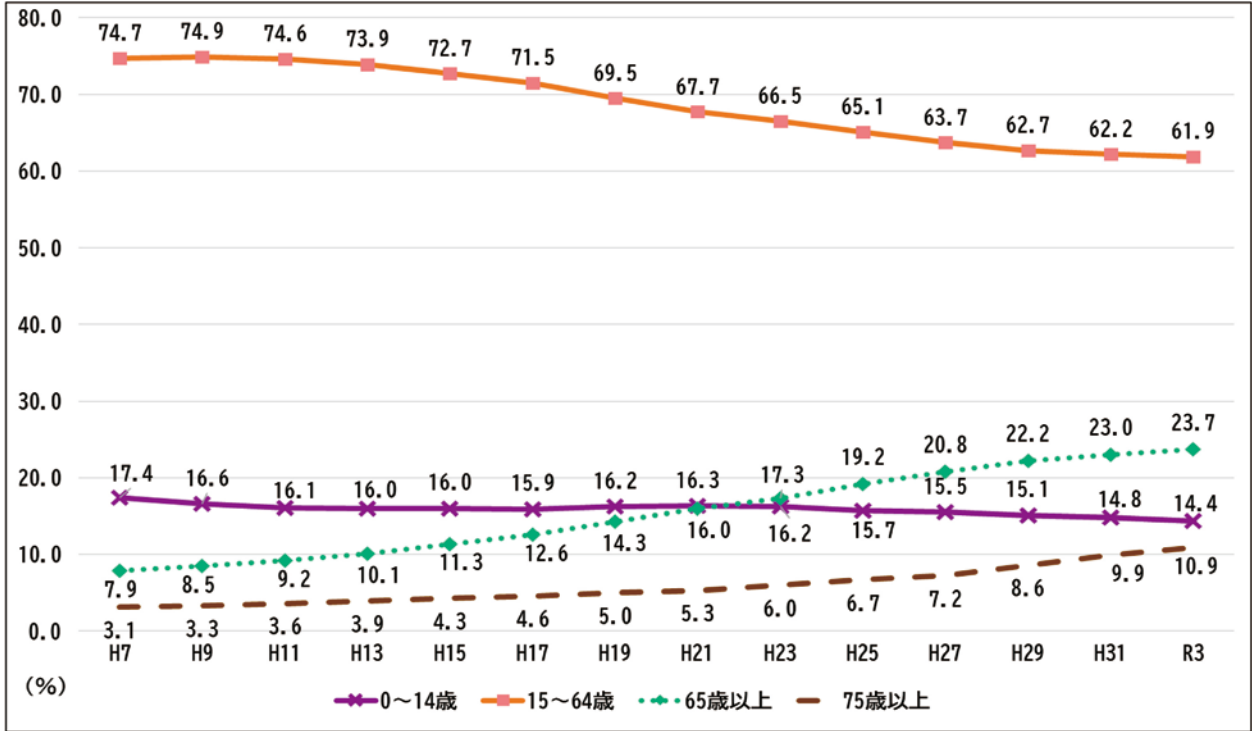


図 埼玉県の年齢3区分別人口割合の推移 ※75歳以上の割合は内数です。

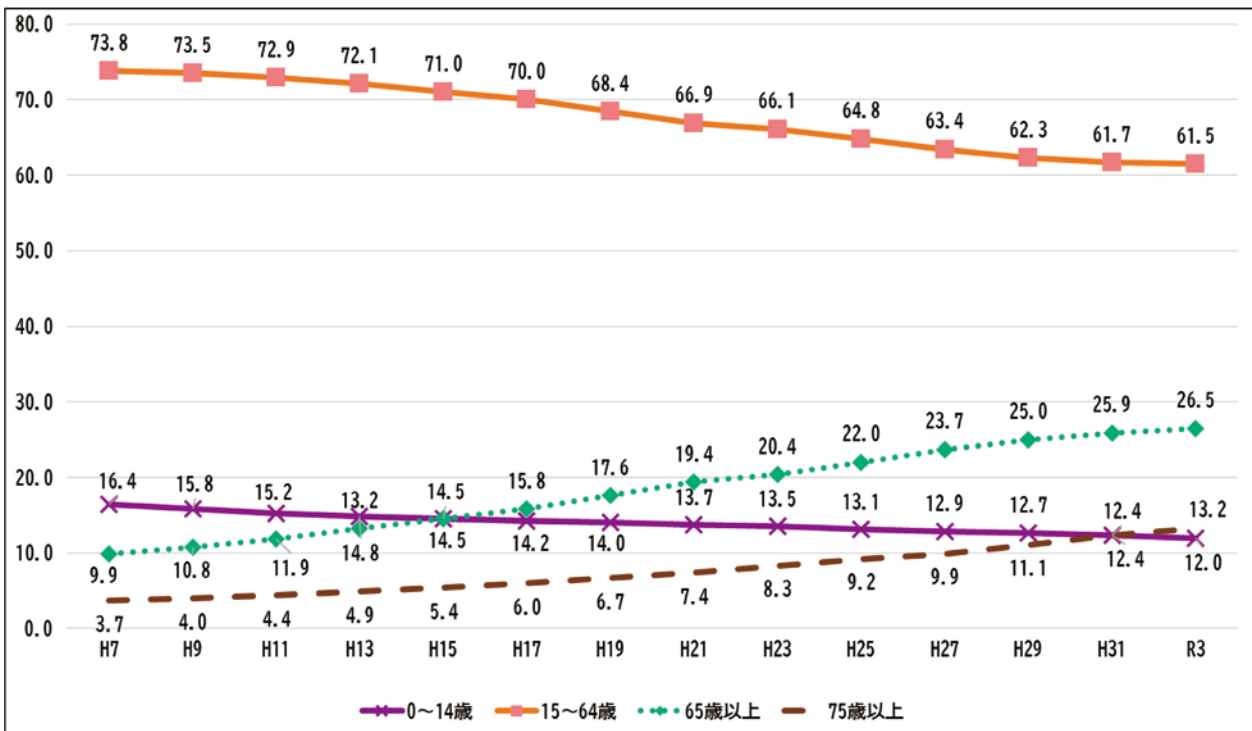
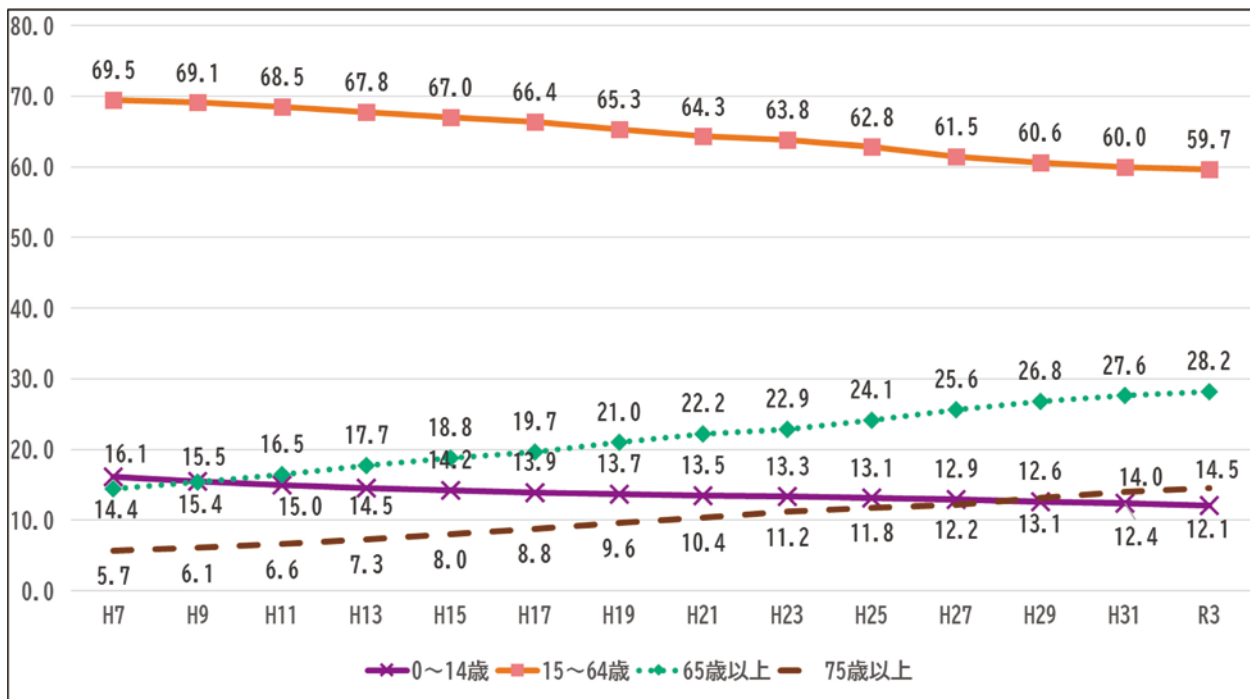


図 国の年齢3区分別人口割合の推移 ※75歳以上の割合は内数です。



分析

- ・本市の65歳以上の人口割合は、平成7年には7.9%でしたが、令和3年には23.7%と大幅に増加していますが、国及び埼玉県と比較すると低い傾向にあります。

2 人口動態

(1) 自然動態

①自然動態の状況

本市の出生数及び死亡者数の状況（自然動態）について、国及び埼玉県の動向と比較しながら、特性を分析しました。

（資料：住民基本台帳人口移動報告、時点：各年1月1日現在）

図 吉川市の自然動態の状況

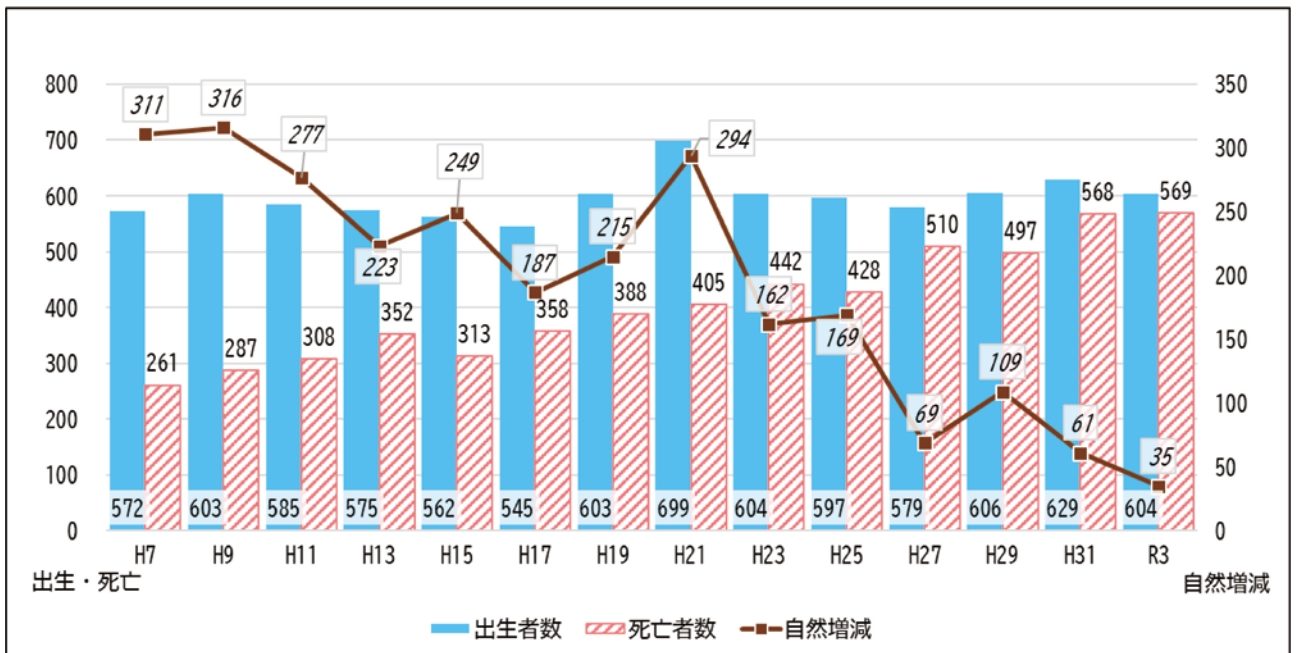


図 埼玉県の自然動態の状況

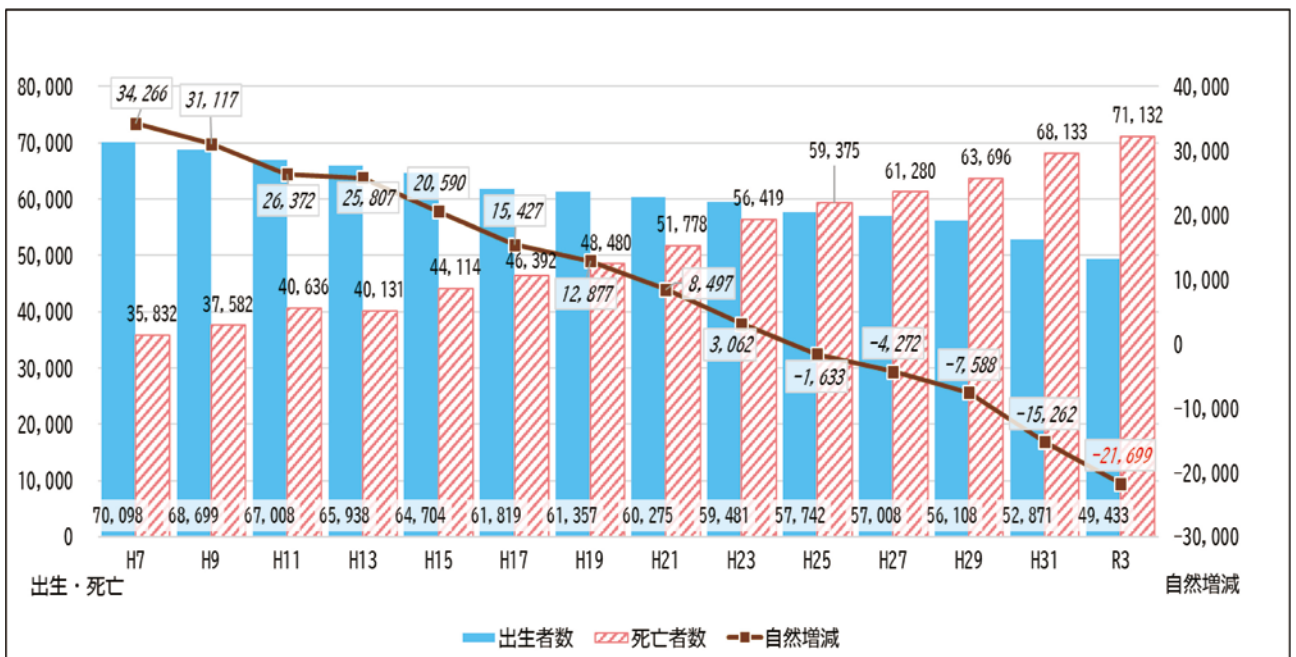
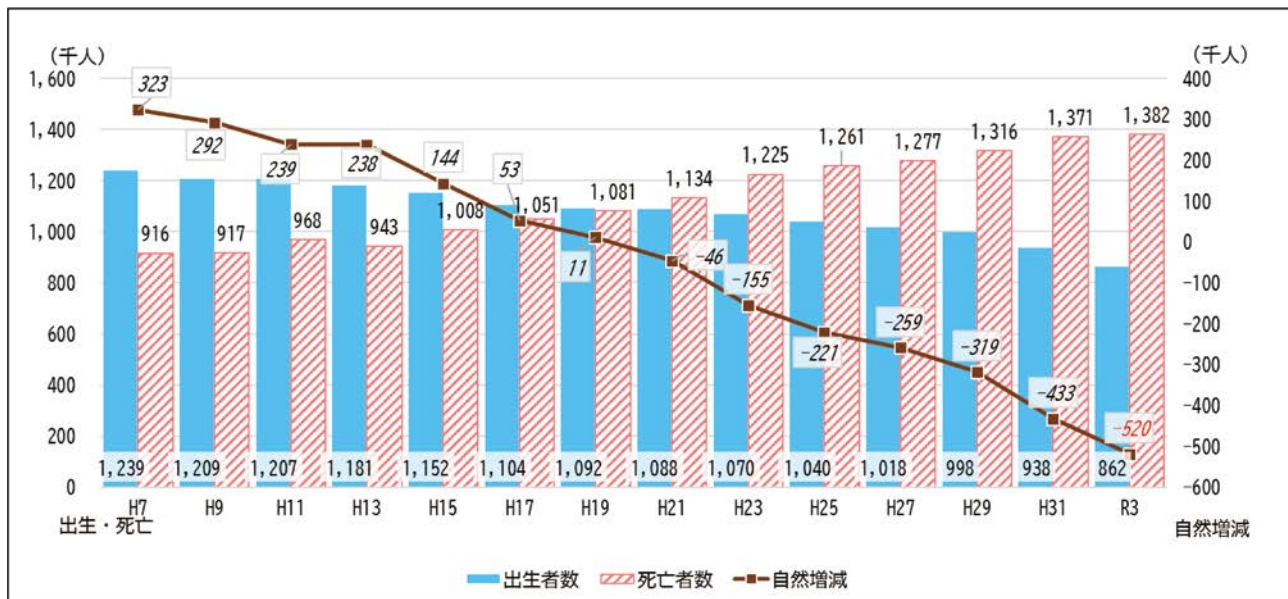


図 国の自然動態の状況



分析

- ・ 国及び埼玉県では死亡数が出生数を上回り、自然減となっています。
- ・ 本市では、出生数が死亡数を上回り、自然増となっていますが、死亡数の増加により、自然増の数は減少傾向となり、令和2年の1年間の自然増は35人でした。

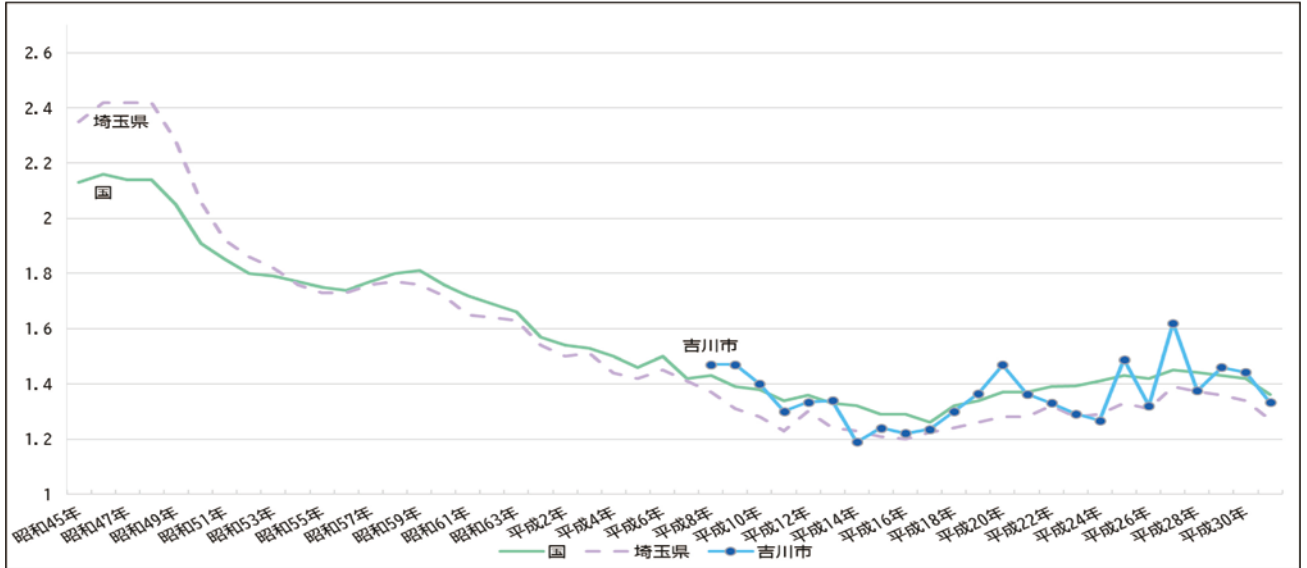
②合計特殊出生率

合計特殊出生率とは、1人の女性が一生のうちに何人子どもを産むかの人数です。

令和2年5月に閣議決定された「少子化社会対策大綱」においては、国民の「希望出生数」を1.80としています。また、国立社会保障・人口問題研究所の試算によれば、人口を維持するために必要な「人口置換水準」は2.07以上となります。

(資料：人口動態統計)

図 国・埼玉県・吉川市の合計特殊出生率の推移



	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年
全国	2.13	2.16	2.14	2.14	2.05	1.91	1.85	1.80	1.79	1.77
埼玉県	2.35	2.42	2.42	2.42	2.28	2.06	1.92	1.86	1.82	1.76
吉川市										

	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年
全国	1.75	1.74	1.77	1.80	1.81	1.76	1.72	1.69	1.66	1.57
埼玉県	1.73	1.73	1.76	1.77	1.76	1.72	1.65	1.64	1.63	1.54
吉川市										

	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
全国	1.54	1.53	1.50	1.46	1.50	1.42	1.43	1.39	1.38	1.34
埼玉県	1.50	1.51	1.44	1.42	1.45	1.41	1.37	1.31	1.28	1.23
吉川市							1.47	1.47	1.40	1.30

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
全国	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37
埼玉県	1.30	1.24	1.23	1.21	1.20	1.22	1.24	1.26	1.28	1.28
吉川市	1.33	1.34	1.19	1.24	1.22	1.24	1.30	1.37	1.47	1.36

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全国	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36
埼玉県	1.32	1.28	1.29	1.33	1.31	1.39	1.37	1.36	1.34	1.27
吉川市	1.33	1.29	1.27	1.49	1.32	1.62	1.38	1.46	1.44	1.33

図 吉川市及び近隣4市1町の合計特殊出生率の推移

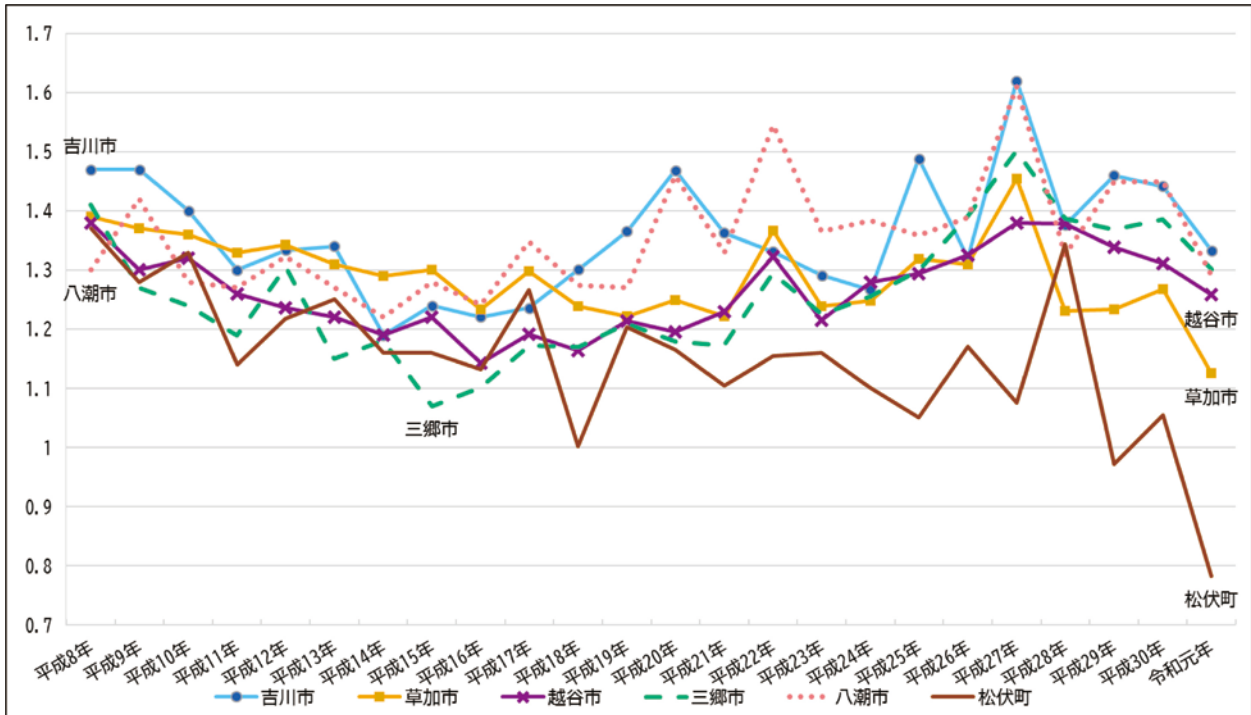
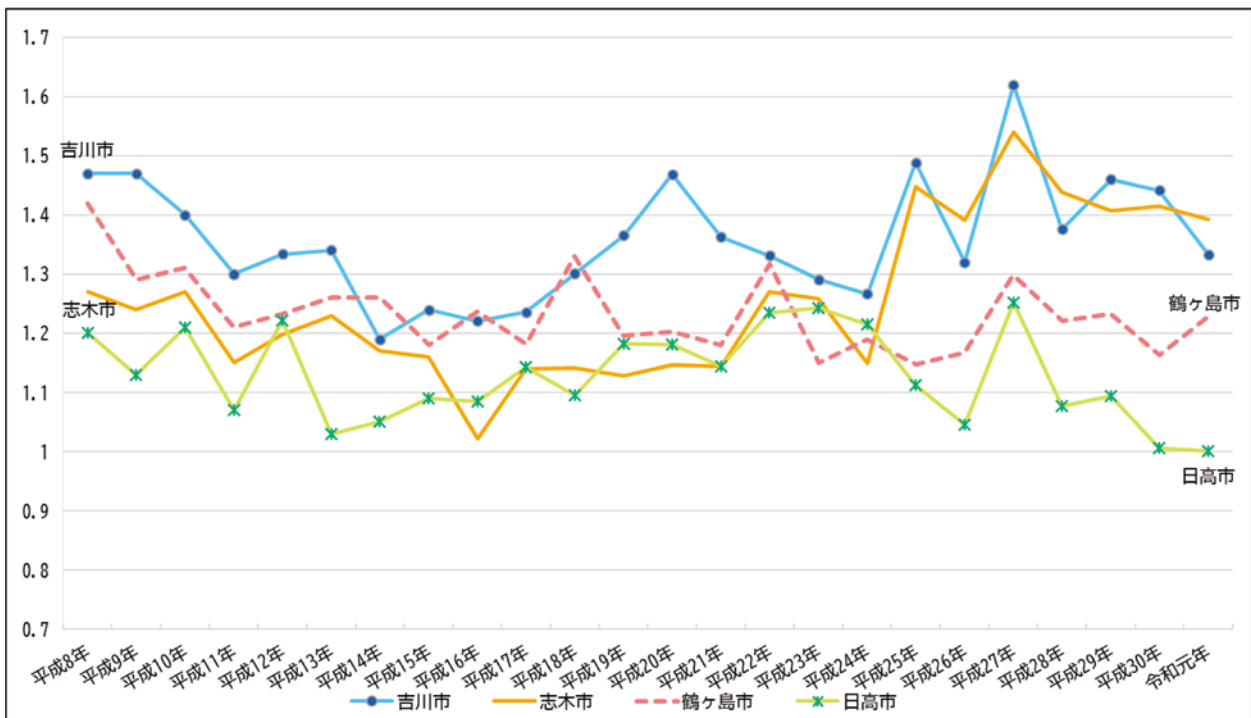


図 吉川市及び類似団体の合計特殊出生率の推移



	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
全国	1.43	1.39	1.38	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34
埼玉県	1.37	1.31	1.28	1.23	1.30	1.24	1.23	1.21	1.20	1.22	1.24	1.26
吉川市	1.47	1.47	1.40	1.30	1.33	1.34	1.19	1.24	1.22	1.24	1.30	1.37
草加市	1.39	1.37	1.36	1.33	1.34	1.31	1.29	1.30	1.23	1.30	1.24	1.22
越谷市	1.38	1.30	1.32	1.26	1.24	1.22	1.19	1.22	1.14	1.19	1.16	1.21
三郷市	1.41	1.27	1.24	1.19	1.31	1.15	1.18	1.07	1.10	1.17	1.17	1.21
八潮市	1.30	1.42	1.28	1.27	1.32	1.27	1.22	1.28	1.24	1.35	1.27	1.27
松伏町	1.37	1.28	1.33	1.14	1.22	1.25	1.16	1.16	1.13	1.27	1.00	1.20
志木市	1.27	1.24	1.27	1.15	1.20	1.23	1.17	1.16	1.02	1.14	1.14	1.13
鶴ヶ島市	1.42	1.29	1.31	1.21	1.23	1.26	1.26	1.18	1.24	1.18	1.33	1.20
日高市	1.20	1.13	1.21	1.07	1.22	1.03	1.05	1.09	1.09	1.14	1.10	1.18

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全国	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36
埼玉県	1.28	1.28	1.32	1.28	1.29	1.33	1.31	1.39	1.37	1.36	1.34	1.27
吉川市	1.47	1.36	1.33	1.29	1.27	1.49	1.32	1.62	1.38	1.46	1.44	1.33
草加市	1.25	1.22	1.37	1.24	1.25	1.32	1.31	1.45	1.23	1.23	1.27	1.13
越谷市	1.19	1.23	1.32	1.22	1.28	1.29	1.33	1.38	1.38	1.34	1.31	1.26
三郷市	1.18	1.17	1.29	1.23	1.26	1.30	1.39	1.50	1.39	1.37	1.39	1.30
八潮市	1.46	1.33	1.54	1.36	1.38	1.36	1.39	1.61	1.33	1.45	1.45	1.29
松伏町	1.16	1.10	1.16	1.16	1.10	1.05	1.17	1.08	1.34	0.97	1.05	0.78
志木市	1.15	1.14	1.27	1.26	1.15	1.45	1.39	1.54	1.44	1.41	1.41	1.39
鶴ヶ島市	1.20	1.18	1.32	1.15	1.19	1.15	1.17	1.30	1.22	1.23	1.16	1.23
日高市	1.18	1.14	1.24	1.24	1.21	1.11	1.05	1.25	1.08	1.09	1.01	1.00

分析

- ・市町村単位では、変動が大きくなるため、評価が難しい指標となっています。
- ・本市の合計特殊出生率は、概ね埼玉県の平均値を上回っています。
- ・近隣5市1町及び類似団体と比較しても、概ね高い水準となっています。

(2) 社会動態

①全体の動向

本市の転入及び転出の状況（社会動態）について、埼玉県と比較しながら、特性を分析しました。

（資料：住民基本台帳人口移動報告、時点：各年1月1日現在）

図 吉川市の社会動態の状況

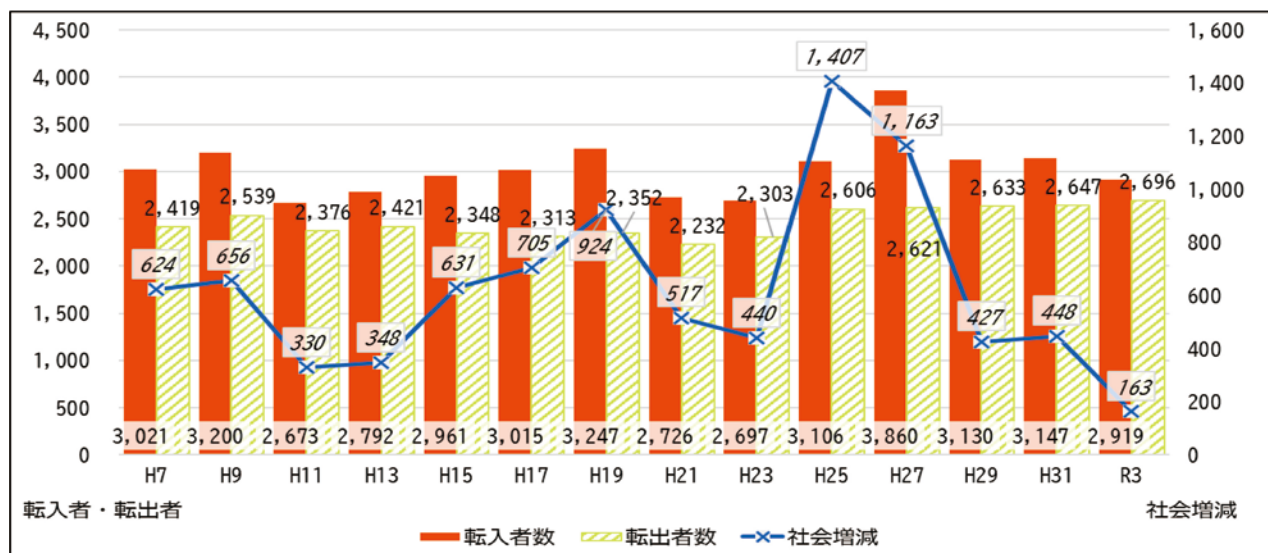
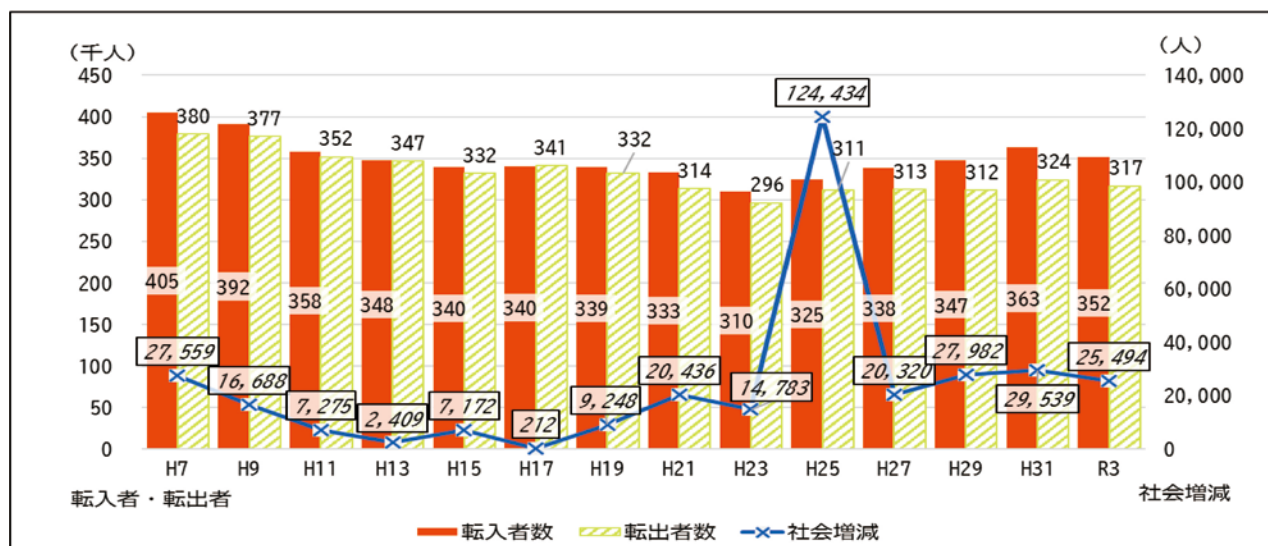


図 埼玉県の社会動態の状況



分析

- ・本市の社会動態は、転入超過となっており、社会増が続いています。
- ・埼玉県全体でも転入超過が続いています。

②年齢別の動向

転入、転出者数が年齢別でどのようなになっているかを、転入超過者数（転入者数から転出者数を差し引いたもの）の数値を作成し、近隣5市1町と比較を行いました。

（資料：住民基本台帳人口移動報告、期間：令和2年）

図 吉川市の年齢別転入超過者数

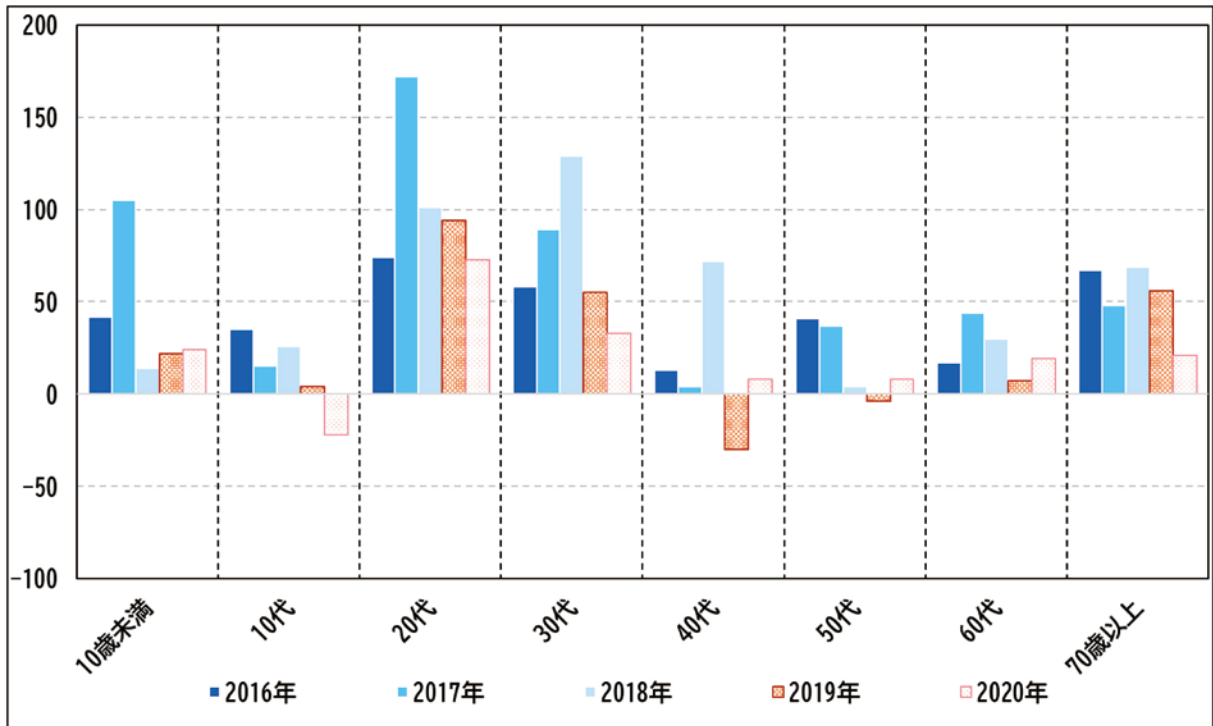


図 越谷市の年齢別転入超過者数

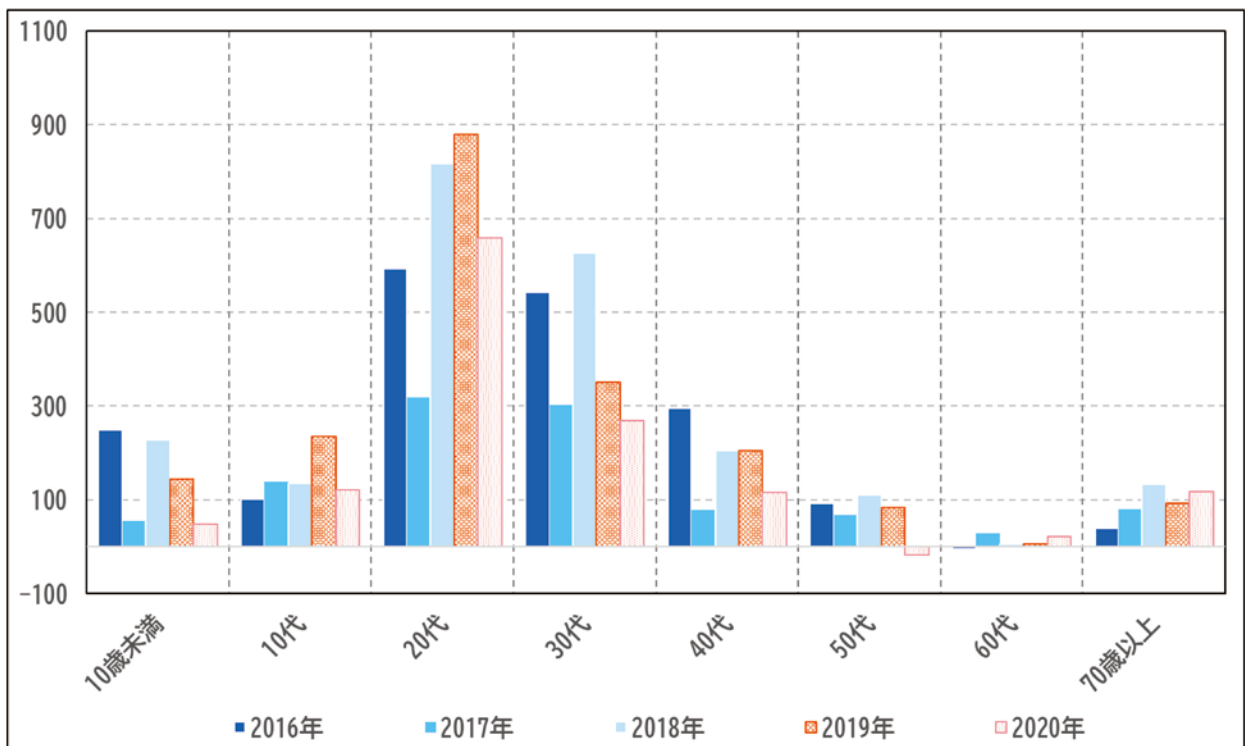


図 草加市の年齢別転入超過者数

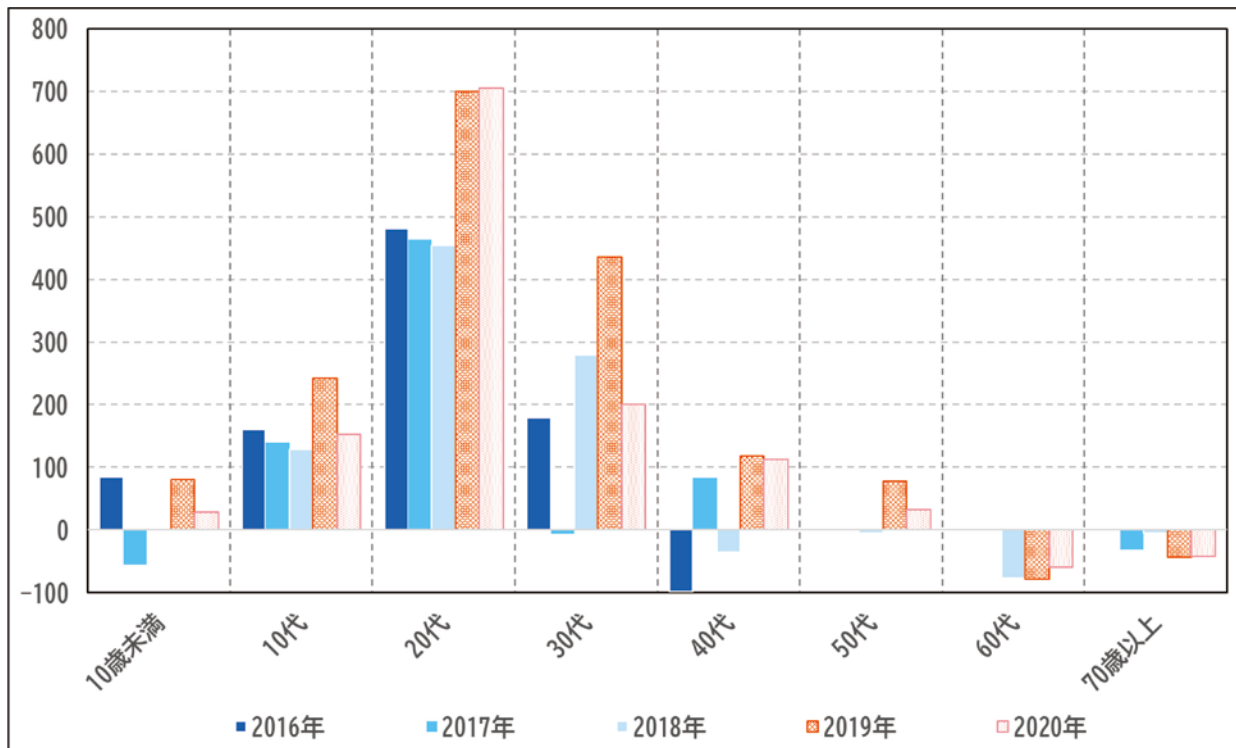


図 三郷市の転入超過者数

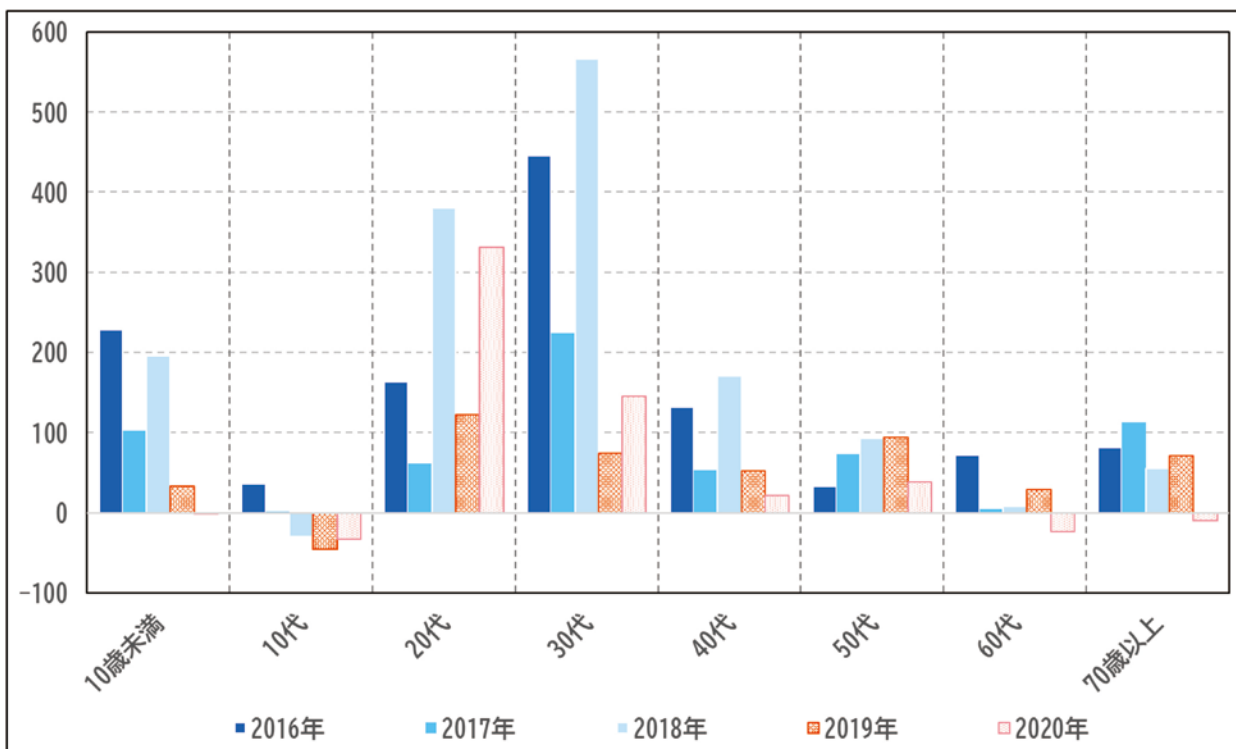


図 八潮市の年齢別転入超過者数

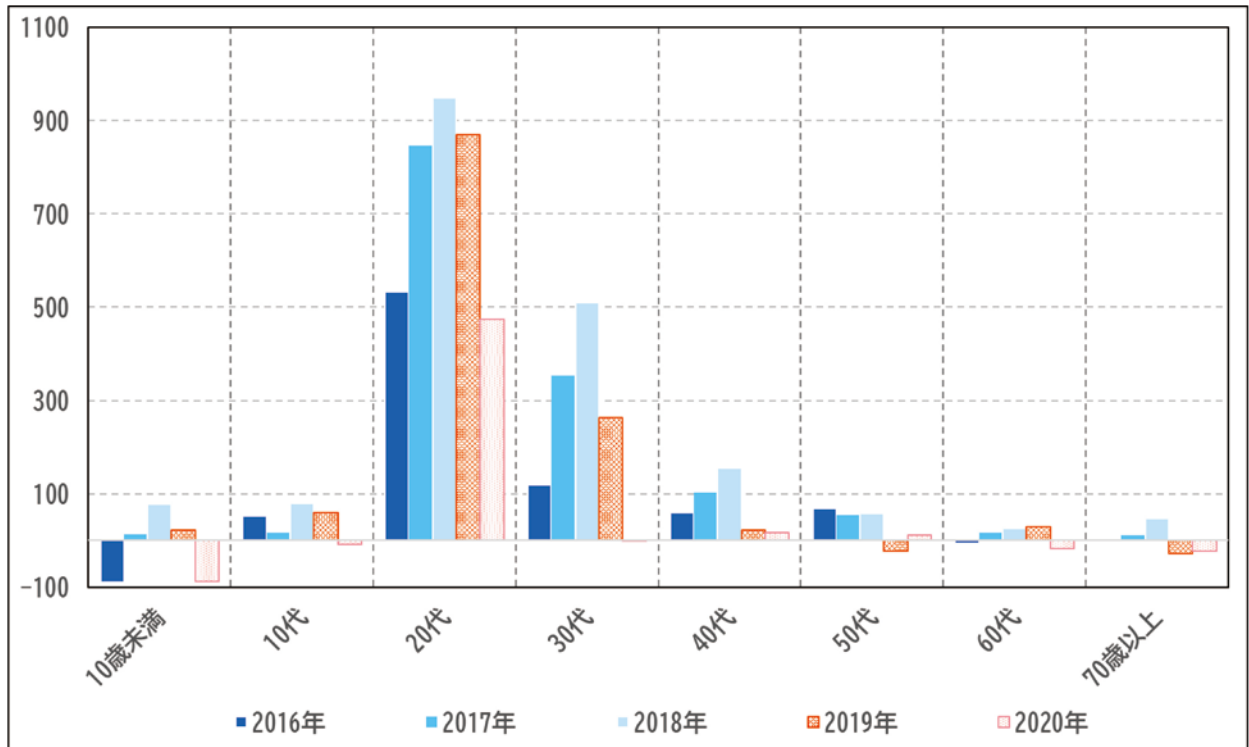
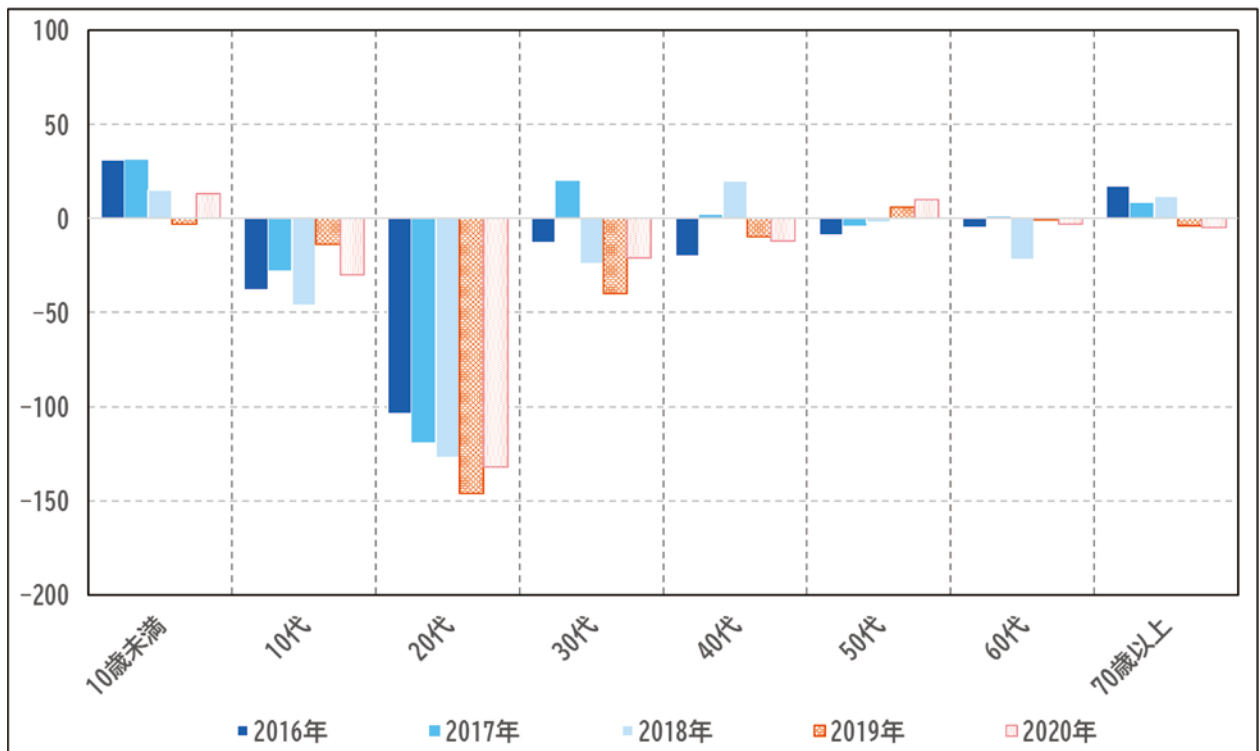


図 松伏町の年齢別転入超過者数



分析

- ・本市の転入超過者数は、松伏町を除く他4市と同様に、20歳代、30歳代が多くなっています。

③転入者の主な転入元

本市への転入者の主な転入元を調べました。

(資料：住民基本台帳人口移動報告、時点：令和2年1月1日現在)

図 都道府県別主な転入元

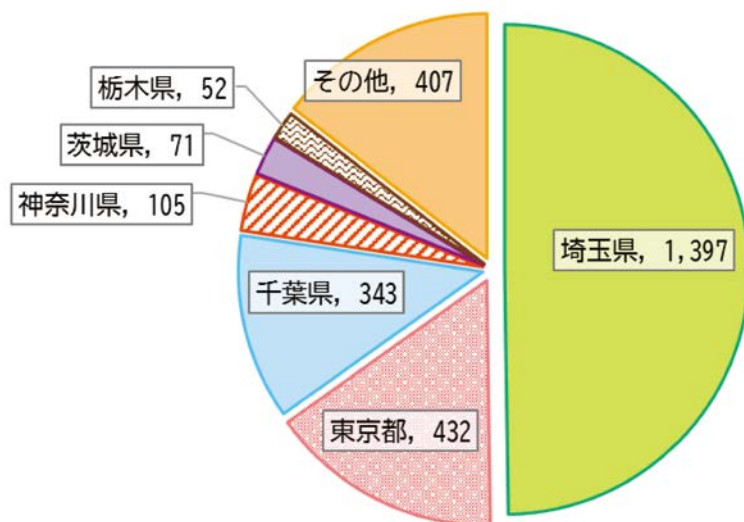
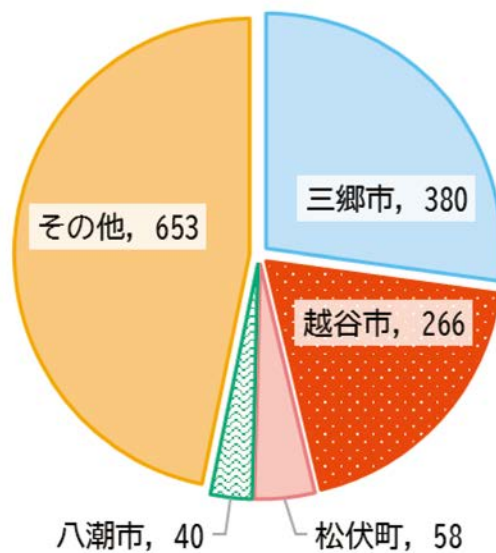


図 埼玉県内の主な転入元



分析

- ・都道府県別にみると、埼玉県内からの転入者が多くなっています。
- ・埼玉県内市町村では、近隣4市町、特に三郷市と越谷市からの転入者が多くなっています。

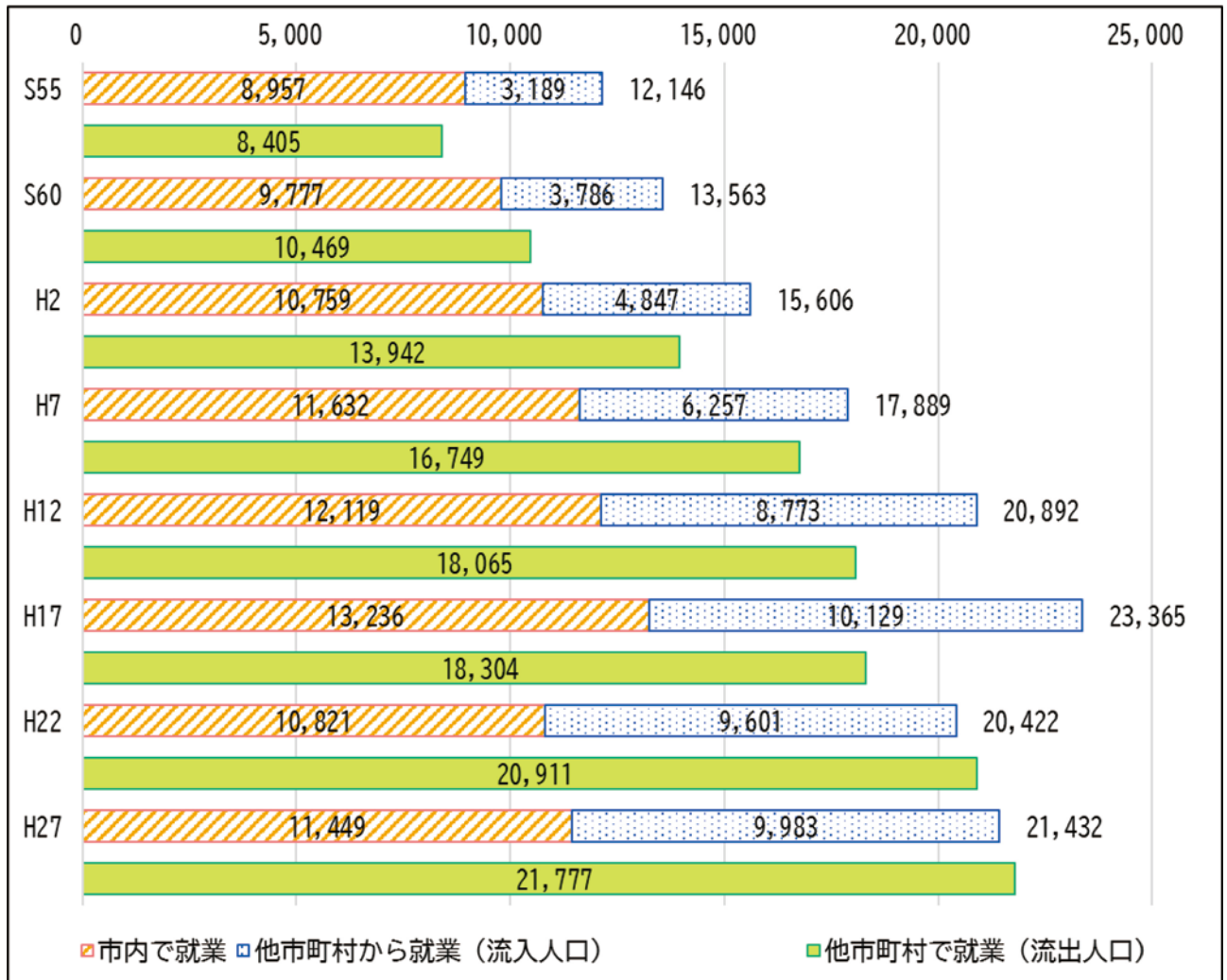
3 その他の人口データ

(1) 昼間人口

本市における昼間人口について、流入・流出人口を調べました。

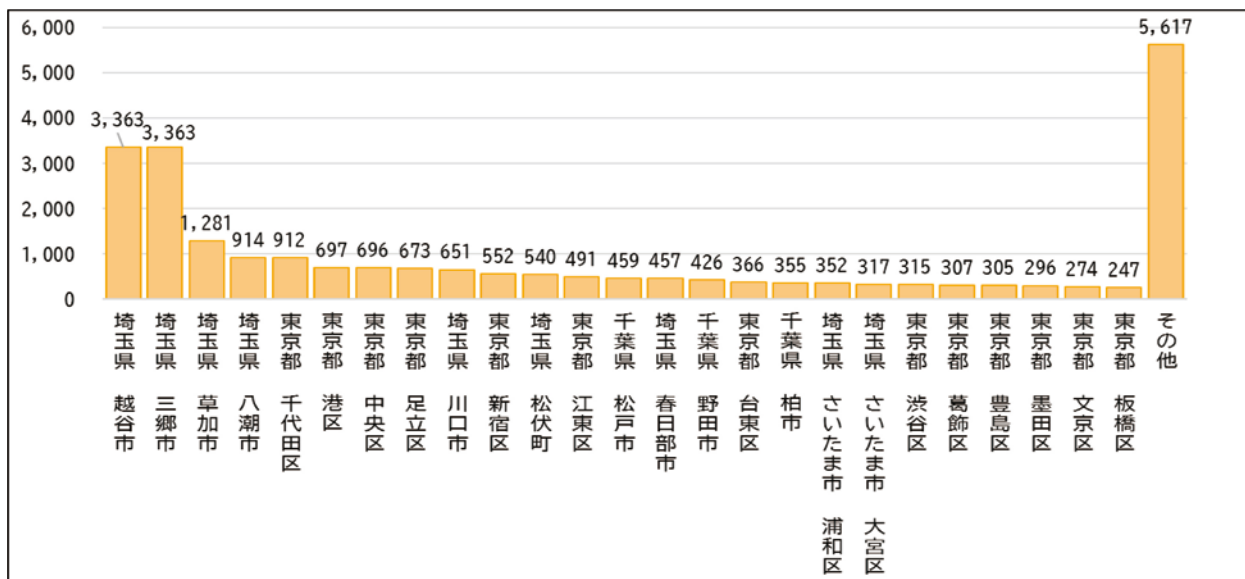
(資料：国勢調査)

図 吉川市の就業者数の状況



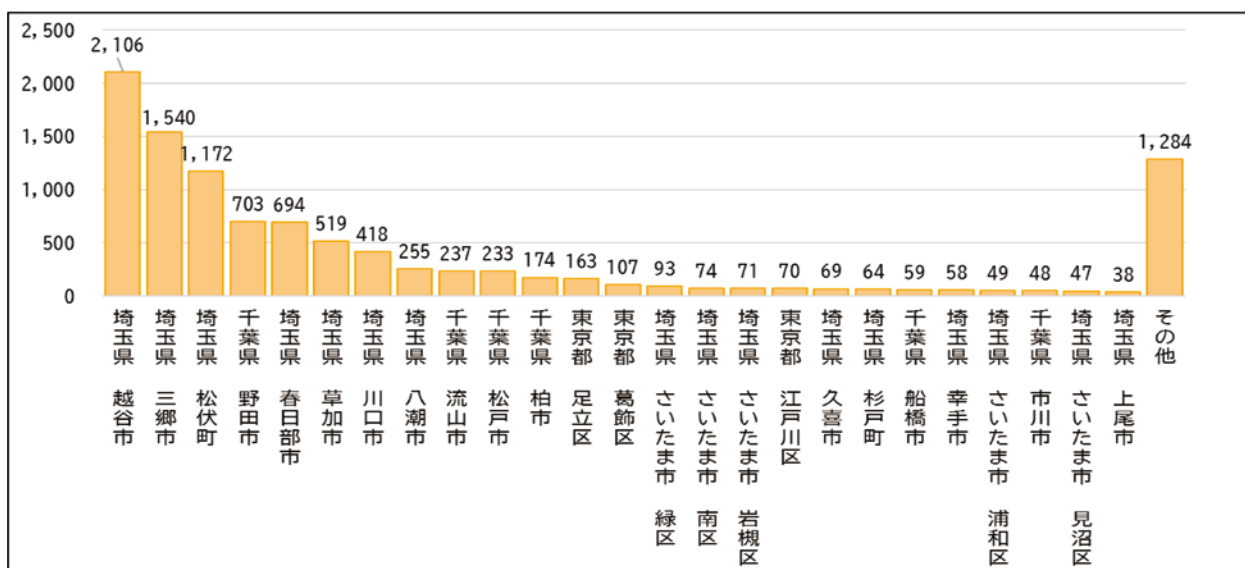
時点：各年10月1日現在

図 吉川市民の主な通勤・通学先



時点：平成27年10月1日現在

図 吉川市に通勤・通学している人の主な居住地



時点：平成27年10月1日現在

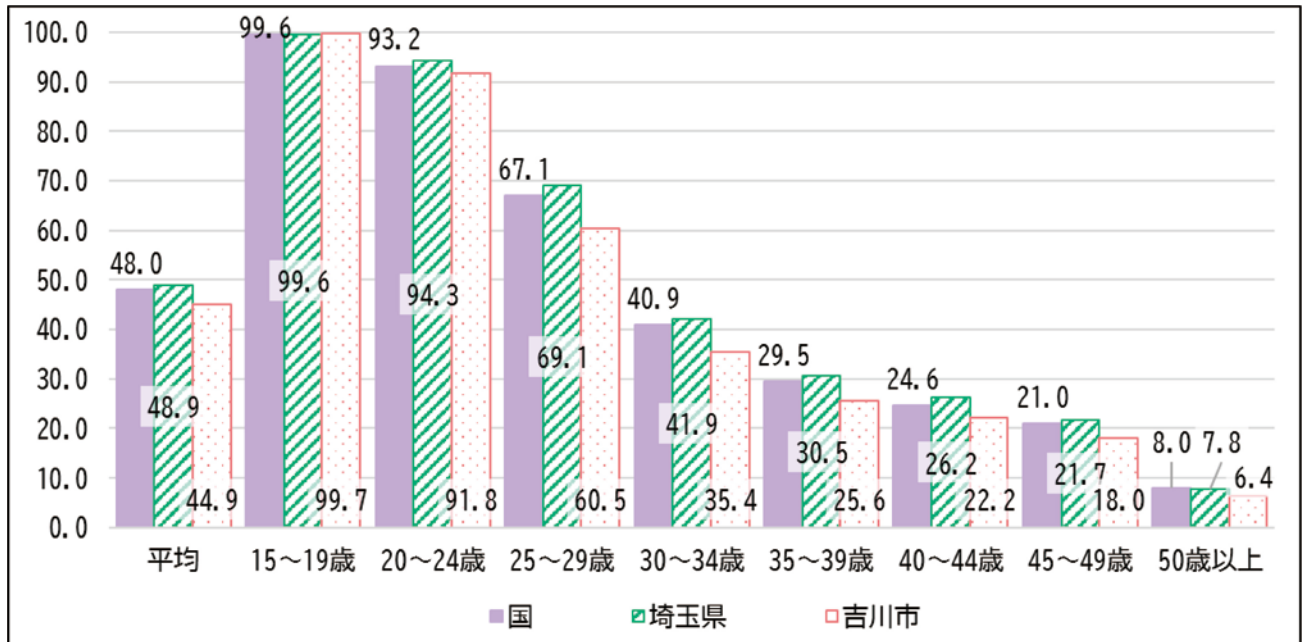
分析

- ・就業者数についてみると、平成22年以降、市内での就業及び他市町からの就業者数の合計を、他市町での就業者数が上回り、流出超過となっています。
- ・他市町に通勤・通学している人の主な通勤・通学先をみると、近隣4市及び東京都内への流出が多くなっています。
- ・他市町から本市への通勤・通学者は、埼玉県内近隣市町及び千葉県からの流入が多くなっています。

(2) 未婚率について

国及び埼玉県と本市の15歳以上の未婚率について比較しました。

図 国・埼玉県・吉川市の年齢別未婚率



資料：国勢調査、時点：平成27年10月1日現在

分析

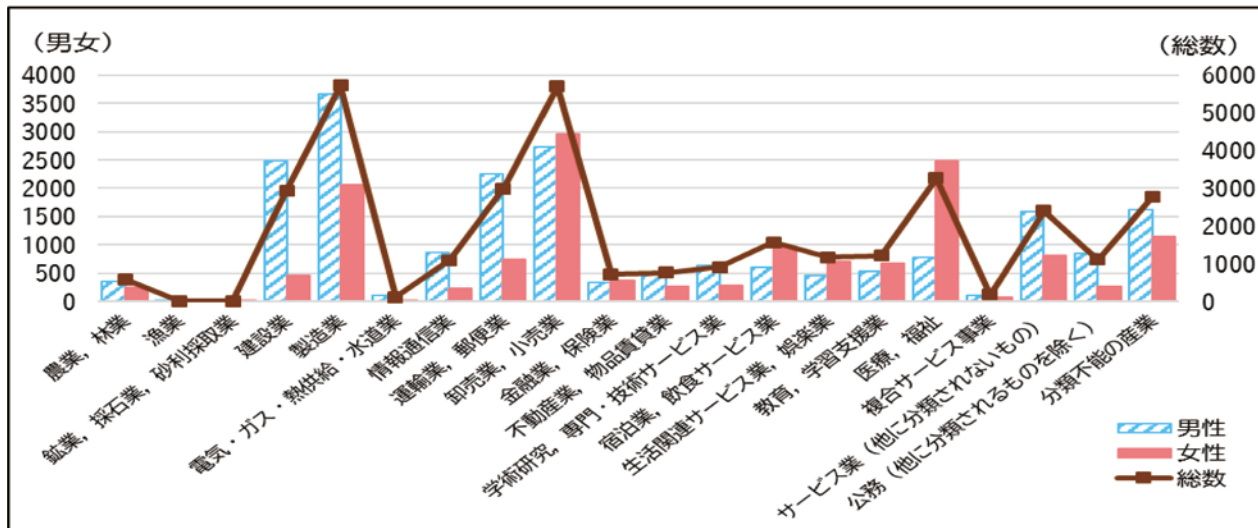
- ・本市の未婚率は、全世代平均及び年代別のいずれも、国及び埼玉県より低くなっています。

(3) 産業別人口

本市の産業動向を把握するため、産業別人口の状況を調べました。

(資料：国勢調査、時点：平成27年10月1日現在)

図 吉川市民の産業別就業者数

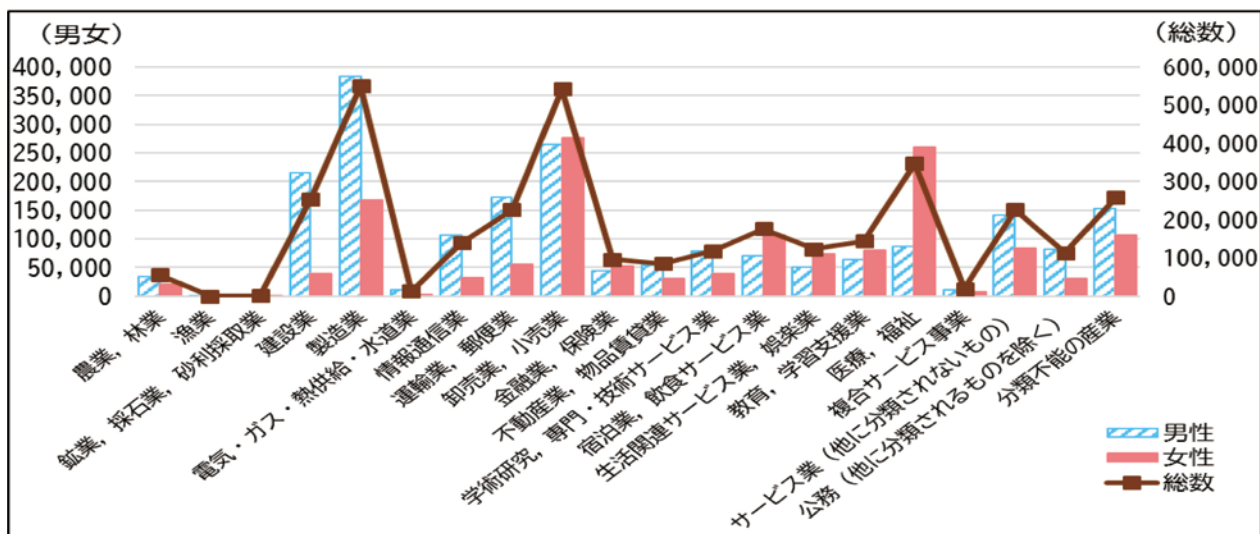


男女別	農業、林業	漁業	鉱業、採石業 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス 熱供給・水道業
男性	344	1	1	2,486	3,669	101
女性	239	-	1	454	2,055	17
総数	583	1	2	2,940	5,724	118

情報通信業	運輸業 郵便業	卸売業 小売業	金融業 保険業	不動産業 物品賃貸業	学術研究、専門・ 技術サービス業	宿泊業 飲食サービス業
863	2,257	2,737	342	505	631	595
221	741	2,967	378	259	277	973
1,084	2,998	5,704	720	764	908	1,568

生活関連サービ ス業、娯楽業	教育 学習支援業	医療、福祉	複合サービス事 業	サービス業(他に 分類されないもの)	公務(他に分類さ れるものを除く)	分類不能の産業
463	526	783	105	1,592	838	1,629
705	678	2,487	78	805	259	1,139
1,168	1,204	3,270	183	2,397	1,097	2,768

図 埼玉県産業別就業者数

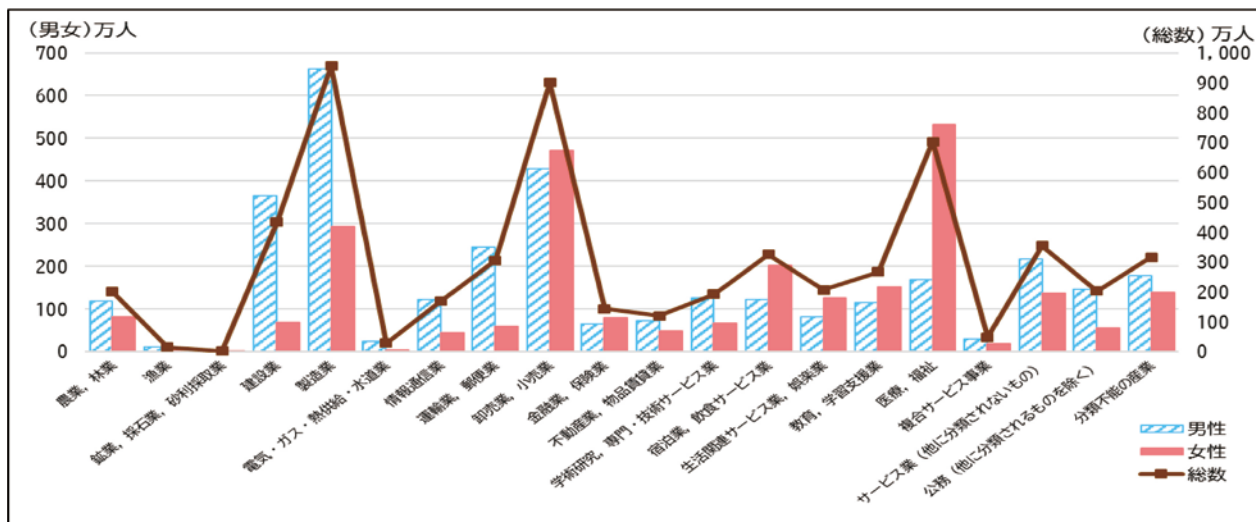


男女別	農業、林業	漁業	鉱業、採石業 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・水道業
男性	33,588	94	568	214,761	382,665	10,733
女性	21,302	35	106	38,886	166,875	2,014
総数	54,890	129	674	253,647	549,540	12,747

情報通信業	運輸業 郵便業	卸売業 小売業	金融業 保険業	不動産業 物品賃貸業	学術研究、専門・ 技術サービス業	宿泊業 飲食サービス業
106,508	171,719	265,161	43,913	53,786	79,100	69,620
32,453	54,565	276,531	52,484	30,677	38,660	106,546
138,961	226,284	541,692	96,397	84,463	117,760	176,166

生活関連サービ ス業、娯楽業	教育 学習支援業	医療、福祉	複合サービス事 業	サービス業（他に 分類されないもの）	公務（他に分類さ れるものを除く）	分類不能の産業
50,127	64,147	86,973	11,617	141,291	82,150	151,971
72,911	80,589	260,280	7,959	84,141	30,683	105,990
123,038	144,736	347,253	19,576	225,432	112,833	257,961

図 国の産業別就業者数



男女別	農業、林業	漁業	鉱業、採石業 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・水道業
男性	1,185,796	116,284	18,790	3,649,562	6,620,497	242,260
女性	818,493	37,463	3,491	691,776	2,936,718	40,933
総数	2,004,289	153,747	22,281	4,341,338	9,557,215	283,193

情報通信業	運輸業 郵便業	卸売業 小売業	金融業 保険業	不動産業 物品賃貸業	学術研究、専門・ 技術サービス業	宿泊業 飲食サービス業
1,230,784	2,452,308	4,288,281	639,984	723,088	1,262,706	1,225,971
449,421	592,433	4,713,133	788,726	474,472	656,419	2,023,219
1,680,205	3,044,741	9,001,414	1,428,710	1,197,560	1,919,125	3,249,190

生活関連サービ ス業、娯楽業	教育 学習支援業	医療、福祉	複合サービス事 業	サービス業（他に 分類されないもの）	公務（他に分類さ れるものを除く）	分類不能の産業
821,361	1,149,162	1,695,037	291,462	2,164,347	1,464,004	1,781,467
1,250,867	1,512,398	5,328,913	191,552	1,379,342	561,984	1,380,469
2,072,228	2,661,560	7,023,950	483,014	3,543,689	2,025,988	3,161,936

分析

- ・本市の産業別就業者数は、国及び埼玉県と同様の傾向となっています。
- ・本市では、製造業、卸売業・小売業の順に多くなっており、他に建設業、運輸業・郵便業、医療・福祉が多くなっています。

第3章 将来人口の推計と分析

1 将来人口推計の方法

(1) 将来人口推計の時点

令和3年4月1日時点の住民基本台帳人口を基に、各年について4月1日時点で推計を行いました。

このため、各年度の人口は、翌年度4月1日の推計値となります。

(2) 将来人口推計の単位（地域区分）

推計の単位については、自治連合会（旭、三輪野江、吉川中央、吉川南部、美南（西口））の5地域と、現在開発を進めている吉川美南駅東口周辺地区に分けて推計を行いました。

(3) 推計手法

自治連合会単位（5地域）でのコーホート要因法による推計の合算により市内全域の将来人口を推計しました。

0歳から100歳以上の各年齢の各年における人口を推計しています。

コーホート	ある年（期間）に生まれた集団のこと
コーホート要因法	年齢別人口の変化の要因（死亡、出生及び転出入）について将来の仮定値をあてはめて将来の人口を求める方法。

(4) 仮定値の設定

①生残率

ある年齢の人口が、 n 年後の年齢に達するまで生き残る確率のことです。

生残率は、全国的に大きな差はないことから、厚生労働省の平成30年簡易生命表（国立社会保障・人口問題研究所が発表している生残率の基となる統計で、各年齢の人口が1年後に生き残っていた割合を算出している）を利用しました。

例1：40歳の方が a 年の翌年に下記の通り生き残った場合

年齢	性別	a 年	$a+1$ 年	生残率
40歳	男性	500人	498人	0.996

②移動率

人口に対する転出入数の比率のことです。

5地区別に各年の移動率を求め、その直近5年の平均値が将来にわたり続くと仮定しています。

《参考》算出方法

平成28年から令和3年までの5年間の実績人口をもとに、各年齢の各年における封鎖人口（転出入を0として、生残率のみかけた人口）を算出し、封鎖人口と実際の人口との差を純移動数として、純移動数を実際の人口で割って移動率を求めました。

例2：40歳の方がb年の翌年に下記の通りとなった場合（各年とも生残率を乗じた人数）

年齢	性別	b年（封鎖人口）	b+1年	移動率
40歳	男性	500人	550人	0.1

例1の生残率、例2の移動率で計算した場合c年の翌年には548人となる

年齢	性別	a年	生残率	移動率	c+1年
40歳	男性	500人	$\times (0.996 +$	$0.1) =$	548人

③合計特殊出生率

合計特殊出生率は、15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。1人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数に相当します。

これまでの吉川市人口ビジョンを踏まえ、吉川市の過去10年の合計特殊出生率や国の将来人口推計を参考に次の2つのパターンを用いて推計しています。

【合計特殊出生率の設定パターン】

パターン①	1.33（市の令和元年の実績値）から始まり、段階的に上昇し、令和22年（2040年）に2.07（国の示す「人口置換水準」）を達成
パターン②	毎年コンスタントに1.39（市の過去10年平均）を達成

	R3	R5	R7	R9	R11	R13	R15	R17	R19	R21	R22	R42
パターン①	1.33	1.41	1.49	1.56	1.64	1.72	1.80	1.88	1.95	2.03	2.07	2.07
パターン②	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39

(5) 特殊要因

①美南地区（吉川美南駅西口）について

美南地区以外の自治連合会の地区については、前述のとおり直近5年平均の移動率を用いていますが、美南地区については、開発途中の平成28年から令和3年までの社会増が大きいため、他地区と同様に試算を行った場合、人口が増加し続けることとなります。

このため、一定の期間で、他地区と同様に移動率が安定するよう試算を行う必要があります。

駅前という立地条件は異なりますが、きよみ野地区の開発経過を参考とすると、土地地区画整理事業完了の平成16年から16年経過した現在、移動率が安定していることから、美南地区の土地地区画整理事業である特定駅南地区（平成22年完了）及び武操跡地地区（平成24年完了）から16年経過する令和10年に、きよみ野地区の移動率と同等の安定した移動率に至ると仮定し推計を行いました。

【美南地区の移動率】

R3	R4～R9	R10～
美南直近1年の移動率	各年齢の移動率が一年ごとに徐々にきよみ野の移動率に近付いていく	きよみ野地区の5年平均移動率 (平成27年～令和2年)

②吉川美南駅東口周辺地区について

吉川美南駅東口周辺地区の計画人口は4,500人で、事業計画期間は平成29年度から令和8年度までとなっており、令和6年度から人口定着を見込んでいます。

推計にあたっての基礎となる人口の年齢構成は、美南地区（吉川美南駅西口）の令和3年4月1日の構成をもとに算出しています。

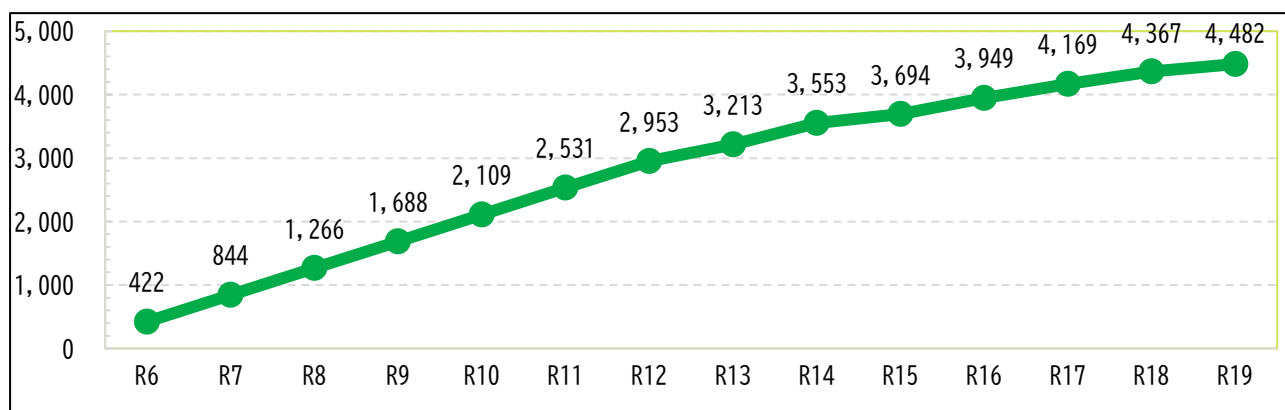
吉川美南駅東口の人口定着については、直近の土地区画整理事業である中央土地区画整理地内の人口定着推移に準じて推計を行いました。また、人口の定着が計画人口の100%を達成後、安定した移動率のきよみ野地区と同等の移動率に至ると仮定し推計を行いました。

【計画人口に対する定着割合と人口定着開始からの年数】

年	R13	R15	R19	R20～
人口定着開始からの年数	8年目	10年目	14年目	15年目
計画人口に対する割合	約70% (71.39%)	約80% (82.08%)	約100% (99.61%)	他地区と同様に、仮定値（生残率と移動率）を用いて推計 移動率：きよみ野地区の5年平均値（平成27年～令和2年）
定着人口	3,213人	3,694人	4,482人	

※（）内は、中央土地区画整理地内の計画人口に対する人口定着割合の実績

図 吉川美南駅東口の人口定着推移の見通し

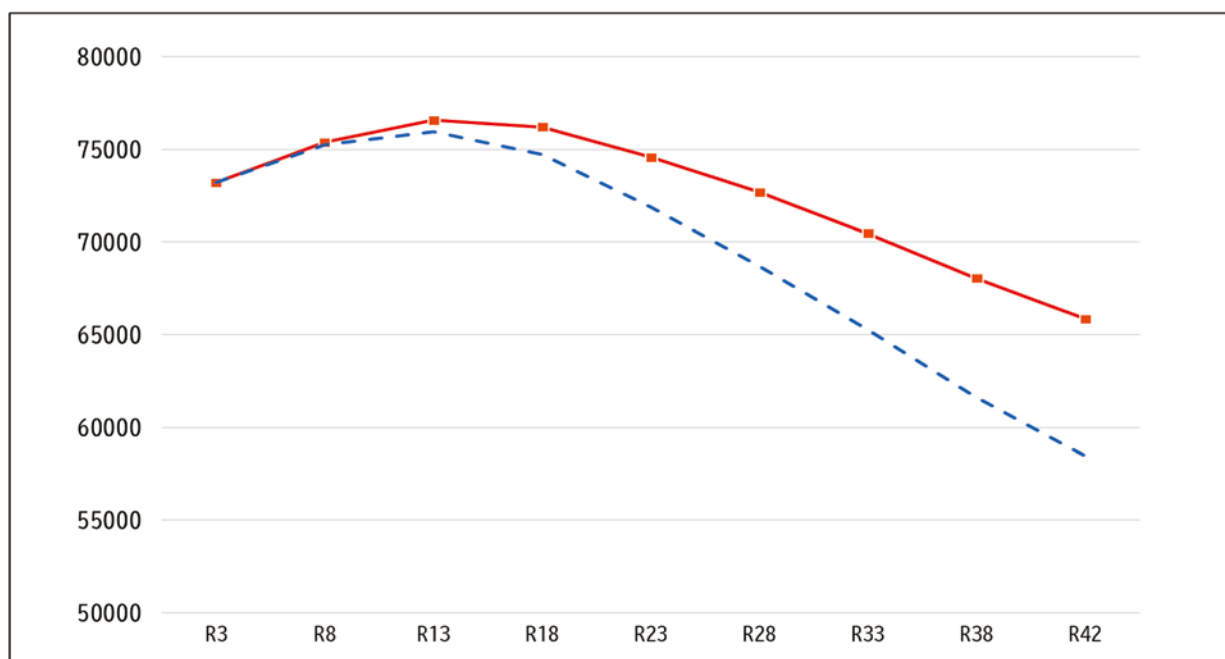


2 将来人口推計

(1) 基本推計結果

パターン①	1.33(市の令和元年の実績値)から始まり、段階的に上昇し、令和22年(2040年)に2.07(国の示す「人口置換水準」)を達成
パターン②	毎年コンスタントに1.39(市の過去10年平均)を達成

図 将来人口推計(2つのパターン)



	R3	R8	R13	R18	R23	R28	R33	R38	R42
パターン①	73,217	75,375	76,578	76,209	74,569	72,681	70,465	68,045	65,849
パターン②	73,217	75,256	75,948	74,727	71,871	68,697	65,247	61,625	58,473

本市の将来人口は、しばらく増加傾向が続きますが、出生率が現状維持のままの場合、令和12年に約76,000人でピークを迎え、減少傾向に転じ、令和42(2060)年には約58,500人となる見込みです。

出生率が、2.07まで上昇すると仮定すると、令和14年に約76,600人でピークを迎え、減少傾向に転じ、令和42(2060)年には約66,000人となる見込みです。

(2) 年齢3区分別人口推計

①出生率が上昇すると仮定した場合の推計（パターン①）

出生率が上昇すると仮定した場合の推計では、年齢3区分別の人口推計では、0～14歳までの年少人口は、令和24年頃まで微増を続け、その後減少に転じます。

15～64歳までの生産年齢人口は、令和10年頃まで微増しますが、その後大きく減少します。

また、65歳以上の老年人口は令和34年頃まで増加を続け、その後ゆるやかに減少します。

なお、75歳以上の後期高齢者人口は、令和41年頃まで増加が続きます。

人口構成比では、65歳以上の老年人口が、令和3年の23.8%から令和42年には35%程度まで上昇すると推計されます。

図 年齢3区分別人口推計（パターン①）

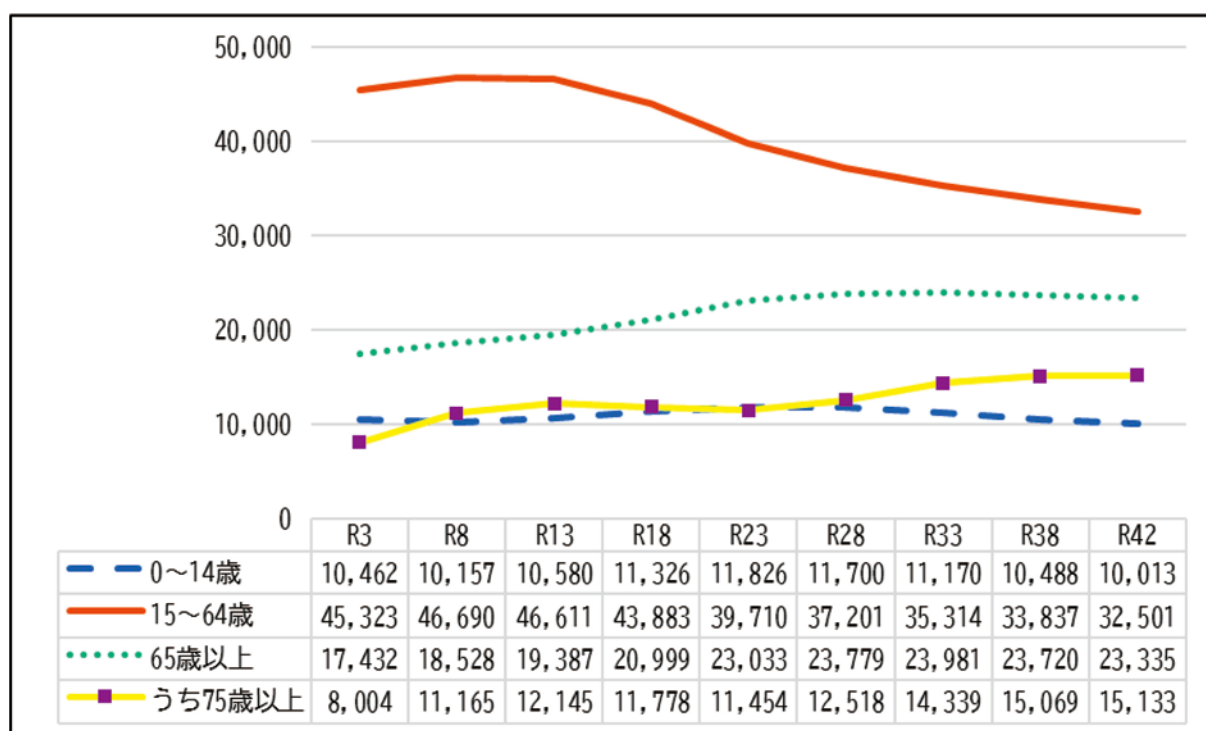
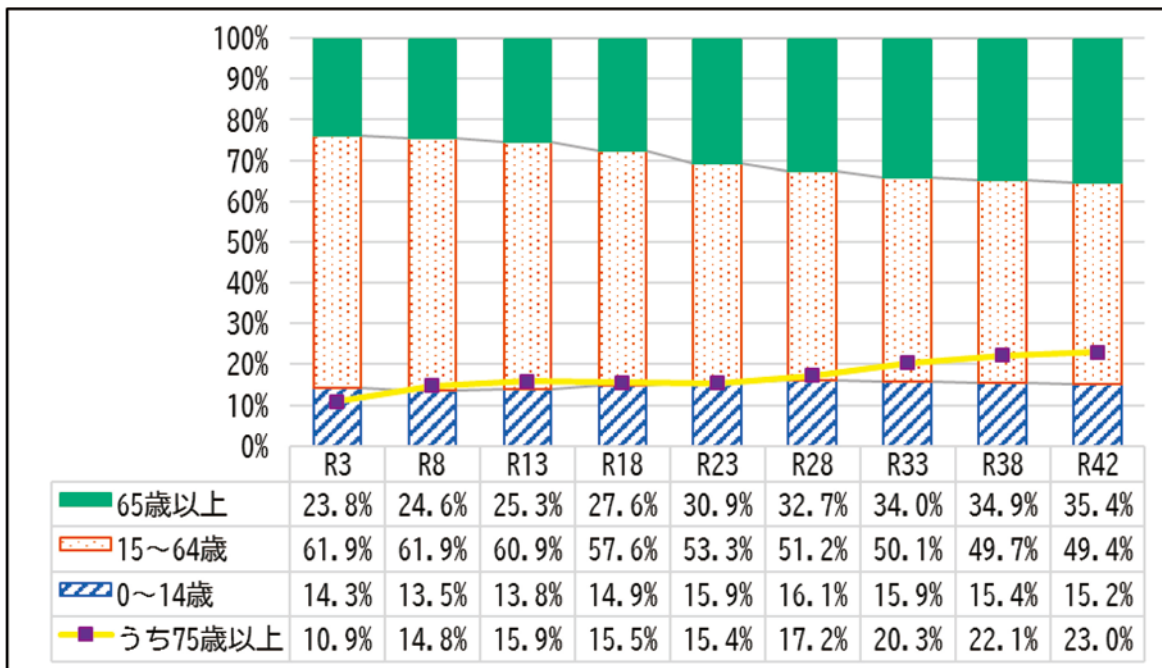


図 年齢3区分別人口の割合（パターン①）



②出生率が現状と同様の水準で推移すると仮定した場合の推計（パターン②）

出生率が現状と同様の水準で推移すると仮定した場合の推計では、年齢3区分別の人口推計では、0～14歳までの年少人口は、令和14年頃に減少に転じます。

15～64歳までの生産年齢人口は、令和10年頃まで微増しますが、その後大きく減少します。

また、65歳以上の老年人口は令和30年頃まで増加を続け、その後ゆるやかに減少します。

なお、75歳以上の後期高齢者人口は、令和40年頃まで増加を続けた後にゆるやかに減少に転じます。

人口構成比では、65歳以上の老年人口が、令和3年の23.8%から令和42年には4割程度まで上昇すると推計されます。

図 年齢3区分別人口推計（パターン②）

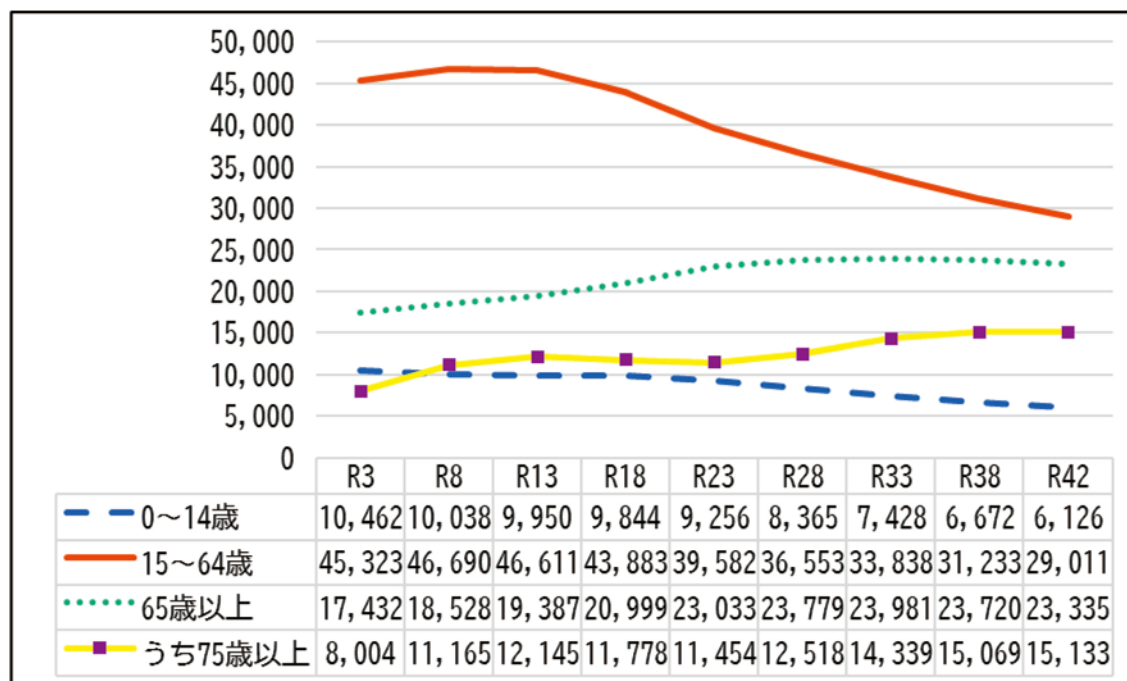
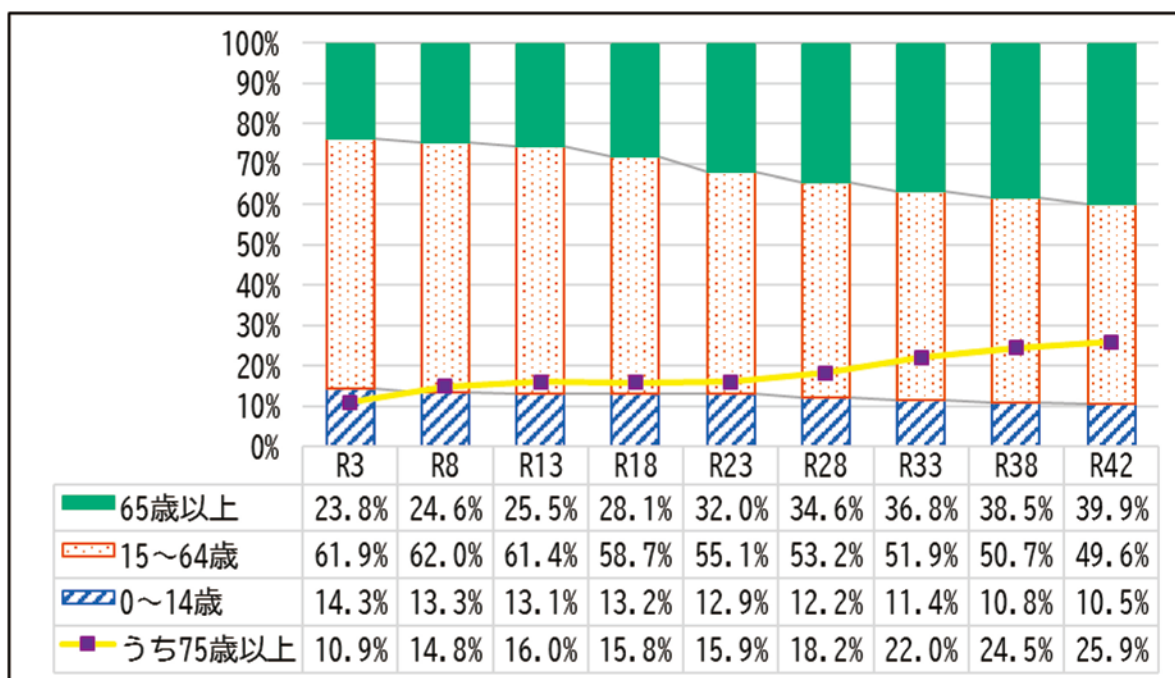


図 年齢3区分別人口の割合（パターン②）



(3) 地区別人口推計

①旭地区

旭地区の将来人口推計は、減少が続き、令和42年に、パターン①の場合には2,859人、パターン②の場合には2,496人となる推計です。

人口構成比をみると、65歳以上人口の割合が、パターン①で令和22年頃にピークを迎え、パターン②で令和37年頃にピークを迎えると推計されます。

図 将来人口推計（旭地区）

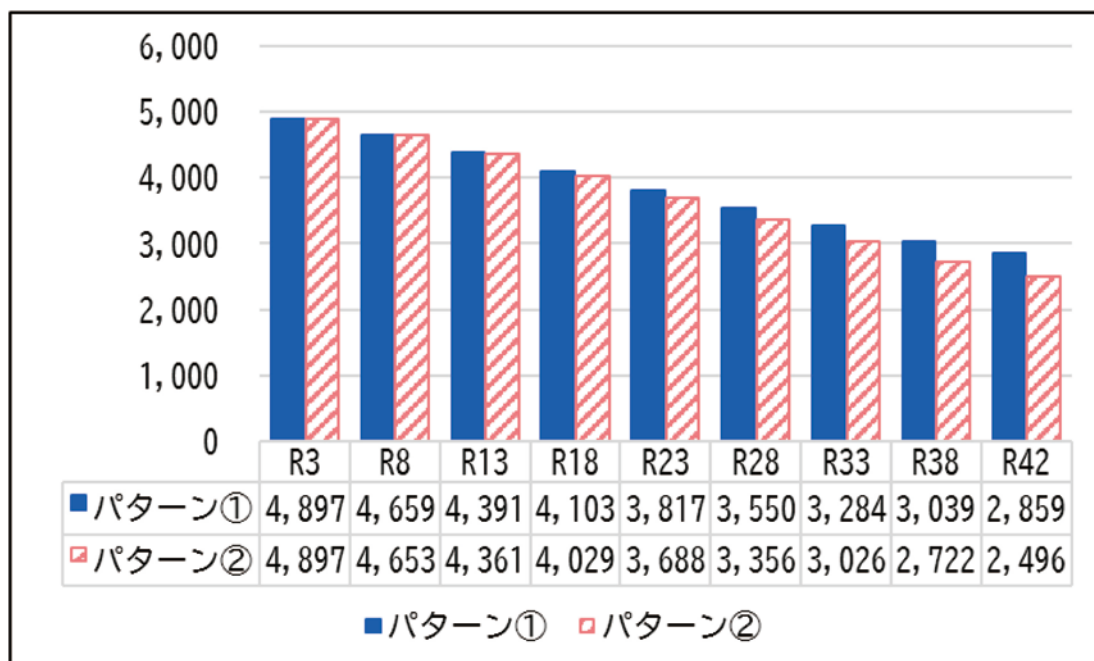


図 年齢3区分別人口の割合（旭地区 パターン①）

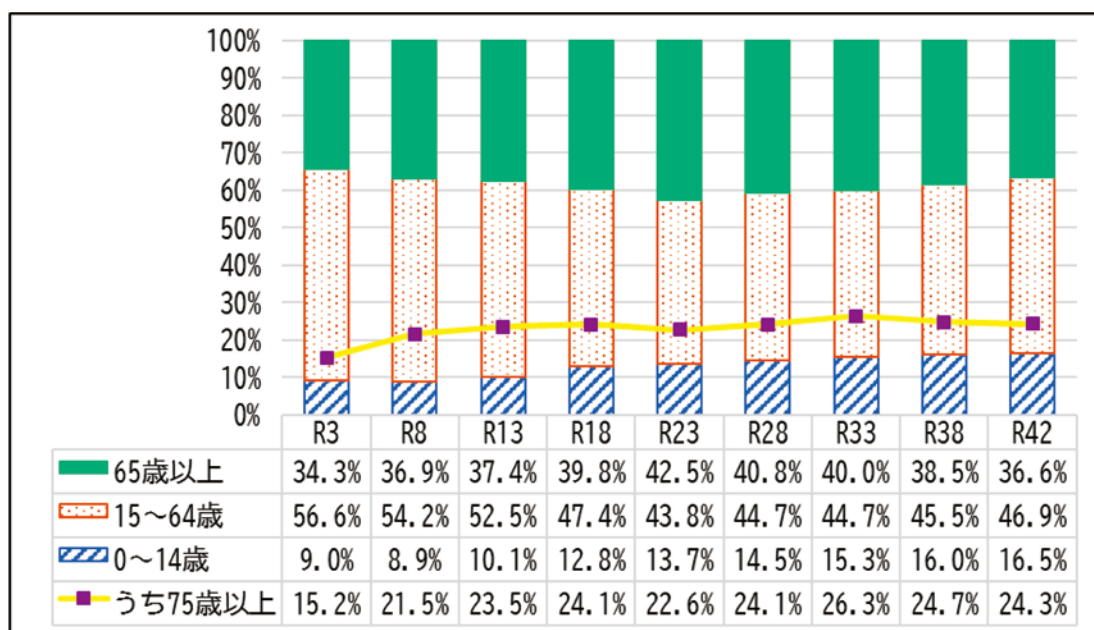
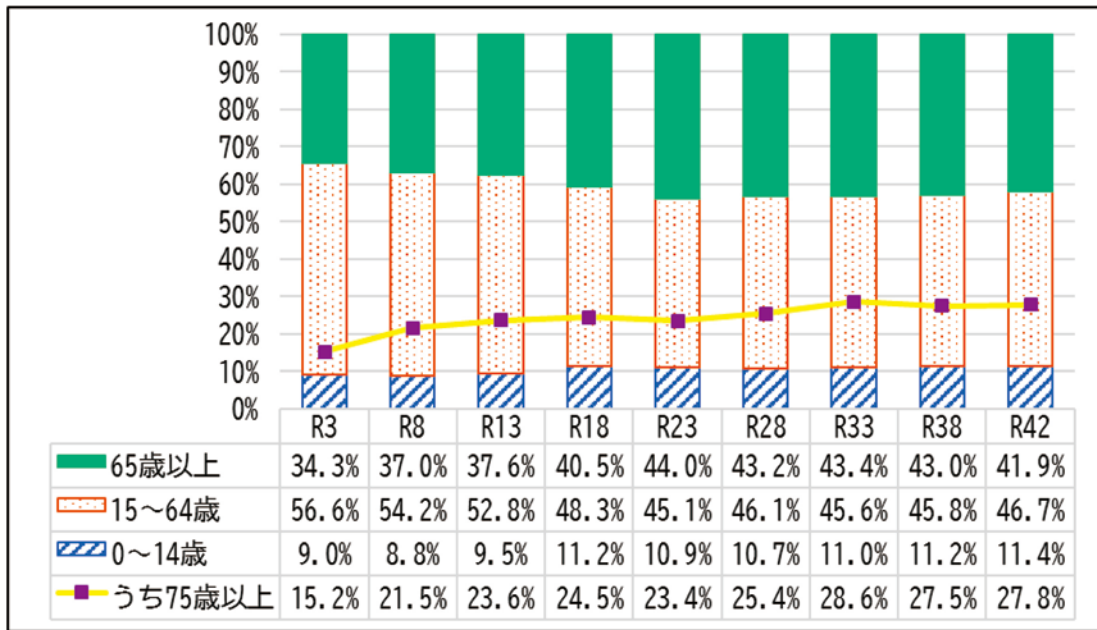


図 年齢3区分別人口の割合（旭地区 パターン②）



②三輪野江地区

三輪野江地区の将来人口推計は、減少が続き、令和42年に、パターン①の場合には3,601人、パターン②の場合には3,146人となる推計です。

人口構成比をみると、65歳以上人口の割合が、パターン①で令和22年頃にピークを迎え、パターン②で令和40年頃にピークを迎えると推計されます。

図 将来人口推計（三輪野江地区）

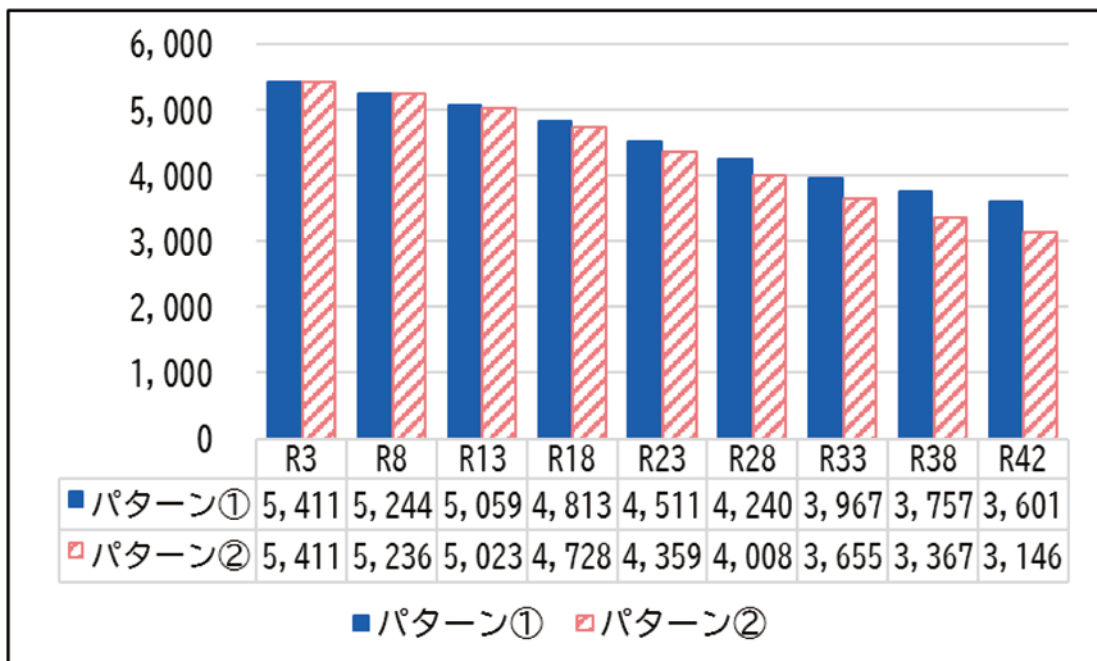


図 年齢3区分別人口の割合（三輪野江地区 パターン①）

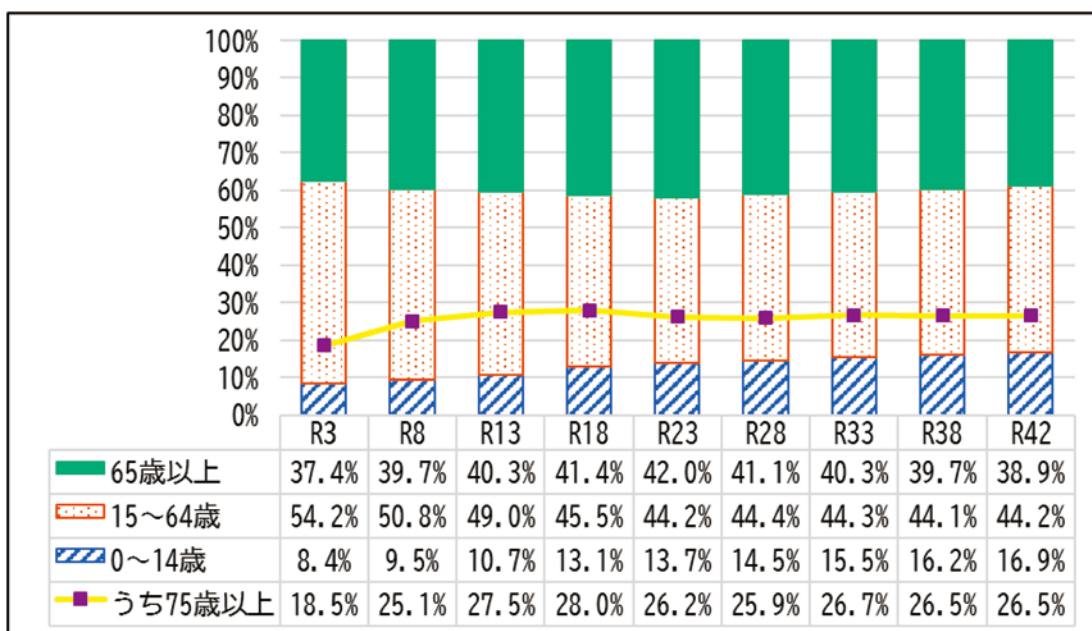
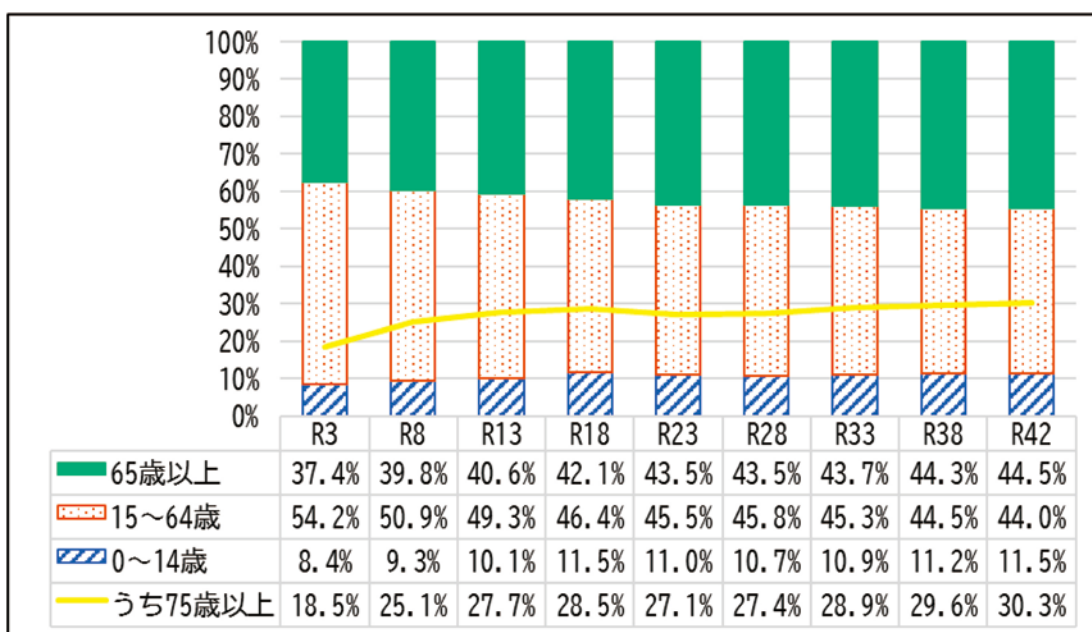


図 年齢3区分別人口の割合（三輪野江地区 パターン②）



③ 吉川中央地区

吉川中央地区の将来人口推計は、微減傾向が続き、令和42年に、パターン①の場合には22,576人、パターン②の場合には20,044人となる推計です。

人口構成比をみると、65歳以上人口の割合が、パターン①で令和29年頃にピークを迎え、パターン②で令和31年頃にピークを迎えると推計されます。

図 将来人口推計（吉川中央地区）

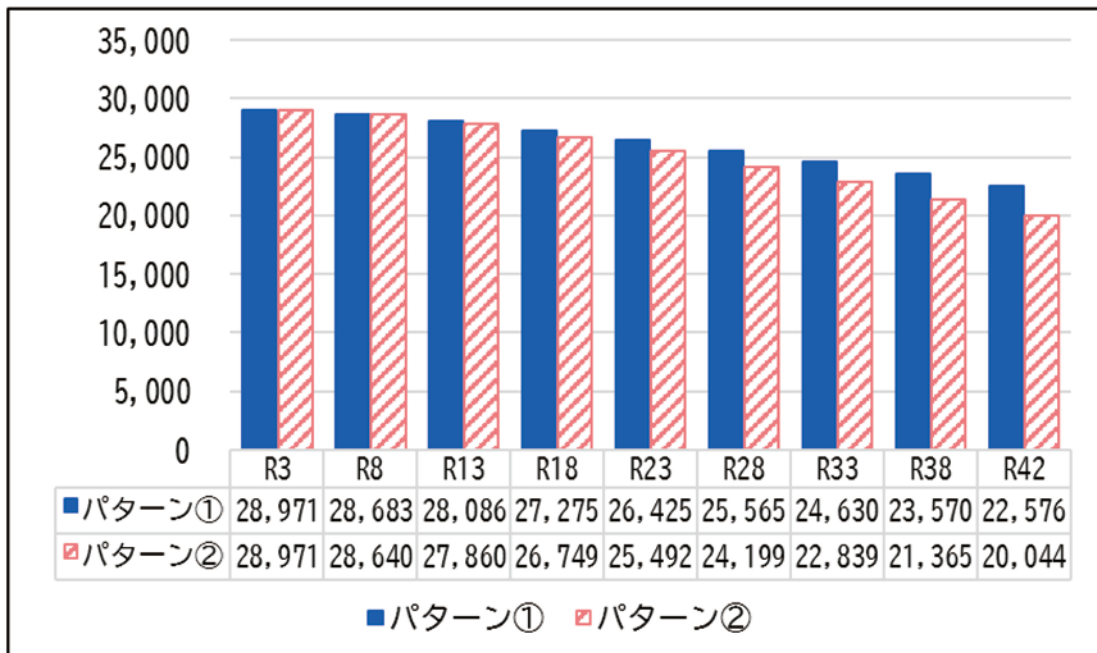


図 年齢3区分別人口の割合（吉川中央地区 パターン①）

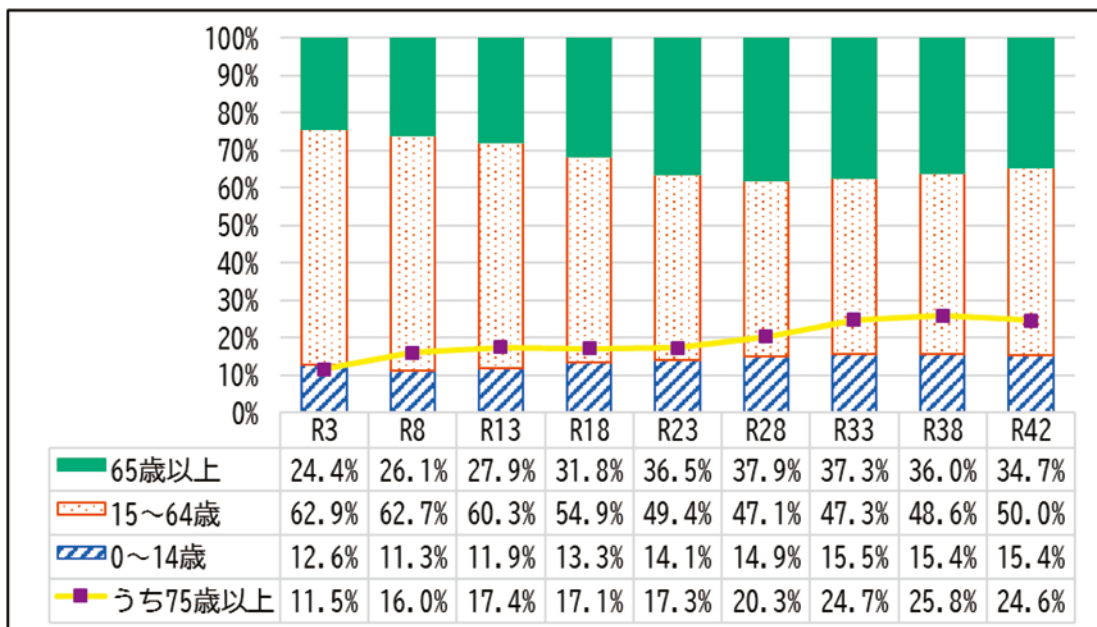
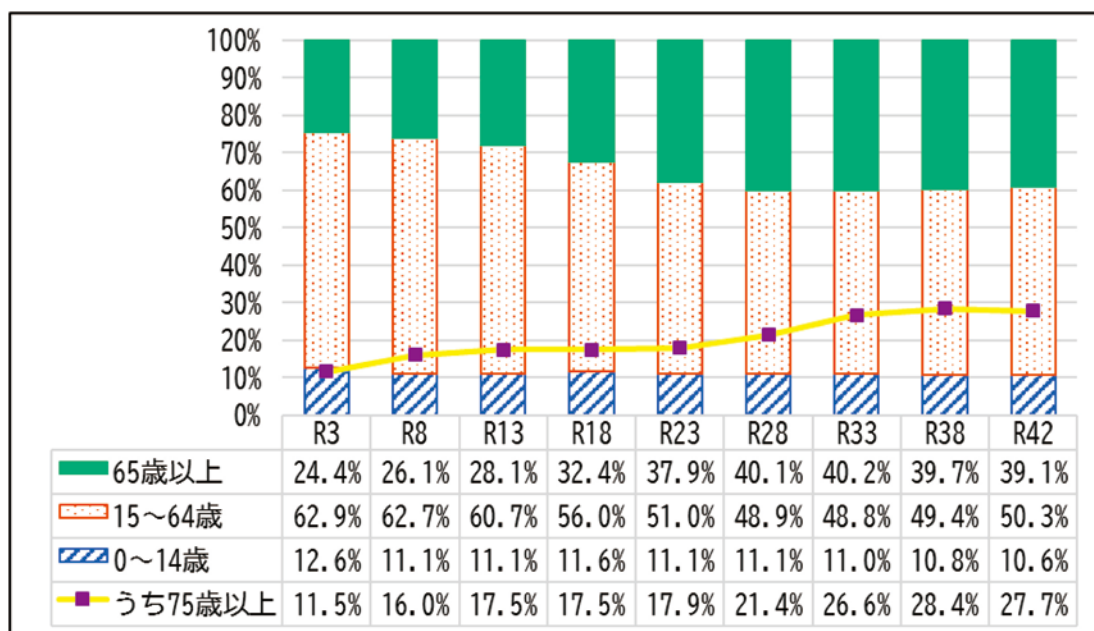


図 年齢3区分別人口の割合（吉川中央地区 パターン②）



④吉川南部地区

吉川南部地区の将来人口推計は、今後数年間微増で推移し、その後減少に転じます。令和42年に、パターン①の場合には19,868人、パターン②の場合には17,717人となる推計です。

人口構成比をみると、65歳以上人口の割合が、パターン①で令和27年頃にピークを迎え、パターン②で令和42年まで上昇が続くと推計されます。

図 将来人口推計（吉川南部地区）

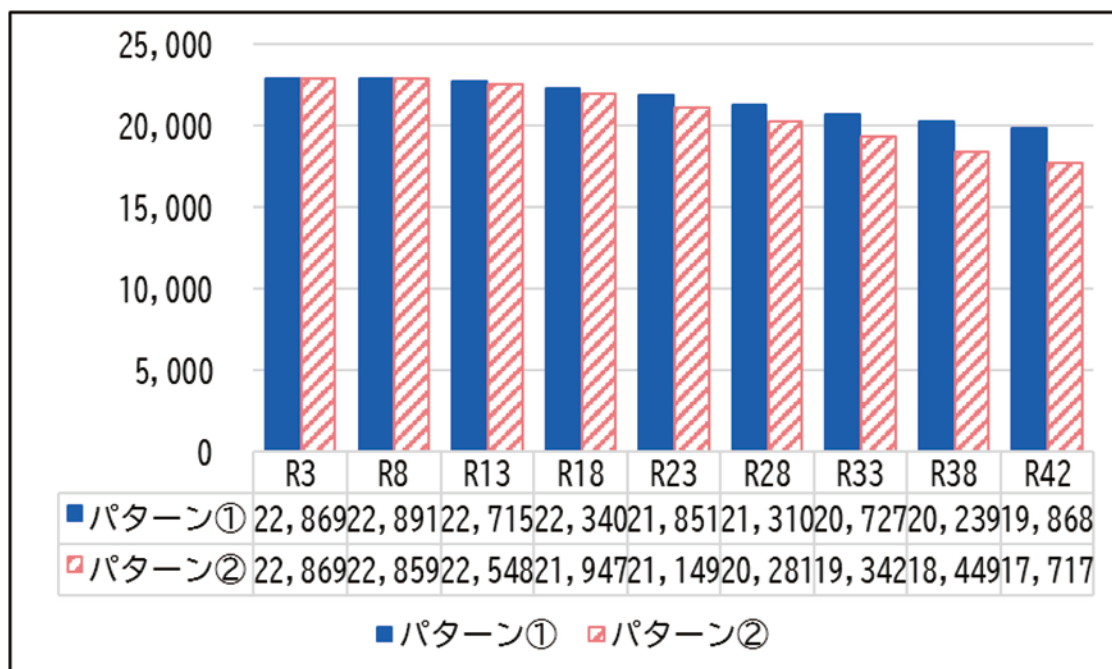


図 年齢3区分別人口の割合（吉川南部地区 パターン①）

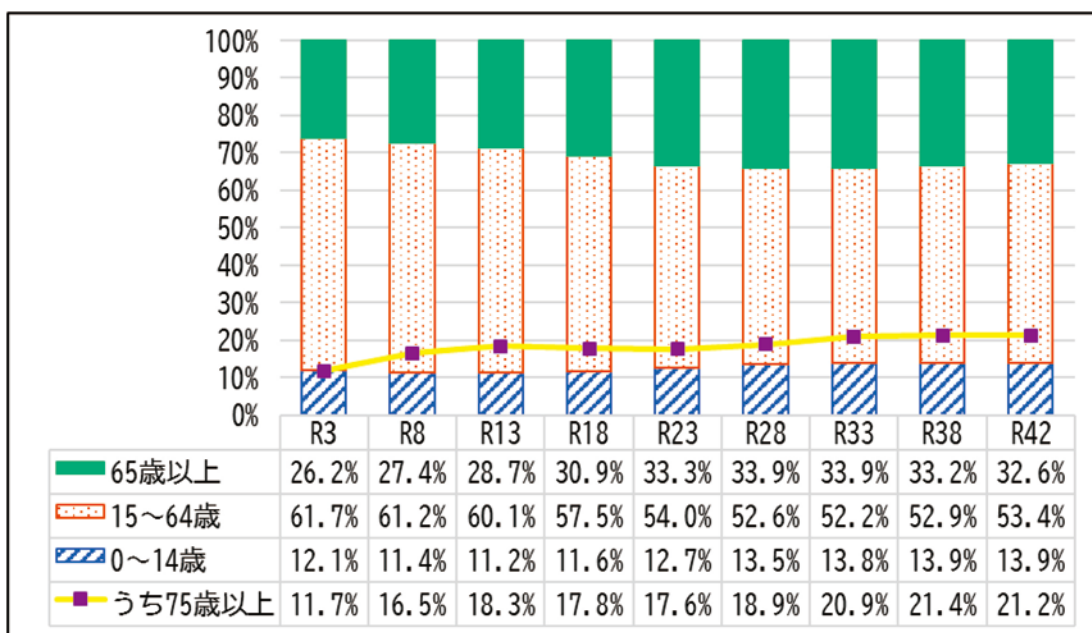
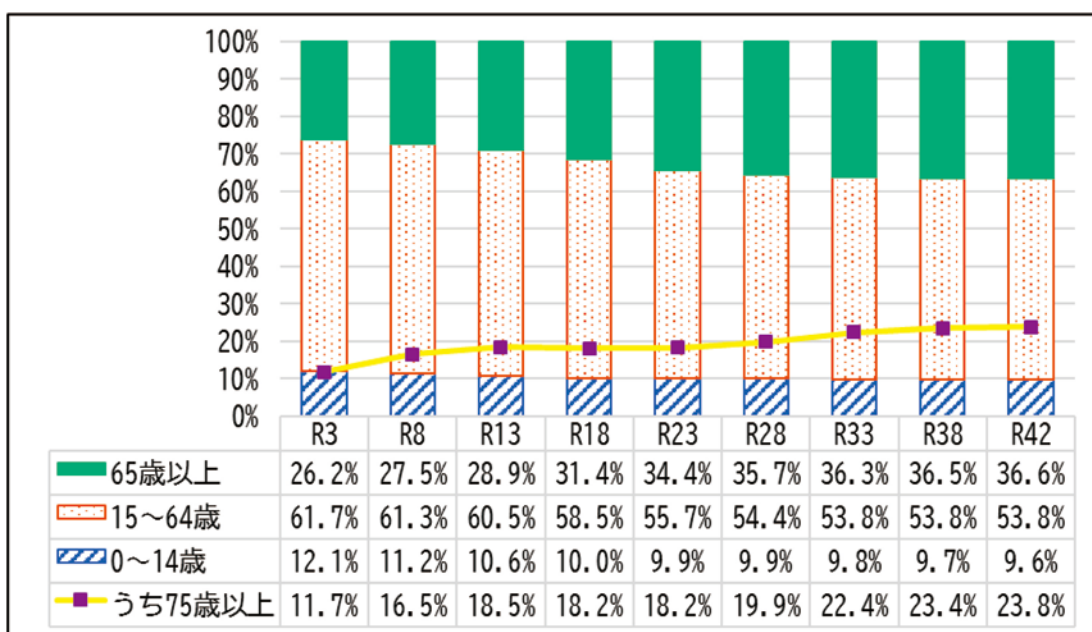


図 年齢3区分別人口の割合（吉川南部地区 パターン②）



⑤美南地区

美南地区の将来人口推計は、令和10年代後半まで増加傾向が続き、その後減少に転じます。令和42年に、パターン①の場合には11,999人、パターン②の場合には10,682人となる推計です。

人口構成比をみると、美南地区は他地区に比べて、65歳未満の人口の割合が高いため、他地区に比べて高齢化が遅れてきます。そのため、令和42年以降に高齢化のピークを迎えると推計されます。

図 将来人口推計（美南地区）

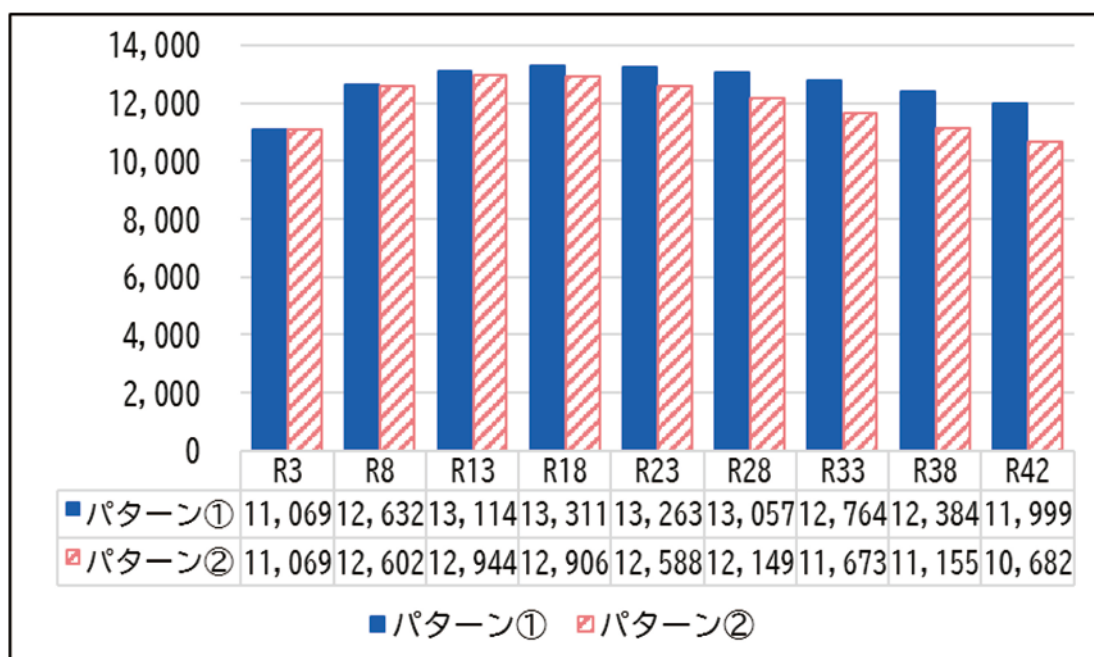


図 年齢3区分別人口の割合（美南地区 パターン①）

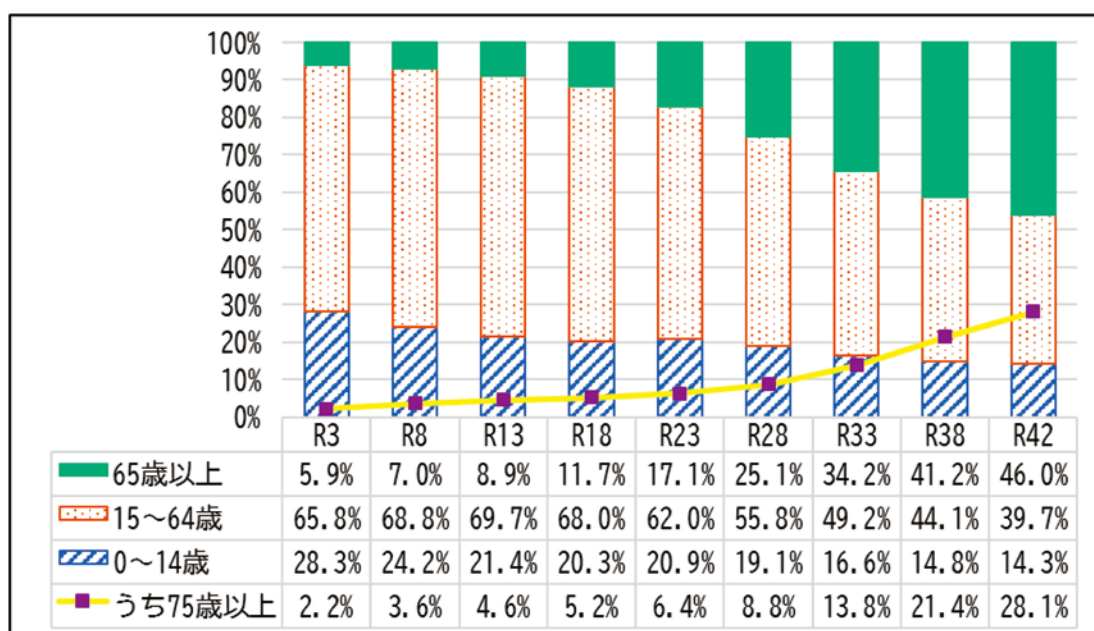
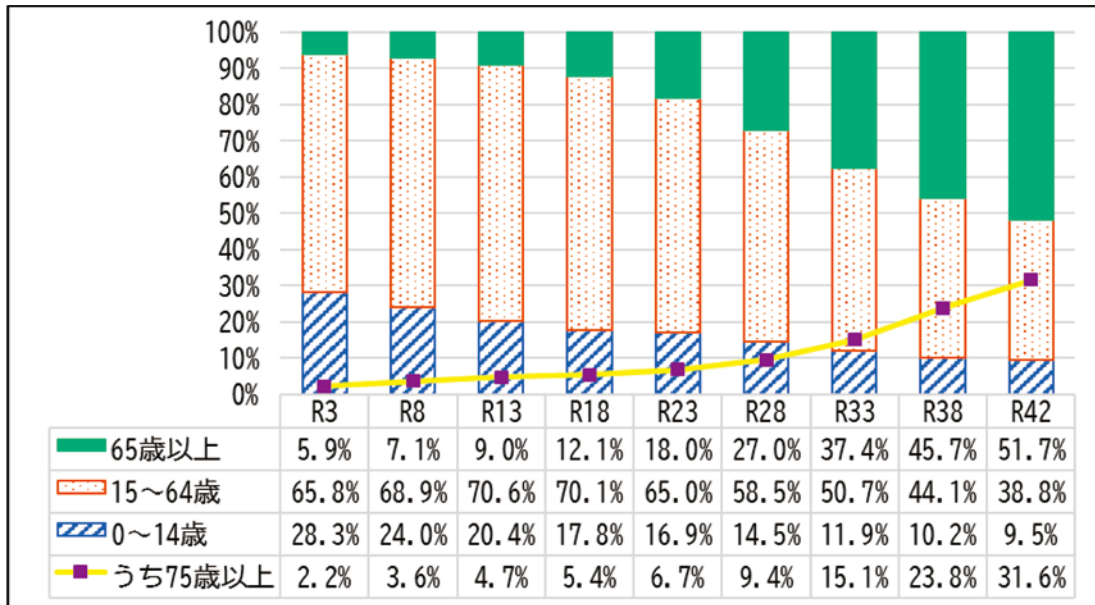


図 年齢3区分別人口の割合（美南地区 パターン②）

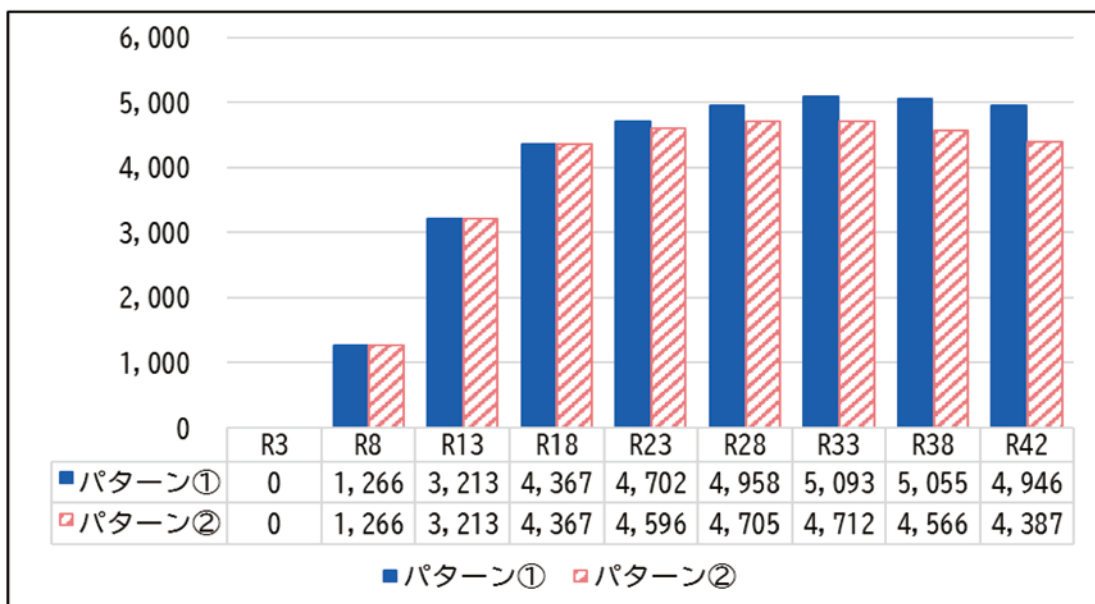


⑥吉川美南駅東口周辺地区

吉川美南駅東口周辺地区の将来人口推計は、令和6年から人口の定着を開始し、パターン①の場合で令和34年に5,102人、パターン②の場合で令和31年に4,728人でピークを迎え、その後減少に転じます。令和42年に、パターン①の場合には4,946人、パターン②の場合には4,387人となる推計です。

人口構成比については、美南地区の人口構成を参考にしているため、美南地区と同様の推移を示し、高齢化は他の地区より遅れてピークを迎えると推計されます。

図 将来人口推計（吉川美南駅東口周辺地区）



※開発後に定着する人口のみ推計を行っており、令和3年4月1日現在で当該地区に居住されている方の人口は、吉川南部地区に含めて推計しています。

図 年齢3区分別人口の割合（吉川美南駅東口周辺地区 パターン①）

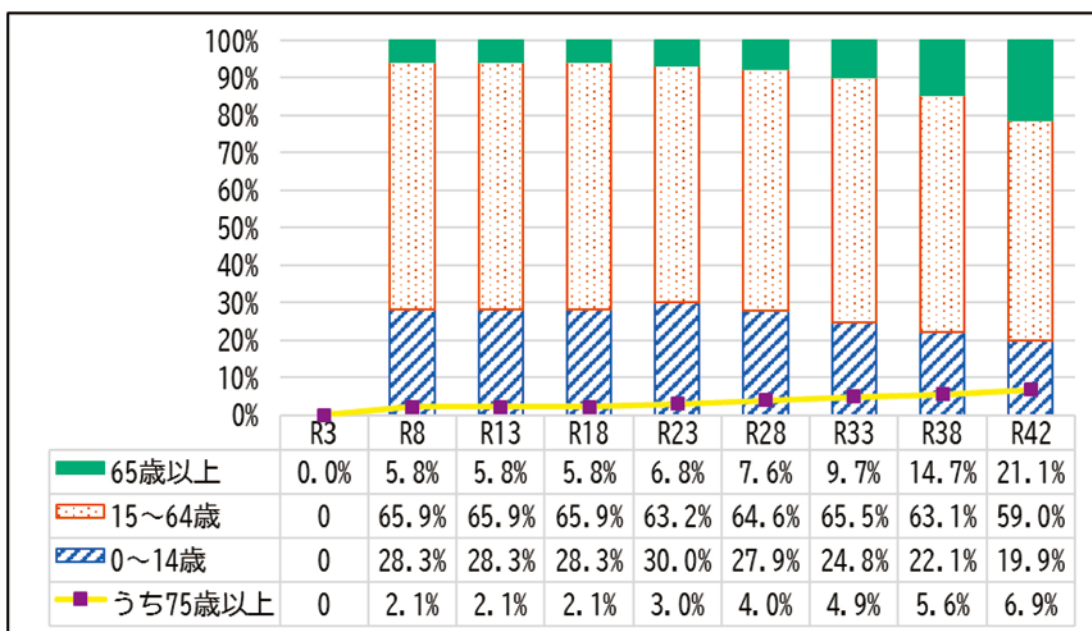
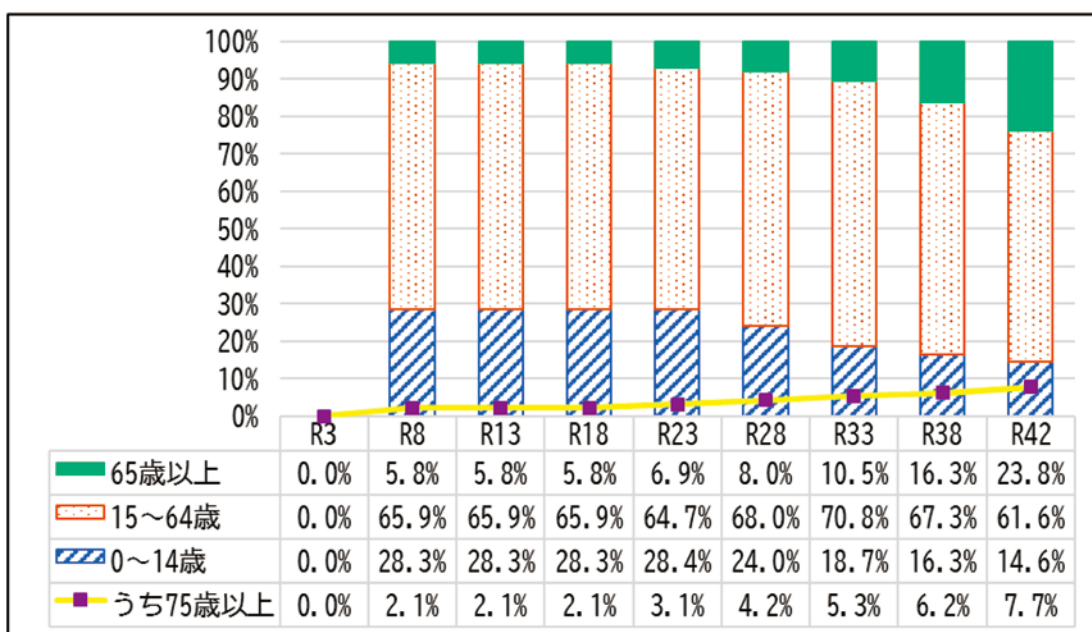


図 年齢3区分別人口の割合（吉川美南駅東口周辺地区 パターン②）



3 人口の変化が市の将来に与える影響

本市の人口は、吉川美南駅東口周辺地区への人口定着後には、減少傾向に転じることが見込まれており、急速な高齢化を迎えます。

本市の人口動態は地区によって異なり、人口が増加傾向にあるのは美南地区のみで、吉川中央地区及び吉川南地区はほぼ横ばい、旭地区及び三輪野江地区では減少傾向となっています。

また、高齢化率を地区別に見ると、旭地区及び三輪野江地区では既に全国平均を超えています。

0～14歳の年少人口全体では減少傾向にあることから、若年層の人口流入がない場合、少子化はさらに進んでいきます。

これらの人口の変化が将来に与える影響について、以下のとおり考察しました。

①経済成長

15～64歳の生産年齢人口の減少は、労働力不足を招き、事業撤退や担い手不足などにつながります。さらに消費者の減少が加わり、地域経済の停滞につながる懸念があります。

②地域生活

人口減少により、自治会活動をはじめとする地域コミュニティの維持が困難になり、地域による高齢者や子どもの見守りの力など、地域における共助の機能低下が懸念されます。

一方で、増加する高齢者に関しては、地域コミュニティの担い手としての役割も期待されることです。

また、人口の少ない地区では、児童・生徒の減少による学校運営への影響が懸念されます。

③社会保障費

急速な高齢化に伴い、介護や医療費など社会保障費が急激に増加します。令和3年には、65歳以上の高齢者一人を15～64歳までの生産年齢人口2.6人で支えています。出生率が現状と同様の水準で推移すると仮定した場合、令和42年には高齢者一人を1.2人の生産年齢人口で支えることとなります。

④行政運営

生産年齢人口の減少に伴い、長期的に市税などの歳入の減少が見込まれる一方で、社会保障費の増大のほか、公共施設の維持・改修なども計画されており、財源不足に伴う行政サービスの質の低下などが懸念されます。

第4章 将来展望のための調査・分析

1 市民意識調査・転入者調査の結果

(1) 調査概要

人口の将来展望の検討のため、市民意識調査及び転入者調査の結果を分析しました。使用した調査の概要は以下のとおりです。

種別	① 市民意識調査	② 転入者調査
調査対象	18歳以上の市民	吉川市に転入した方
対象者の抽出方法	無作為抽出	対象者に限る
発送数	1,500通	-
回収数	681通	216通
回収率	45.4%	-
調査方法	郵送配布・回収	窓口にて配布・回収
調査期間	令和3年6月から7月まで	令和2年7月から9月まで

(2) 市民意識調査について

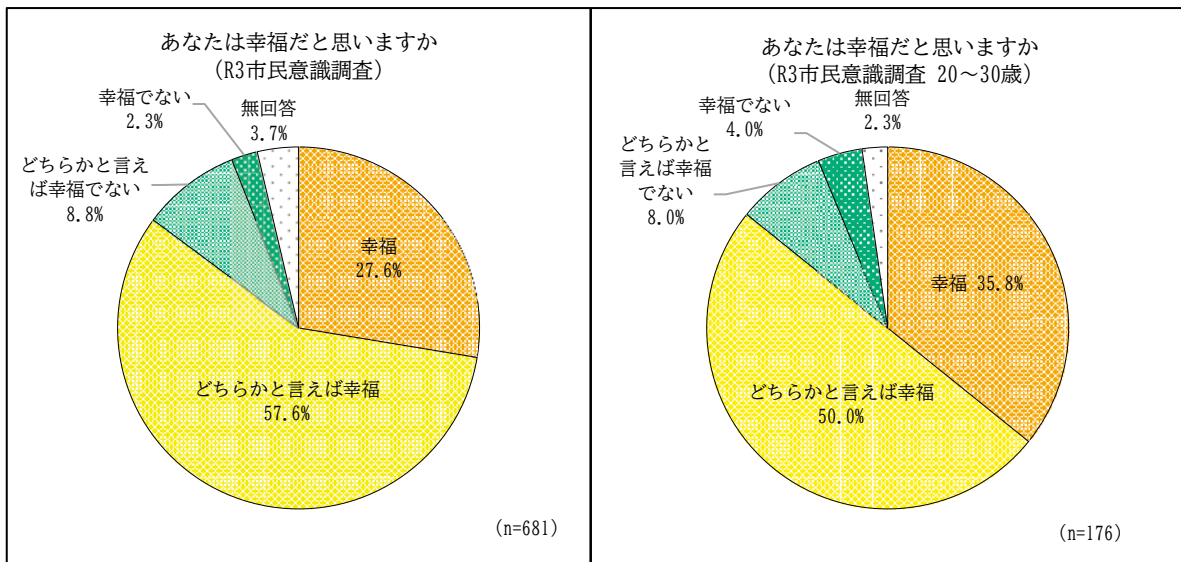
本調査は、市政に対する市民ニーズが多様化している中で、市の取組についての市民の意向（満足度・重要度）や意識を調査・把握することを目的とするもので毎年実施をしています。

ここでは、過去3年間の経年指標を掲載するとともに、市の取組に対する子育て世代の意向や意識を確認するため、20、30歳代についてもデータを抽出し、グラフで比較をしています。ただし、20、30歳代の回答数が少ないため、統計上は参考程度のデータとなります。

①幸福実感

設問：あなたは幸福だと思いますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
幸福	26.0%	27.2%	27.6%
どちらかと言えば幸福	61.3%	60.7%	57.6%
どちらかと言えば幸福でない	8.0%	7.2%	8.8%
幸福でない	2.5%	1.7%	2.3%
無回答	2.2%	3.2%	3.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%



幸福感について、全体では、「幸福」が27.6%、「どちらかと言えば幸福」が57.6%となっており、合わせて85.2%の市民が幸福を感じていると回答しています。

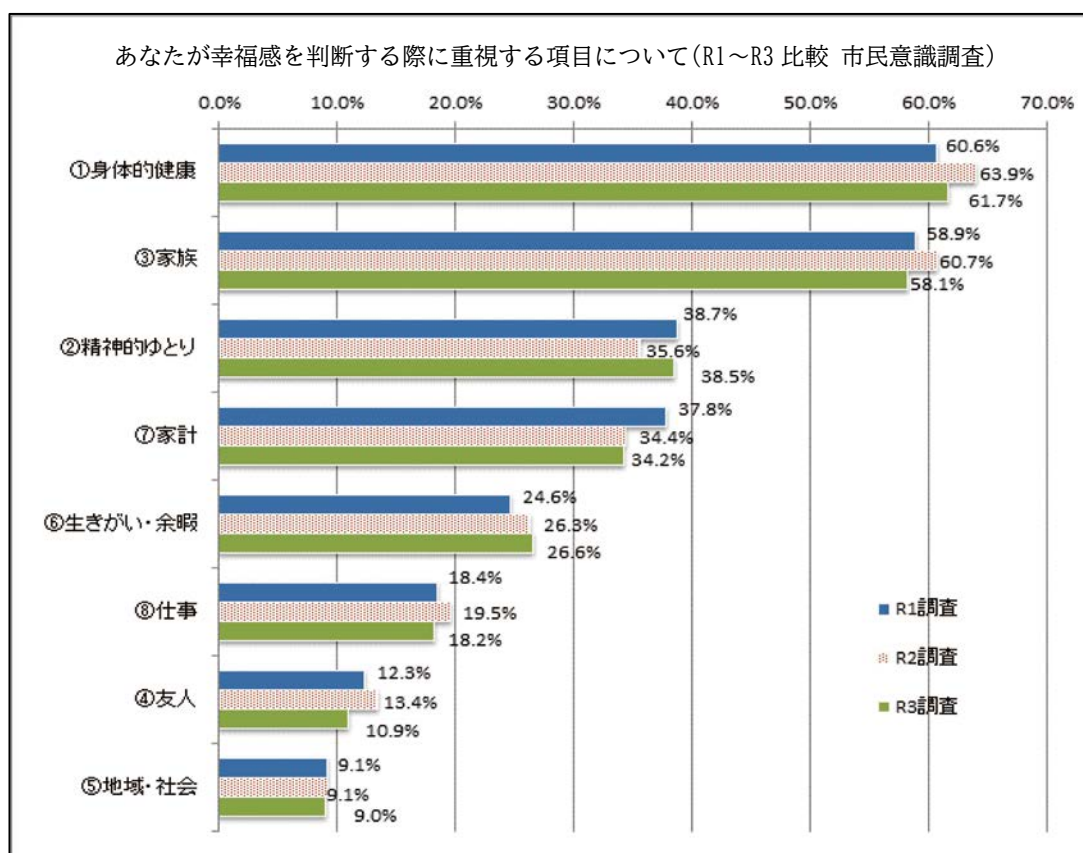
20、30歳代も同様の水準で、「幸福」が35.8%、「どちらかと言えば幸福」が50.0%となっており、85.8%が幸福を感じていると回答しています。

設問：あなたが幸福感を判断する際に重視する項目について(3つまで)

回答項目／年度	R1	R2	R3
① 身体的健康	60.6%	63.9%	61.7%
② 精神的ゆとり	38.7%	35.6%	38.5%
③ 家族	58.9%	60.7%	58.1%
④ 友人	12.3%	13.4%	10.9%
⑤ 地域・社会	9.1%	9.1%	9.0%
⑥ 生きがい・余暇	24.6%	26.3%	26.6%
⑦ 家計	37.8%	34.4%	34.2%
⑧ 仕事	18.4%	19.5%	18.2%

n=635 n=596 n=681

※構成比については、対象者数で除して算出

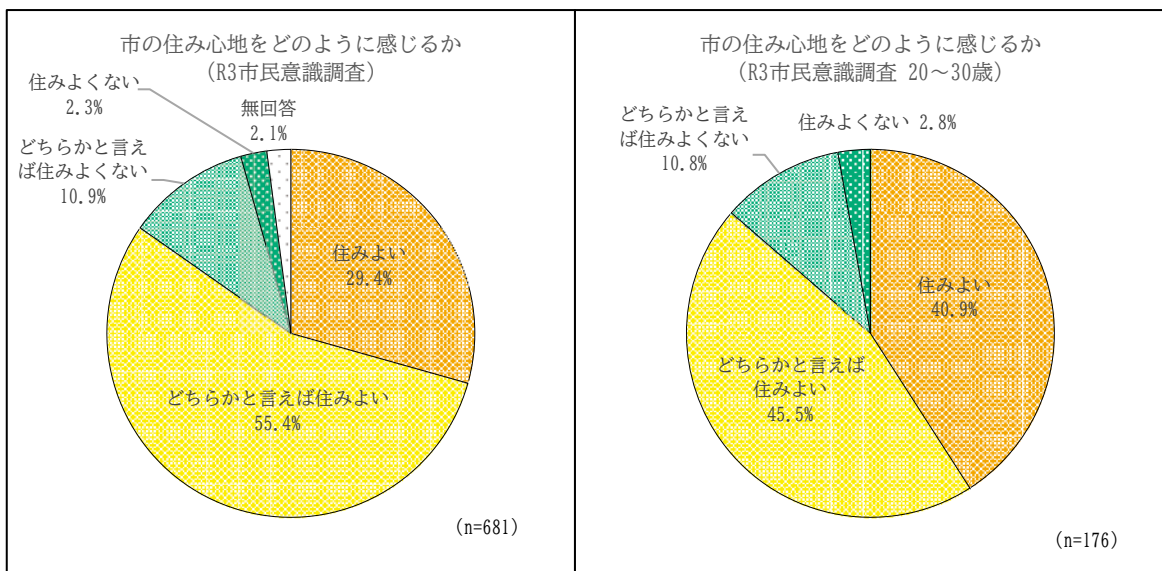


幸福感を判断する際に重視する項目については、上から「身体的健康」、「家族」、「精神的ゆとり」の順となっています。

②住み心地

設問：現在の吉川市（お住まいの周辺の環境）の住み心地をどのように感じますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
住みよい	27.6%	28.2%	29.4%
どちらかと言えば住みよい	54.8%	53.0%	55.4%
どちらかと言えば住みよくない	12.9%	14.3%	10.9%
住みよくない	3.3%	2.5%	2.3%
無回答	1.4%	2.0%	2.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%

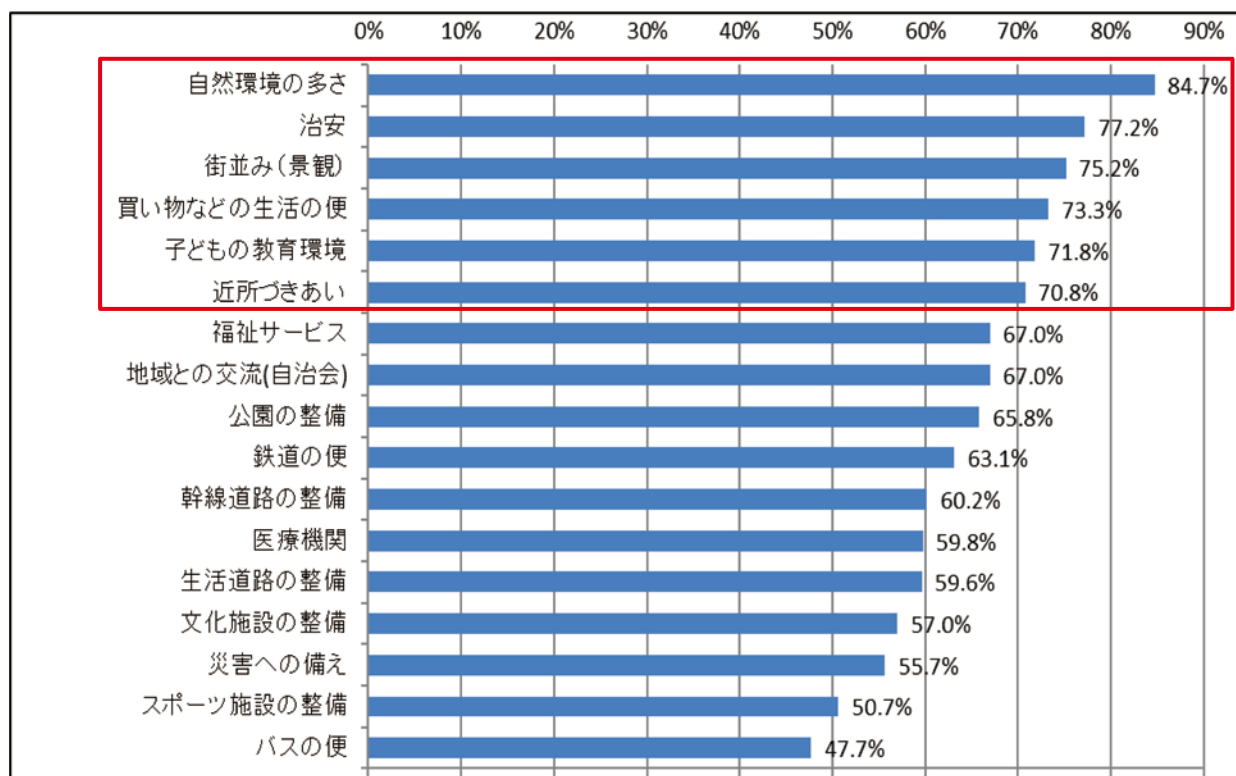


吉川市の住み心地については、全体では「住みよい」が 29.4%、「どちらかと言えば住みよい」が 55.4%となっており、合わせて 84.8%の市民が住みよいと回答しています。

20、30 歳代では、「住みよい」が 40.9%、「どちらかと言えば住みよい」が 45.5%となっており、合わせて 86.4%となっています。

設問：現在の吉川市（お住まいの周辺環境）の住み心地をよと感じた理由

【該当するもの全てを選択】

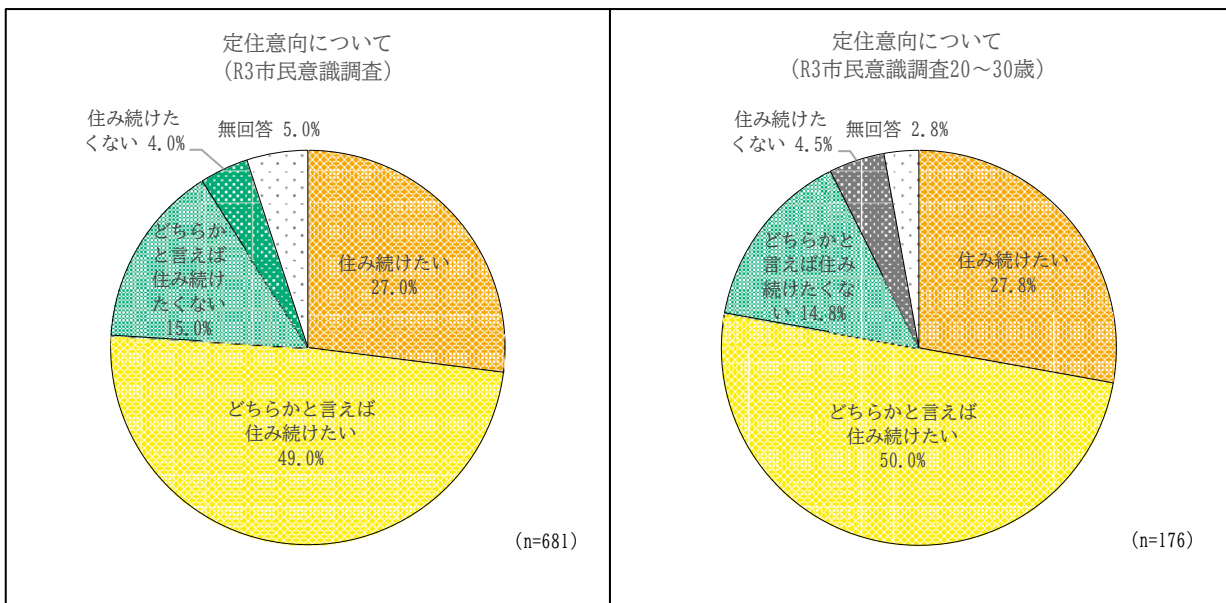


「吉川市の住み心地をよと感じた理由」の設問に対し、7割以上が選択したのは、「自然環境の多さ」「治安」「街並み(景観)」「買い物などの生活の便」「子どもの教育環境」「近所づきあい」となっています。

③定住意向

設問：これからも吉川市に住み続けたいと思いますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
住み続けたい	31.0%	26.2%	27.0%
どちらかと言えば住み続けたい	42.8%	46.5%	49.0%
どちらかと言えば住み続けたくない	15.1%	17.1%	15.0%
住み続けたくない	7.6%	6.5%	4.0%
無回答	3.5%	3.7%	5.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%



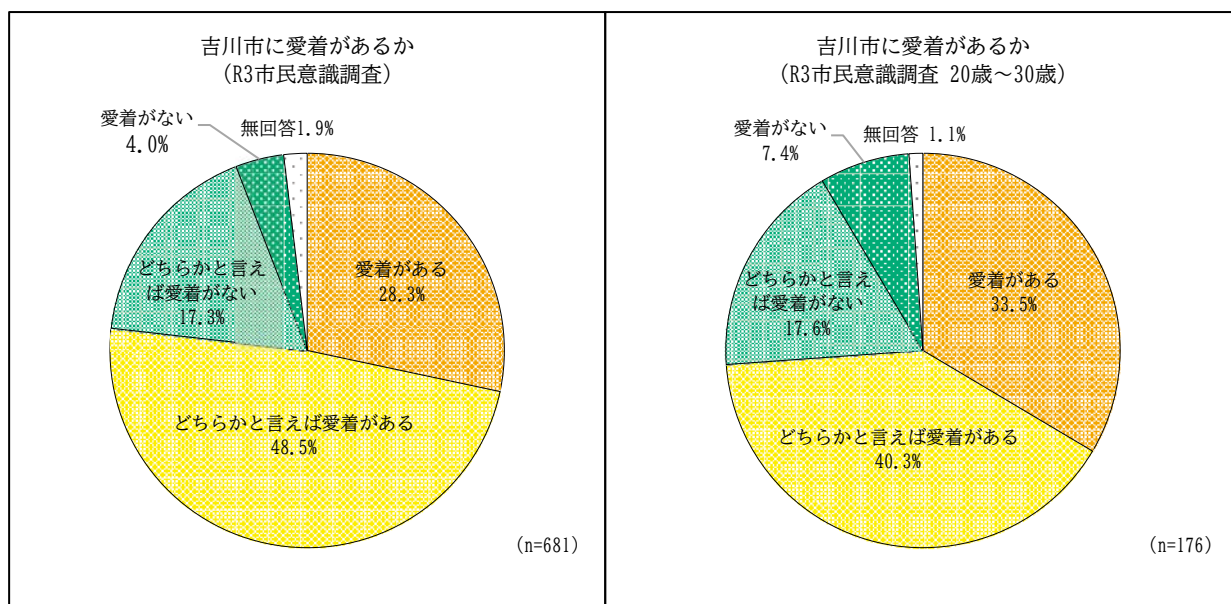
定住意向については、全体では「住み続けたい」が 27.0%、「どちらかと言えば住み続けたい」が 49.0%となっており、合わせて 76.0%の市民が住み続けたいと回答しています。

20、30 歳代では、「住み続けたい」が 27.8%、「どちらかと言えば住み続けたい」が 50.0%となっており、合わせて 77.8%が吉川市に住み続けたいと回答しています。

④愛着心

設問：吉川市に愛着がありますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
愛着がある	32.6%	27.2%	28.3%
どちらかと言えば愛着がある	42.8%	46.1%	48.5%
どちらかと言えば愛着がない	16.4%	20.6%	17.3%
愛着がない	6.8%	4.7%	4.0%
無回答	1.4%	1.3%	1.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%



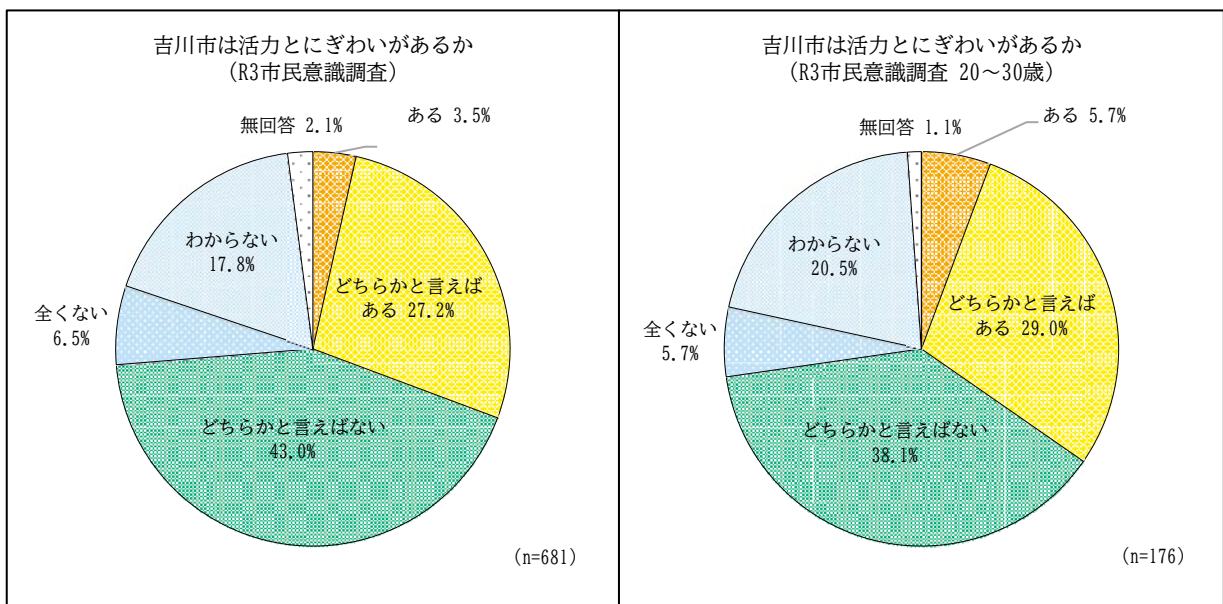
吉川市への愛着度については、全体では「愛着がある」が28.3%、「どちらかと言えば愛着がある」が48.5%となっており、合わせて76.8%の市民が愛着があると回答しています。

20、30歳代も同様の水準で、「愛着がある」が33.5%、「どちらかと言えば愛着がある」が40.3%となっており、合わせて73.8%が愛着があると回答しています。

⑤活力

設問：吉川市は活力とにぎわいがあると思いますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
ある	4.4%	3.2%	3.5%
どちらかと言えばある	28.5%	23.0%	27.2%
どちらかと言えない	40.9%	47.7%	43.0%
全くない	5.8%	5.4%	6.5%
わからない	18.1%	18.8%	17.8%
無回答	2.2%	2.0%	2.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%



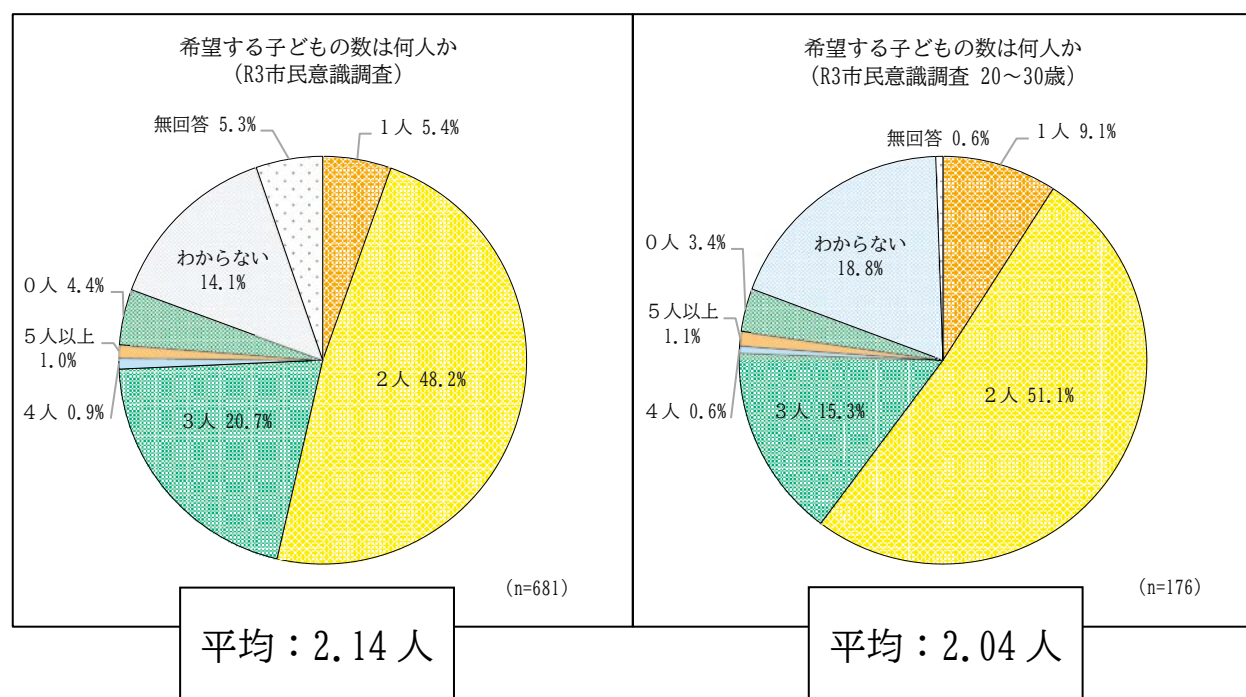
活力とにぎわいがあるかという設問については、全体では「ある」が3.5%、「どちらかと言えばある」が27.2%となっており、合わせて30.7%の市民が市に活力とにぎわいがあると回答しています。

20、30歳代では、「ある」が5.7%、「どちらかと言えばある」が29.0%で合わせて34.7%が市に活力とにぎわいがあると回答しています。

⑥子育て

設問：あなたが希望する子どもの数は何人ですか

回答項目／年度	R1	R2	R3
1人	4.1%	5.7%	5.4%
2人	44.3%	40.3%	48.2%
3人	26.8%	29.2%	20.7%
4人	1.7%	3.7%	0.9%
5人	0.5%	1.0%	1.0%
0人	3.5%	3.2%	4.4%
わからない	13.7%	12.2%	14.1%
無回答	5.5%	4.7%	5.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%

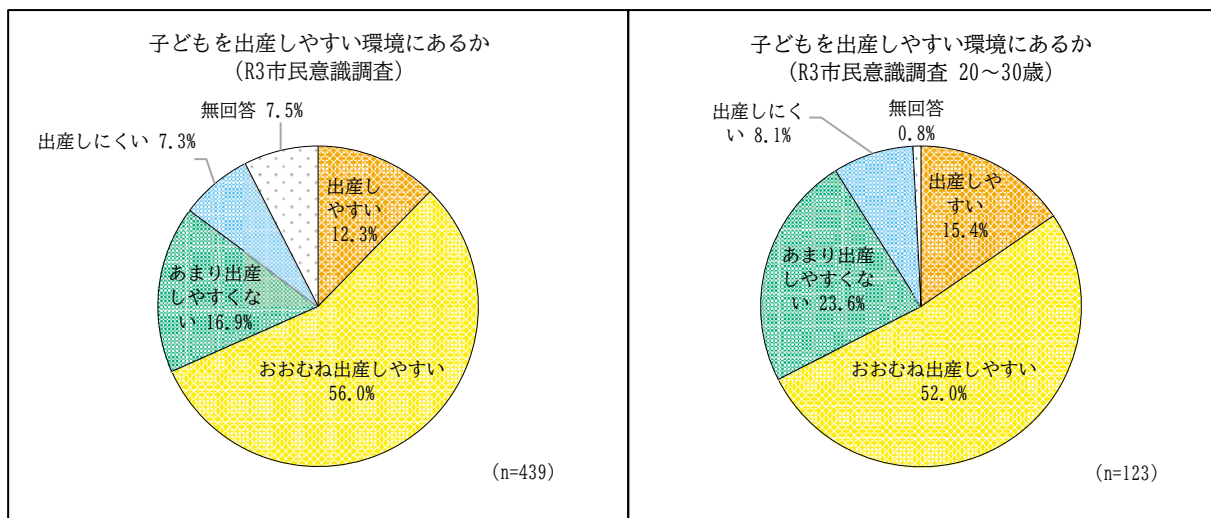


希望する子どもの数については、全体では平均2.14人となっているのに対し、20、30歳代では平均2.04人となっており、全体と比較して低い水準となっています。

設問：子どもを出産しやすい環境にあると思いますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
出産しやすい	9.4%	8.1%	7.9%
おおむね出産しやすい	33.4%	33.2%	36.1%
あまり出産しやすすくない	11.5%	13.8%	10.9%
出産しにくい	5.4%	4.0%	4.7%
わからない	34.0%	35.1%	35.5%
無回答	6.3%	5.9%	4.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%

【「わからない」の回答を除いた回答状況】



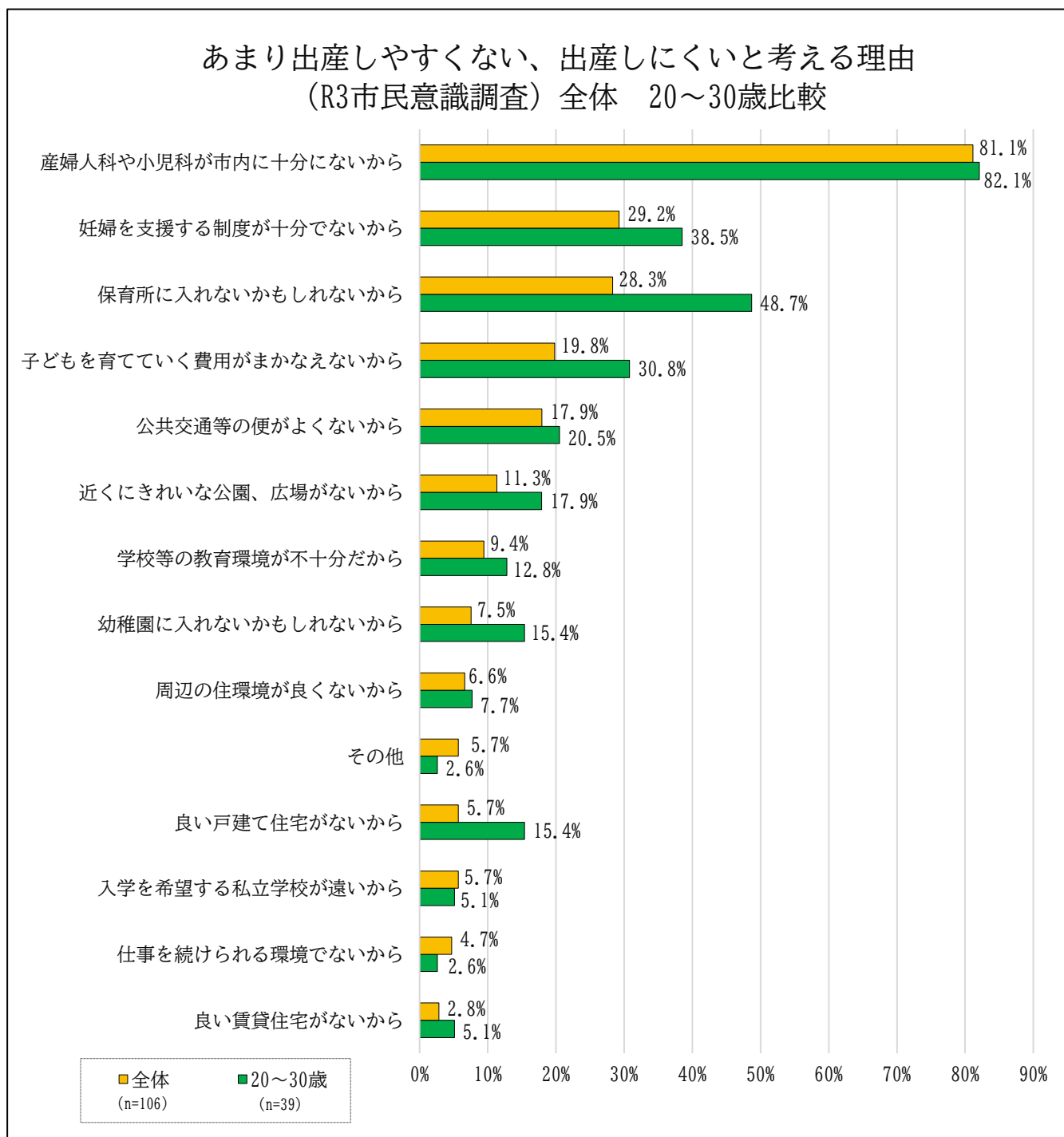
本設問においては、「わからない」の回答割合が高く、出産しやすい環境にあるかについての回答割合の比較が難しいことから、上記円グラフについては、「わからない」を除いた割合でグラフを算出しています。

子どもを出産しやすい環境にあるかという設問については、全体では「出産しやすい」、「おおむね出産しやすい」の合計が68.3%であり、20、30歳代では67.4%となっています。

設問：出産環境について「あまり出産しやすすくない・出産しにくい」と考える理由

前問で、市内の出産環境について、「あまり出産しやすすくない・出産しにくい」と回答した理由については、全体、20～30歳代ともに、「産婦人科や小児科が市内に十分でないから」の回答が最も多くなっています。

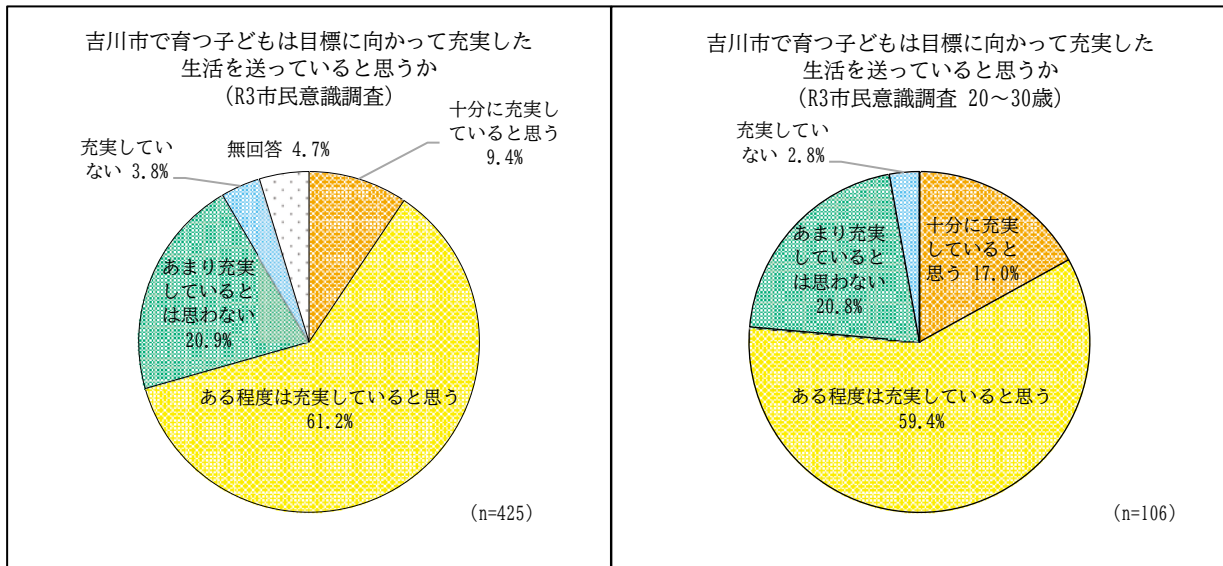
また、「保育所に入れないかもしれないから」、「子どもを育てていく費用がまかなえないから」、「良い戸建て住宅がないから」の回答については、20～30歳代の回答割合が全体を大きく上回っています。



設問：吉川市で育つ子どもは目標に向かって充実した生活を送っていると思いますか

回答項目／年度	R1	R2	R3
十分に充実していると思う	7.9%	4.9%	5.9%
ある程度は充実していると思う	38.6%	36.7%	38.2%
あまり充実しているとは思わない	15.7%	17.3%	13.1%
充実していない	2.0%	2.5%	2.3%
わからない	30.7%	36.2%	37.6%
無回答	5.0%	2.3%	2.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%

【「わからない」の回答を除いた回答状況】



本設問においては、「わからない」の回答割合が高く、吉川市で育つ子どもは目標に向かって充実した生活を送っていると思うかについての回答割合の比較が難しいことから、上記円グラフについては、「わからない」を除いた割合でグラフを算出しています。

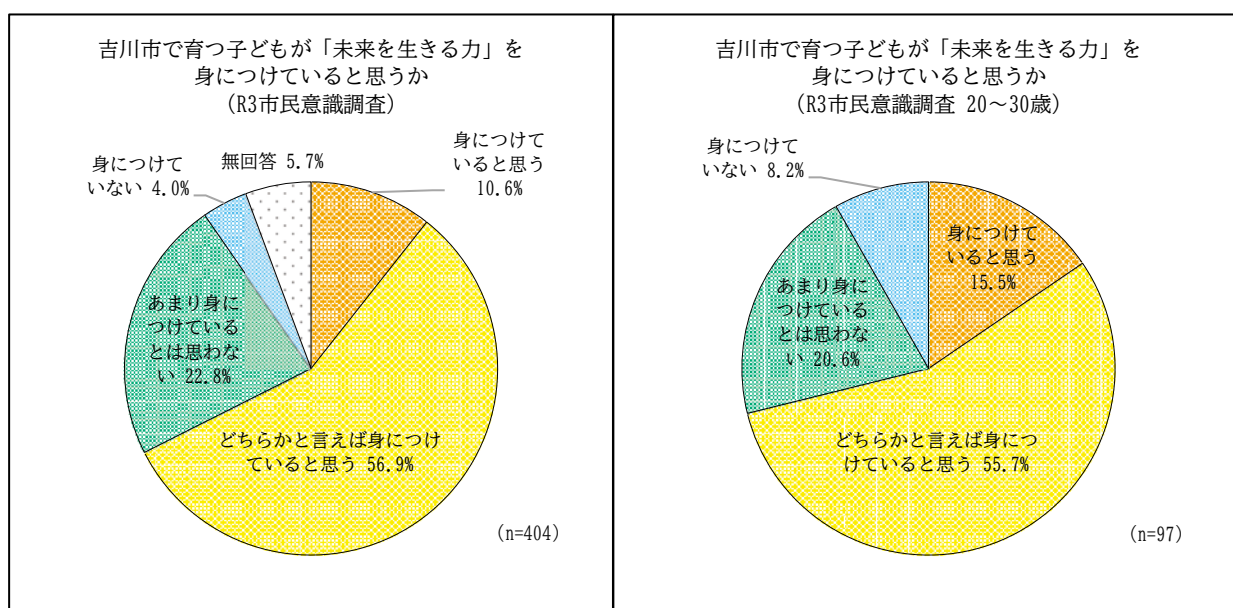
吉川市で育つ子どもは目標に向かって充実した生活を送っていると思うかという設問については、全体では「十分に充実していると思う」、「ある程度は充実していると思う」の合計が70.6%であり、20、30歳代では76.4%となっています。

設問：吉川市で育つ子どもは「未来を生きる力[※]」を身につけていると思いますか

※「未来を生きる力」とは、礼儀正しさや約束・決まり事を守るなど、規律ある生活習慣を身に付け、目的・目標に向かって、諦めず継続的に努力できることを指す。

回答項目／年度	R1	R2	R3
身につけていると思う	6.8%	6.4%	6.3%
どちらかと言えば身につけていると思う	34.0%	30.0%	33.8%
あまり身につけているとは思わない	16.1%	15.3%	13.5%
身に付けていない	2.8%	2.0%	2.3%
わからない	35.4%	43.0%	40.7%
無回答	4.9%	3.4%	3.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%

【「わからない」の回答を除いた回答状況】



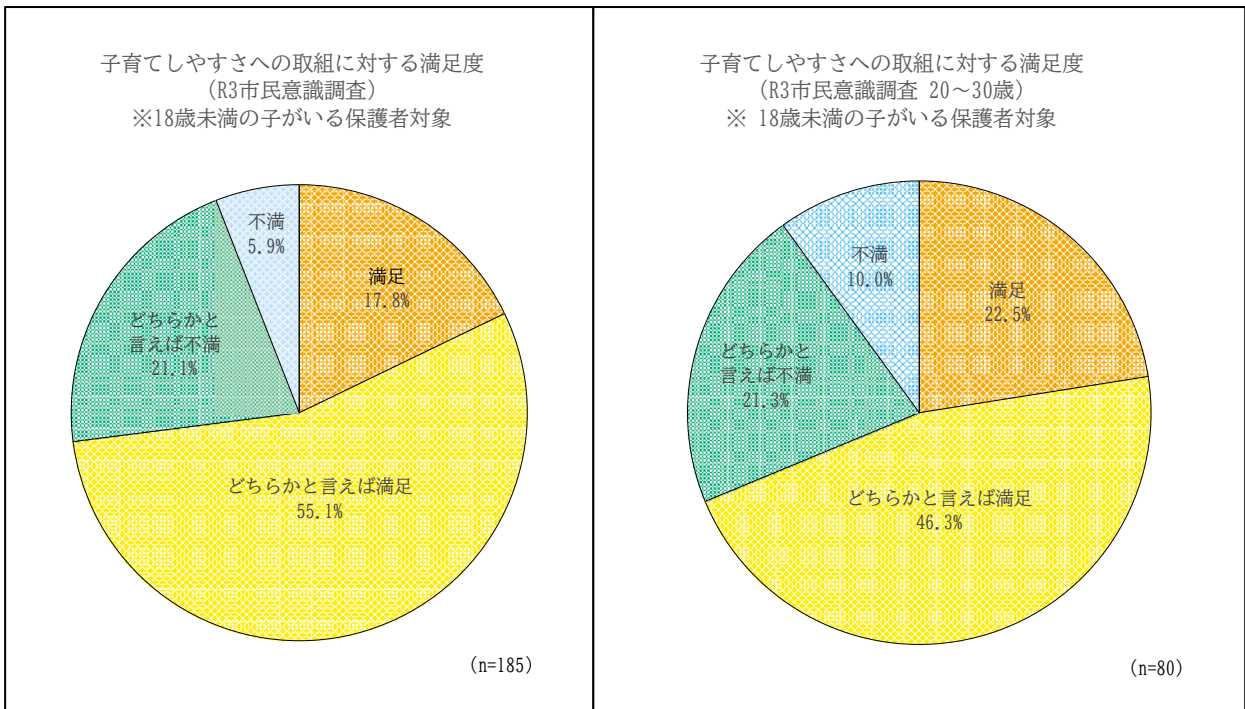
本設問においては、「わからない」の回答割合が高く、吉川市で育つ子どもが「未来を生きる力」を身につけていると思うかについての回答割合の比較が難しいことから、上記円グラフについては、「わからない」を除いた割合でグラフを算出しています。

吉川市で育つ子どもが「未来を生きる力」を身につけていると思うかという設問については、全体では「身につけていると思う」、「どちらかと言えば身につけていると思う」の合計が67.5%であり、20、30歳代では71.2%となっています。

設問：子育てしやすさへの取組に対する満足度について

【18歳未満の子がいる保護者対象】

回答項目／年度	R1	R2	R3
満足	11.3%	10.6%	17.8%
どちらかと言えば満足	50.0%	58.1%	55.1%
どちらかと言えば不満	32.5%	25.6%	21.1%
不満	5.0%	5.6%	5.9%
無回答	1.3%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%



子育てしやすさへの取組に対する満足度については、全体では「満足」が17.8%、「どちらかと言えば満足」が55.1%となっており、合わせて72.9%が満足と回答しています。

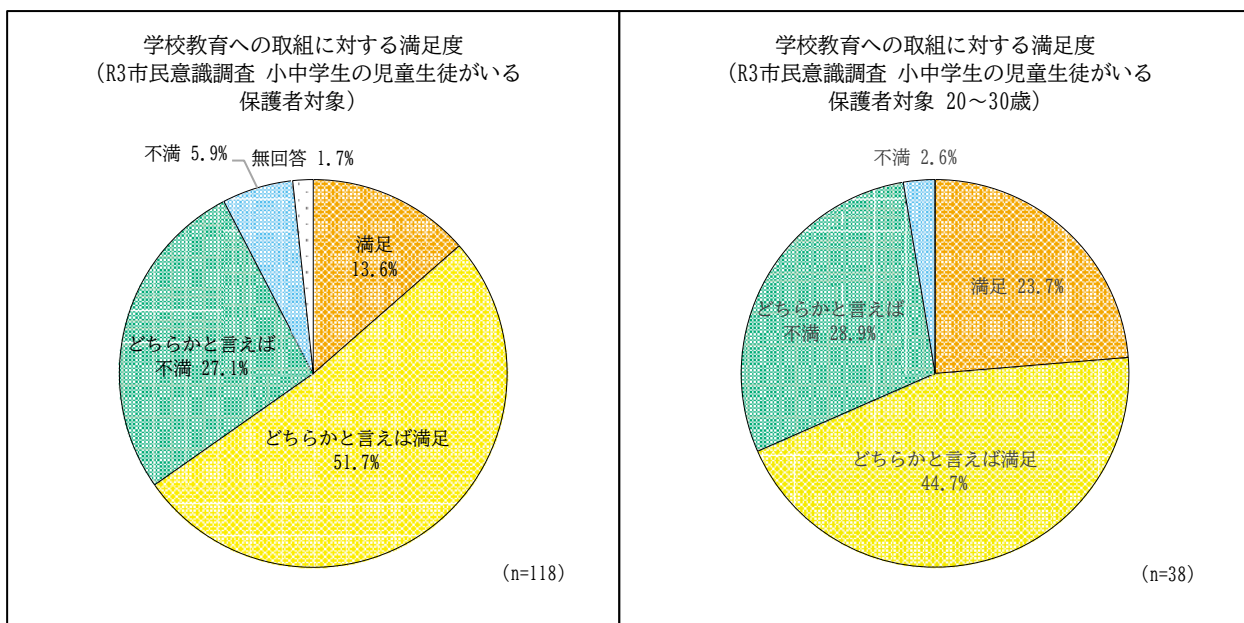
20、30歳代では、「満足」が22.5%、「どちらかと言えば満足」が46.3%となっており、合わせて68.8%が満足と回答しています。

⑦教育

設問：学校教育への取組に対する満足度について

【小中学生の児童生徒がいる保護者対象】

回答項目／年度	R1	R2	R3
満足	－	5.1%	13.6%
どちらかと言えば満足	－	48.0%	51.7%
どちらかと言えば不満	－	37.8%	27.1%
不満	－	8.2%	5.9%
無回答	－	1.0%	1.7%
計	－	100.0%	100.0%



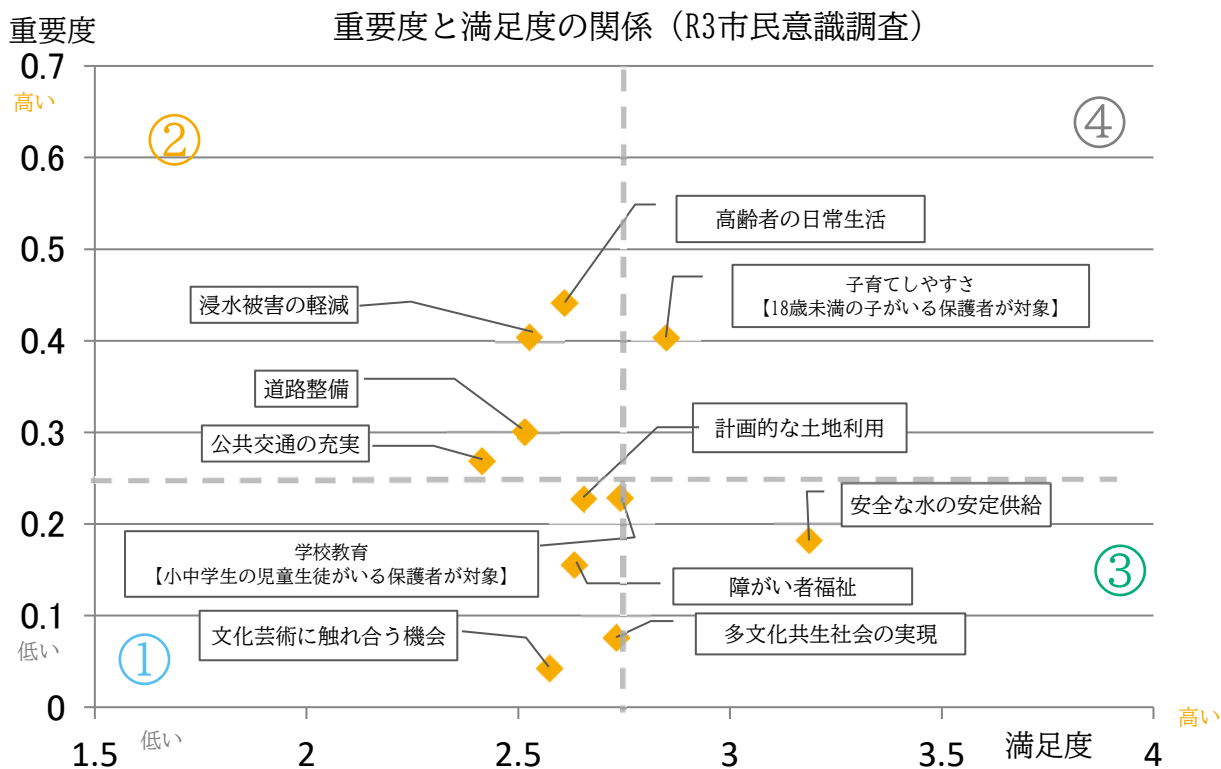
学校教育への取組に対する満足度については、「満足」が13.6%、「どちらかと言えば満足」が51.7%となっており、合わせて65.3%が満足と回答しています。

20、30歳代では、「満足」が23.7%、「どちらかと言えば満足」が44.7%となっており、合わせて68.4%が満足と回答しています。

⑧満足度、重要度の総合評価（市民意識調査）

設問：市の取組についての満足度・重要度について

満足度と重要度との関係でみると、満足度・重要度ともに高い項目は「高齢者の日常生活」、「子育てしやすさ」となっています。



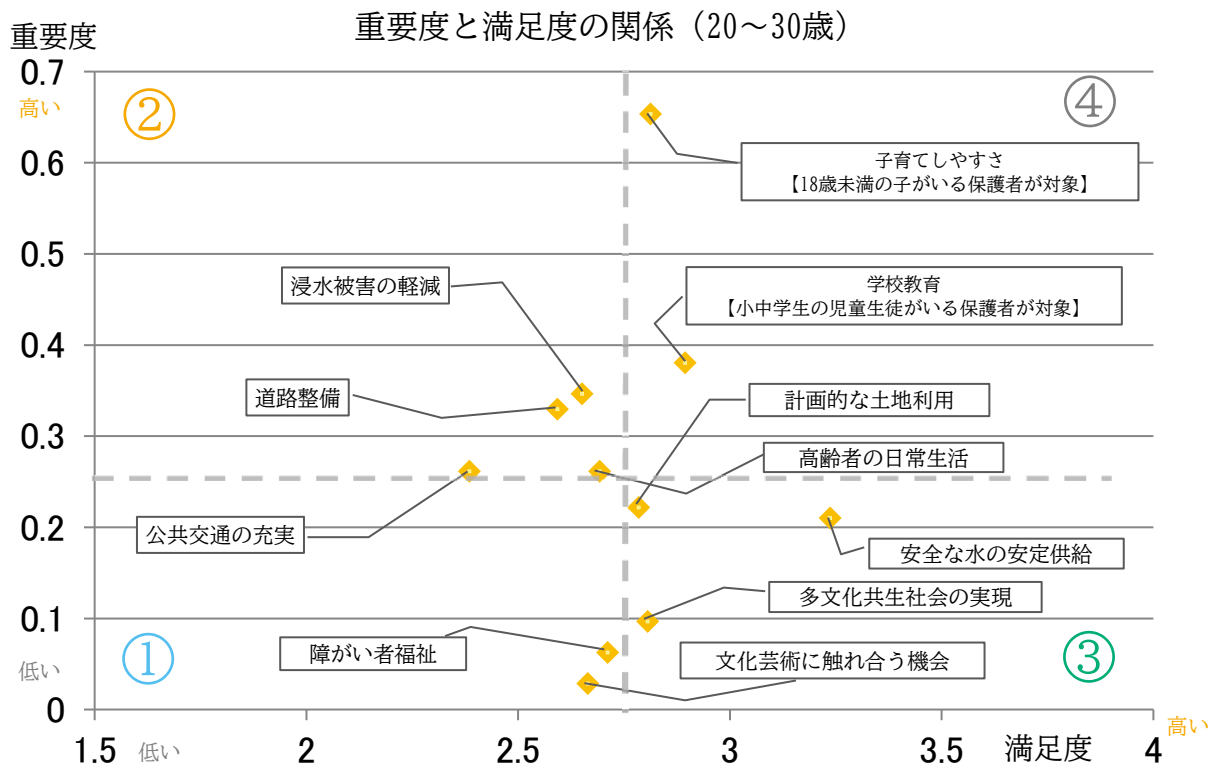
(参考)満足度と重要度の見方

- ・満足度は最低が「1.5」、最高が「4.0」となっており、2.75が真ん中となっています。
 - ・重要度は最低が「0」、最高が「0.7」で、全体の平均である0.2486が中心軸となっています。
- ① 左下は、満足度、重要度とも低い項目になります。
 - ② 左上は、重要度は高い反面、満足度が低く、最も改善が必要な項目です。
 - ③ 右下は、満足度は高いのですが、重要度は低い項目です。
 - ④ 右上は、満足度、重要度とも高い項目です。

設問：市の取組についての満足度・重要度について（続き） 20～30歳代

「子育てしやすさ」については、全体と比較して重要度が高くなっています。満足度は平均値以上ではあるものの、全体よりも数値が低くなっています。

「学教教育」の重要度と満足度は、全体では平均値以下ですが、20、30歳代では平均値以上となっています。



(参考)満足度と重要度の見方

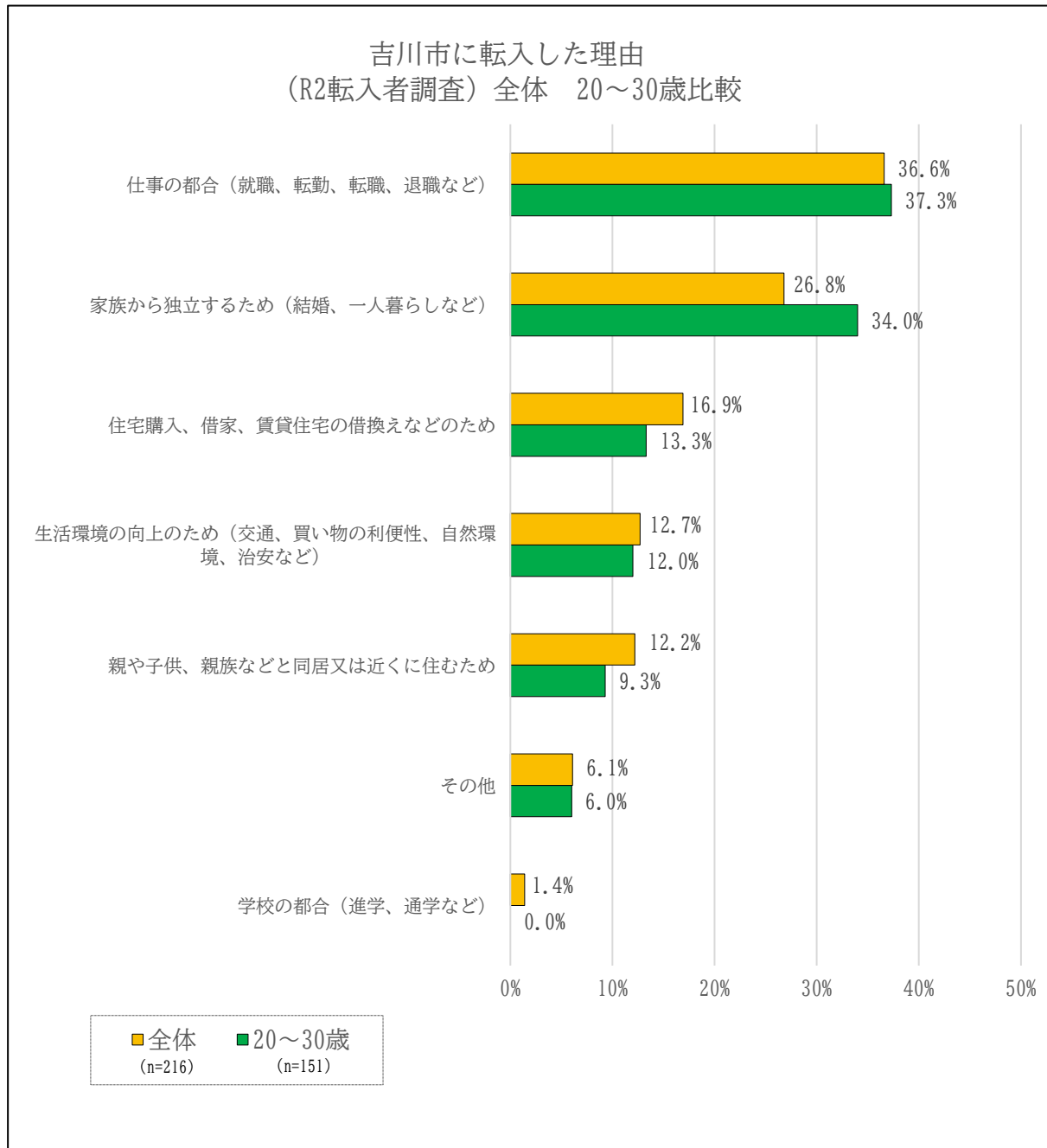
- ・満足度は最低が「1.5」、最高が「4.0」となっており、2.75が真ん中となっています。
 - ・重要度は最低が「0」、最高が「0.7」で、全体の平均である0.2593が中心軸となっています。
- ① 左下は、満足度、重要度とも低い項目になります。
 - ② 左上は、重要度は高い反面、満足度が低く、最も改善が必要な項目です。
 - ③ 右下は、満足度は高いのですが、重要度は低い項目です。
 - ④ 右上は、満足度、重要度とも高い項目です。

(3) 転入者調査

①吉川市に転入した理由

本市に転入した理由としては、「仕事の都合」が36.6%と最も多く、次いで「家族から独立するため」が26.8%で合わせて63.4%となっています。

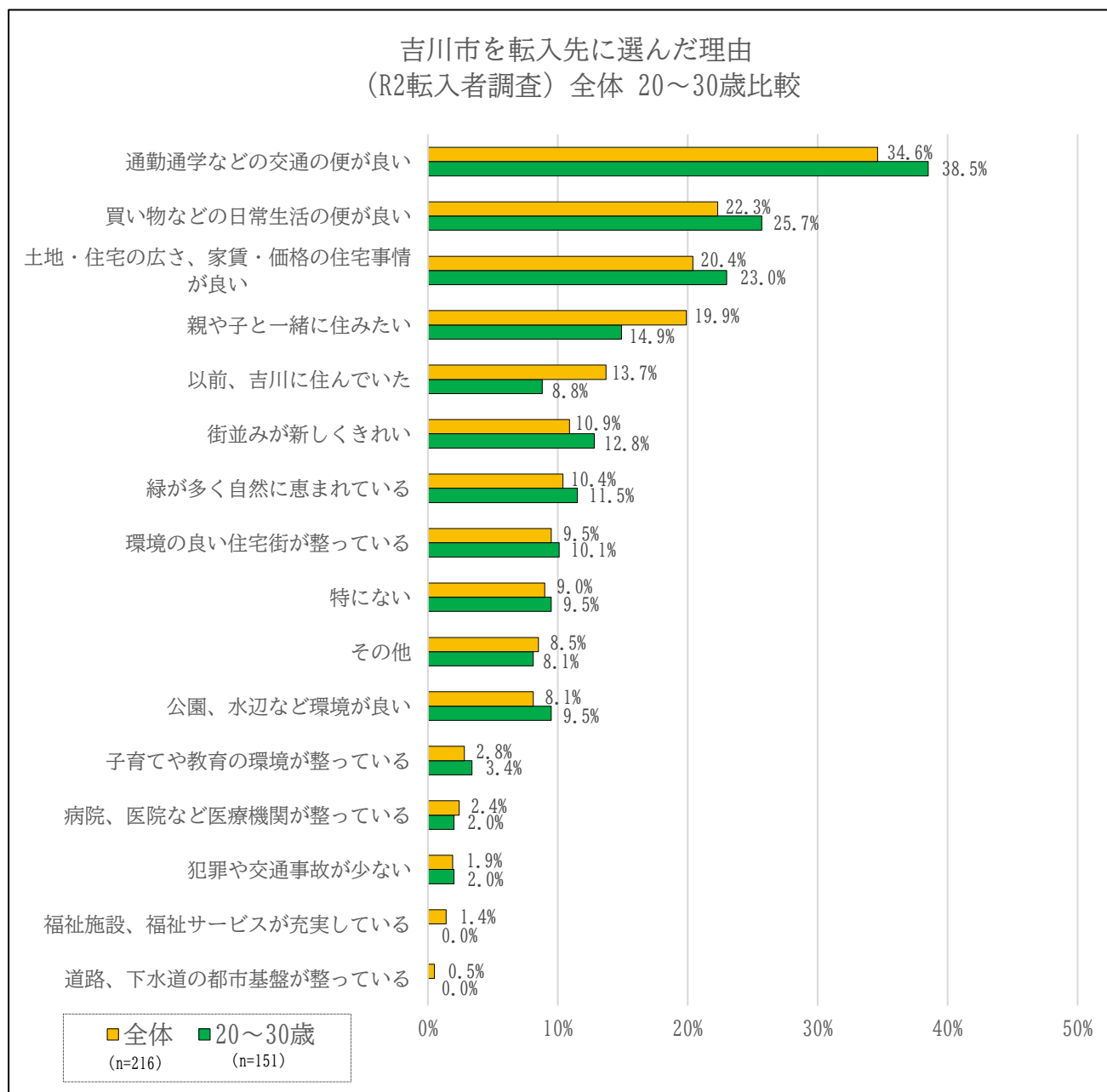
20、30歳代では、上位2つの項目は同じで、合わせて71.3%となっています。



②転入先に吉川市を選んだ理由

転入先に吉川市を選んだ理由について、「通勤通学などの交通の便が良い」が34.6%と最も多く、次いで「買い物などの日常生活の便が良い」が22.3%、「土地・住宅の広さ、家賃・価格の住宅事情が良い」が20.4%となっています。

20、30歳代では、「通勤通学などの交通の便が良い」が38.5%、「買い物などの日常生活の便が良い」が25.7%、「土地・住宅の広さ、家賃・価格の住宅事情が良い」23.0%となっています。



2 第6次総合振興計画の策定過程における市民参画からの意見

第6次総合振興計画の策定過程で行った様々な市民参画の中で、「吉川市がめざまちの姿」という設問に対して寄せられた市民や関係団体からの意見を分野ごとに整理しました。

寄せられた意見

分野	キーワード
行政全般 その他	幸せなまち／笑顔があふれるまち／ひらかれた行政のまち／ 市民満足度の高いサービスの充実したまち／持続可能なまち／ 誰もが誇れる帰りたいまち／「戻ってきたい」と思うまち／愛着や誇りあるまち
健康 生きがい	高齢者がいきいきと元気なまち／生きがいと健康にあふれるまち／ 子どもが体験できるまち／文化芸術のまち／文化スポーツが盛んなまち／ 生涯を通じて生きがいややりがいを持てるまち
福祉 つながり	共に理解し助け合えるまち／共生社会のまち／障がい者に優しいまち／ 相互扶助の精神が根付いたまち／お互いが助け合い楽しく暮らせるまち／ 差別のないまち／人と人のつながりが深いまち
子ども 教育	子どもも大人もチャレンジできるまち／子どもが安心できるまち／ 子育てしやすく安心して子どもを生み育てられるまち／教育環境に優れたまち
安心安全	誰もが安心・安全に暮らせるまち／災害が起きても安心なまち／ 犯罪や交通事故のない安全なまち
産業 賑わい	農業が盛んで地産地消が浸透したまち／豊かで賑わいのあるまち／ 若い人が働く活気あるまち／商業・観光が活性化したまち／雇用の安定したまち
自然 環境	緑のきれいなまち／田園風景を残した潤いのあるまち／ 水辺で憩える水と共生するまち／脱プラ環境先進都市／豊かな自然が残るまち
快適 住み良さ	誰もが心地よく暮らしやすいまち／仕事、余暇、医療の集結したまち／ 住み心地や利便性の良いまち／歴史と自然が自慢の住みやすいまち
市民交流	多様なコミュニティの形成されたまち／地域交流の活発な住民がつながるまち／ 外国人、多世代が交流するまち／みんなが活躍できるまち／ 行政と市民の距離が近く、市民が市政に興味を湧かすまち
都市 交通	バリアフリー化されたまち／公園の充実したまち／ 交通の充実した良好な公共空間のあるまち／田園と住宅の調和のとれたまち／ 買い物がしやすいまち

実施した市民参画

実施内容	調査期間	回答件数・参加者数
市民意識調査	令和2年6月26日～7月10日	596件
団体インタビュー	令和2年9月14日～11月6日	57団体
よしかわ若者会議	①令和2年9月30日 ②令和2年10月31日	11人
ランチミーティング	令和2年10月21日～12月17日	45人
地域ヒアリング	①令和2年10月20日 ②令和2年10月25日	21人
まちづくり掲示板	令和2年10月1日～10月26日	107件
Web アンケート	令和2年11月2日～11月11日	2,064人
自治会アンケート	令和2年11月20日～12月4日	71件

第5章 目指すべき将来の方向

1 まとめ

人口の推移や市民意識調査、第6次総合振興計画の策定過程における市民参画からの意見などについての分析や、人口増加・維持、まちの活力の向上につながるポイントなどについてまとめました。

(1) 人口

①人口増減、地区別の状況

本市では、長期にわたり人口増加が進んできました。現在も吉川美南駅東口周辺地区の開発が進んでおり、市域全体では当面、人口増加が見込まれます。

地区別の人口の推移を見ると、吉川中央地区においては、吉川中央土地区画整理事業が行われており、平成24年まで人口が増加してきましたが、それ以降は、横ばいとなっています。また、吉川南部地区においても横ばいとなっています。

旭地区及び三輪野江地区においては、人口の流入が起こりにくい地域のため、すでに人口減少が始まっています。

このように、本市の人口動態は、地区によって異なっており、吉川美南地区の人口増加が全体を押し上げる形で総人口は増加していますが、土地区画整理事業などの開発地区を除けば、すでに人口減少に転じていることが読み取れます。

②若年層、高齢化率

近年の動向を見ると、本市は若年層の転入が多く、転入超過になっています。近隣市との比較では、転入が20、30歳代に集中しているのが特徴となっています。

若年層の転入超過により、高齢化率は国や埼玉県と比較して低い状況にありますが、本市は国及び県と比較して団塊ジュニアの世代の割合が多くなっていることが特徴であり、この世代が65歳になる頃から急速な高齢化を迎えます。

また、地区別に見ると旭地区及び三輪野江地区では既に全国平均を超える高齢化率となっています。

今後、若年層の転入を促し、人口増加のピークを先延ばしできるかがポイントになっており、また、高齢化に対応できるまちづくりが必要となっています。

③出生率

出生率は、全国平均との比較では低くなっていますが、埼玉県内では高い水準にあり、近隣市町と比較しても高くなっています。

出生者数は、多少上下はあるものの、おおむね年間 600 人前後で推移しています。一方、市民意識調査における「希望子ども数」については減少傾向にあります。

引き続き、出産を希望する方が妊娠、出産、育児等に安心感を持てる環境づくりが必要です。

(2) 市民の評価

①幸福実感

市民意識調査における幸福感に関する設問では、「幸福感を判断する際に重視する項目」について、60%を超えているのが、「身体的健康」(61.7%)、次いで「家族」(58.1%)、「精神的ゆとり」(38.5%)、「家計」(34.2%)となっています。

②住み心地、定住意向

市民意識調査における本市の住み心地に関する設問では、「吉川市の住み心地を『よい』と感じる理由」について、7割以上が「自然環境の多さ」、「治安」、「街並み(景観)」、「買い物などの生活の便」、「子どもの教育環境」、「近所づきあい」と回答しています。

また、定住意向に関する設問では、76.0%が「住み続けたい・どちらかと言えば住み続けたい」と回答しています。

今後も住み続けていただくために、地域の特性である快適な住環境の維持、向上が必要です。

③転入の理由

転入者アンケートについて、「吉川市を転入先に選んだ理由」をみると、「通勤通学などの交通の便が良い」、「買い物などの日常生活の便が良い」、「土地・住宅の広さ、家賃・価格の住宅事情が良い」などとなっています。

これらの理由以外にも、本市に興味を持っていただけるよう取り組んでいくことが望まれます。

④市への愛着心

市民意識調査における本市への愛着度に関する設問では、76.8%が「愛着がある・どちらかと言えば愛着がある」と回答しています。

若年層の転出抑制とともに転入増が続くよう、市民等との協働により本市の魅力を発掘・創出し、シティプロモーションを意識しながら、戦略的に発信していくことが必要です。

⑤活力とにぎわい

市民意識調査における活力とにぎわいがあるかという設問については、30.7%が「ある・どちらかと言えばある」と回答しています。

また、国勢調査における昼間人口を見ると、平成27年には、市内で就業する市民11,449人に比べ、市外で就業する市民は21,777人と倍近くなっています。

活気とにぎわいあるまちとなるため、市内産業の活性化や、職住近接などによる働きやすい環境づくりなどが望まれます。

⑥子育て環境

市民意識調査における市の取組の重要度に関する設問で、重要度が最も高かったのは、全体では「高齢者の日常生活支援」となっていますが、20、30歳代では「子育ての支援」となっています。

また、市民意識調査の「子育てしやすさへの取組に対する満足度」や「出産しやすさ」については、第1期総合戦略の計画期間中にどちらも上昇しました。

一方、「希望子ども数」については減少傾向にあり、「子育てしやすさ」については、全体と比較して20、30歳代でやや満足度が低いことが懸念されます。

今後の若年層の転入の継続に向け、引き続き子育て環境を向上させていく必要があります。

⑦教育

市民意識調査における市の取組の重要度に関する設問で、「学教教育」については、全体では重要度が平均値を下回っているものの、20、30歳代では重要度が平均値を超えて高く、また、満足度についても、全体と比較して20、30歳代で高くなっているのが特徴です。

また、第6次総合振興計画の策定過程における市民参画からの意見では、「吉川市がめざすまちの姿」について、「子どもも大人もチャレンジできるまち」、「教育環境に優れたまち」といったものがありました。

子どもの成長にとって、教育に関する取組は重要であり、若年層の転入、定住に向け、市内外の若年層から評価・注目される教育環境の充実が必要です。

2 目指すべき将来の方向

以上のことから、市人口ビジョンにおける目指すべき将来の方向については、本市が今後、「住みたい」、「住み続けたい」と思えるまちであることを目指した以下の5点とします。

子育て

市内で安心して子どもを産み育てられる環境をさらに充実させます

20歳代、30歳代を中心とした子育て世代に選ばれ、若年層の人口増加につなげるには、子育て環境の充実が必要です。子どもを安心して産み育てられ、また、子どもが希望を持って健やかに成長できるよう、地域全体で子育て家庭を支え、安心して子育てできる環境づくりを推進します。

教育

未来のまちを担う子どもへの教育の充実に取り組みます

未来のまちを担う子どもたちが、豊かな学びの中で成長できる環境づくりが重要です。学校教育における、学力・体力の向上や、「非認知能力」の向上を目指す特色ある教育のほか、家庭や地域における教育の充実に取り組みます。

自然 快適

自然や良好な住環境などの「住みよさ」を守り、向上を図ります

本市が選ばれる理由には、地域の特性である水と緑に囲まれた自然環境や街並みの良さといった「住みよさ」があり、これらの特性を活かし、維持・向上を図ります。

将来の住みよさにつながる環境に優しい取組を推進します。

共生 彩り

支え合いにより、豊かな暮らし、より良いまちを目指します

まちへの愛着感、幸福実感の向上は、定住意向につながります。障がい、性別、年齢、国籍などに関わらず、スポーツや文化芸術に触れる機会などにより、誰もが豊かで健やかに暮らせる環境づくりに取り組みます。

本市に関わる多様な関係者との協働により、より良いまちを目指します。

しごと 魅力

地域に活力を生み出し、まちの魅力の発信に取り組みます

活気とにぎわいのあるまち、安心して自分らしく働けるまちとして選ばれるため、地域の特色や強みを生かした産業振興や、多様な働き方が実現できる環境づくりに取り組みます。

流入人口の呼び込みや、関係人口の獲得を目指し、まちの魅力を発掘・創出し、市内外に発信します。

第6章 人口の将来展望

人口の将来展望については、将来人口推計を基に、今後の人口増加を確実なものとしながら、いずれ訪れる人口減少の到来に対して、人口増加のピークの先延ばしを図るとともに、可能な限り緩やかな減少としていくことを目指すものとします。

将来人口推計では、令和42(2060)年までの人口について、吉川美南駅周辺地区における人口増加の特殊要因を加味しながら、生残率や地区ごとの移動率、合計特殊出生率の仮定値を用いて算出しています。

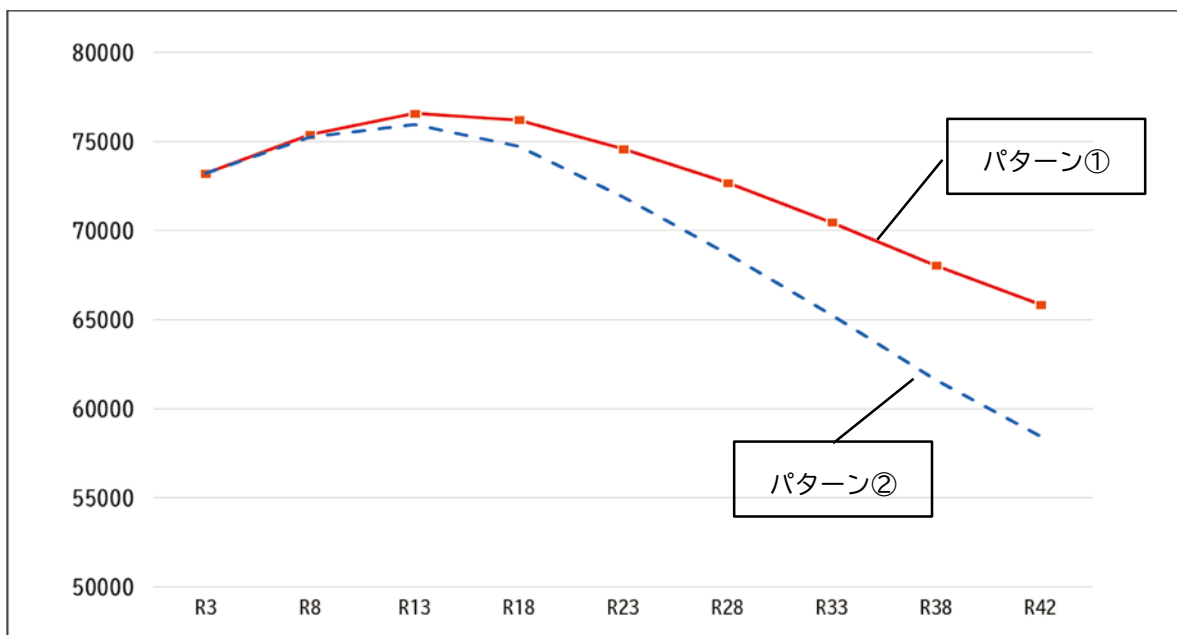
仮定値のうち、生残率については、本市の地域性による変動が考えにくく、また、移動率についても、各地区で特段の増減要因は見当たりません。一方、出生率は今後の取組によって変動が見込まれることから、現状維持のパターンと、今後の取組によって出生率を上昇させるパターンの2つのパターンを示しています。

ただし、人口の増加や維持に当たっては、出生率の向上だけでなく、転入増や転出減、健康寿命の延伸などに向けた様々な取組が必要です。

上記を踏まえた上で、人口の将来展望においては、将来人口推計において出生率が上昇するものとして算出した人口を目指すこととし、第2期市総合戦略では、「目指すべき将来の方向」に沿った取組を進めます。

なお、この人口の将来展望は、第6次吉川市総合振興計画において、令和(2032)年の目標として将来人口を77,000人と設定していることとも合致するものです。

図 将来人口推計(2つのパターン)



	R3	R8	R13	R18	R23	R28	R33	R38	R42
パターン①	73,217	75,375	76,578	76,209	74,569	72,681	70,465	68,045	65,849
パターン②	73,217	75,256	75,948	74,727	71,871	68,697	65,247	61,625	58,473



namarin
yoshikawa city

第2期 吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行年月 令和4年3月

発行・編集 埼玉県吉川市 政策室

〒342-8501

吉川市きよみ野一丁目1番地

048-982-9445(直通)

<http://www.city.yoshikawa.saitama.jp/>
